平成27年度文部科学省
「大学教育再生加速プログラム（AP）」採択事業

長期学外学修プログラム
2018年度報告書

文化学園大学

長期学外学修プログラム
平成30年度報告書

文部科学省大学教育再生加速プログラム(ＡＰ)
テーマⅣ　長期学外学修プログラム（ギャップイヤー）　報告書発刊にあたり

ご挨拶

この度、長期学外学修プログラムの平成30年度事業活動の報告書をまとめました。

本学では、建学の精神である「新しい美と文化の創造」のもと、国内のみならずグローバルにファッション分野で活躍できる人材育成を目指しております。本学のプログラム実施は2月から3月にかけて梅春学期を新設し、1・2年生を対象に科目を開講致しました。本格的実施となった平成29年度からは造形学部を加えて全学部を対象に開講科目数を大幅に増やして取り組んでおります。

本プログラムは、低学年次に長期間にわたり海外での異文化交流、国内での企業研修等の体験を行うことで、主体性や幅広い視野とグローバル創造力を身につけることを目的とするものです。さらに、高学年次の3年生を対象に海外・国内で最低8週間の長期にわたりファッションマーケティング領域でのインターン科目を開講致しました。学生はブリスベン、メルボルン、パース、ロンドン、台湾、ニューヨーク、東京で、8週間以上のインターンシップに参加することで、「グローバル創造力」の涵養につとめております。

本報告書は、その成果を学生自身が振り返る契機となることを意図しております。

最後に、本プログラム実施に当たり、ご協力、ご支援いただいた様々な企業、自治体、学校の皆さまに、心より御礼申し上げます。

平成31年4月

文化学園大学
理事長・学長
濱田　勝宏

目 次　インターンシップ研修報告書

[国内プログラム]
[梅春] 和紙と漆でものづくり(飯山)　日本の伝統工芸を見て、知って、体験する …… 7

01 造形学部 建築・インテリア学科 …… 8
02 造形学部 デザイン・造形学科 …… 9
03 現代文化学部 国際ファッション文化学科 …… 10
04 造形学部 建築・インテリア学科 …… 11

[国内プログラム]
[梅春] 素材からの商品企画(東京新潟) …… 12

01 服装学部 ファッションクリエイション学科 …… 14
02 服装学部 ファッション社会学科 …… 15

[国内プログラム]
[梅春] 染めによる着物デザイン …… 16

01 服装学部 ファッションクリエイション学科 …… 17
02 服装学部 ファッションクリエイション学科 …… 18
03 服装学部 ファッションクリエイション学科 …… 19

[国内プログラム]
[梅春] オーダーファッション(東京岩手)　―個対応の服づくり、店頭と工場― …… 20

01 服装学部 ファッションクリエイション学科 …… 21
02 服装学部 ファッションクリエイション学科 …… 22
03 服装学部 ファッションクリエイション学科 …… 23

[国内プログラム]
[梅春] カットソーの製造現場(東京山形) …… 24

01 服装学部 ファッションクリエイション学科 …… 25
02 服装学部 ファッションクリエイション学科 …… 26
03 服装学部 ファッションクリエイション学科 …… 27
04 服装学部 ファッションクリエイション学科 …… 28
05 服装学部 ファッションクリエイション学科 …… 29

[国内プログラム]
[梅春] ハイブランドの製造現場(千葉)　高級フォーマルウェアの仕立て技術を学ぶ … 30

01 服装学部 ファッションクリエイション学科 …… 31

[国内プログラム]
[梅春] ファクトリーブランド(東京山梨) …… 32

01 服装学部 ファッションクリエイション学科 …… 33
02 服装学部 ファッションクリエイション学科 …… 34
03 服装学部 ファッションクリエイション学科 …… 35
04 服装学部 ファッションクリエイション学科 …… 36
05 造形学部 デザイン・造形学科 …… 37
06 服装学部 ファッションクリエイション学科 …… 38

[国内プログラム]
[梅春] ハイブランドの製造現場(東京) —高級既製服の仕立て技術を学ぶ— …… 40

01 服装学部 ファッションクリエイション学科 …… 41
02 服装学部 ファッションクリエイション学科 …… 42
03 服装学部 ファッションクリエイション学科 …… 43

[国内プログラム]
[梅春] ファッション企業研修(東京) …… 44

01 服装学部 ファッション社会学科 …… 45
02 服装学部 ファッション社会学科 …… 46
03 服装学部 ファッション社会学科 …… 47
04 服装学部 ファッション社会学科 …… 48
05 服装学部 ファッションクリエイション学科 …… 49
06 服装学部 ファッションクリエイション学科 …… 50
07 服装学部 ファッションクリエイション学科 …… 51

[海外プログラム]
[梅春] ブリスベン研修 …… 52

01 現代文化学部 国際文化・観光学科 …… 53
02 現代文化学部 国際文化・観光学科 …… 54

[海外プログラム]
[梅春] シドニー・メルボルン研修 …… 55

01 服装学部 ファッションクリエイション学科 …… 56
02 服装学部 ファッション社会学科 …… 57
03 服装学部 ファッション社会学科 …… 58
04 服装学部 ファッション社会学科 …… 59
05 服装学部 ファッションクリエイション学科 …… 60

[海外プログラム]
[梅春] ニューヨーク研修 語学研修、企業研修、NYコレクション見学 …… 61

01 服装学部 ファッション社会学科 …… 62
02 服装学部 ファッション社会学科 …… 63
03 現代文化学部 国際ファッション文化学科 …… 64
04 現代文化学部 国際ファッション文化学科 …… 65
05 現代文化学部 国際ファッション文化学科 …… 66
06 現代文化学部 国際ファッション文化学科 …… 67
07 服装学部 ファッションクリエイション学科 …… 68
08 服装学部 ファッション社会学科 …… 69

[海外・国内プログラム]
グローバルファッションマネジメント実習 …… 70

01 服装学部 ファッション社会学科 グローバルファッションマネジメントコース …… 71
02 服装学部 ファッション社会学科 グローバルファッションマネジメントコース …… 72
03 服装学部 ファッション社会学科 グローバルファッションマネジメントコース …… 73
04 服装学部 ファッション社会学科 グローバルファッションマネジメントコース …… 74
05 服装学部 ファッション社会学科 グローバルファッションマネジメントコース …… 75
06 服装学部 ファッション社会学科 グローバルファッションマネジメントコース …… 76
07 服装学部 ファッション社会学科 グローバルファッションマネジメントコース …… 77
08 服装学部 ファッション社会学科 グローバルファッションマネジメントコース …… 78
09 服装学部 ファッション社会学科 グローバルファッションマネジメントコース …… 79
10 服装学部 ファッション社会学科 グローバルファッションマネジメントコース …… 80
11 服装学部 ファッション社会学科 グローバルファッションマネジメントコース …… 81
12 服装学部 ファッション社会学科 グローバルファッションマネジメントコース …… 82
13 服装学部 ファッション社会学科 グローバルファッションマネジメントコース …… 83

文部科学省大学教育再生加速プログラム(ＡＰ)
テーマⅣ　長期学外学修プログラム(ギャップイヤー)　事業概要

クリエイティブ・ファッション分野はグローバル化が急がれる領域です。本学は、「新しい美と文化の創造」を建学の精神とし、日本国内にとどまらずグローバルに活躍できる人材の育成を目指しています。

このためには、グローバル意識を持たせるような教育が不可欠であり、大学入学後早期(1・2年次)に中長期にわたる異文化を知る海外学外学修や我が国の伝統や文化を理解する国内学外研修が有効だと考えられます。しかし、中長期間をとってカリキュラム化することは現在の学事暦では困難です。

そこで、学事歴を考慮した上で、平成28年度から、後期試験終了後(2月中旬)から春期休暇(3月中旬)までの期間の約1カ月を「梅春学期」として新設しました。

1年次及び2年次を中心に集中的な学外体験プログラム(「梅春科目」)を開講し、さらに、3年次により専門的な学外学修プログラムを提供することで、ファッション分野における「グローバル創造力」の養成をすすめています。

国内プログラム

[梅春] 和紙と漆でものづくり(飯山)

日本の伝統工芸を見て、知って、体験する

◎ 授業概要

長野県飯山市は日本のふるさとの原風景が色濃く残る地域であり、「内山紙」と「飯山仏壇」の二つの伝統工芸品がある。この授業では、紙漉きや仏壇づくりに用いられる漆芸、蒔絵、彫金といった伝統工芸の技法を職人に直接指導してもらうとともに、これらの技法を用いた商品等のデザインにチャレンジする。

伝統の技や職人のものづくりに対する考えに触れ、グローバル化が進む中で「COOL JAPAN」を世界にむけて発信できる力を身につけたい。

◎ 到達目標

本学の長期学外学修プログラムはコミュニケーション力、伝統・文化理解力、グローバルキャリアデザイン志向をもった「グローバル創造力」の育成を目的としている。

(1) 「内山紙」の紙漉き体験を通して、和紙がどのようにできるのかを理解するとともに、和紙職人のものづくりに対する思いを感じることができる。

(2) 「飯山仏壇」の彫金、蒔絵、漆芸、木彫などの体験を通して、仏壇がどのようにできるのかを理解するとともに、和紙職人のものづくりに対する思いを感じることができる。

(3) 伝統の技や職人のものづくりに対する考えに触れた上で、「COOL JAPAN」を世界にむけて発信できるデザイン企画をすることができる。

(4) 自分の企画についてプレゼンテーションすることができる。

(5) 自分自身のキャリアデザインを考慮し目的意識をもって参加することができる。

(6) ＡＰプログラムでの経験を通じて今後の大学生活での学びへの応用や卒業後のキャリアについて考えることができる。

◎ 期間／スケジュール

研修日程：研修期間2019年2月12日～ 3月7日　4週間

	Mon	Tue	Wed	Thu	Fri	Sat	Sun
Week 1 【事前】		2月12日 ・オリエンテーション	2月13日 ・都内フィールドワーク	2月14－15日 ・伝統工芸を生かした商品リサーチ			
Week 2 【現地】	2月18日 ・移動	2月19－22日 ・飯山仏壇に関わる技術を学ぶ ・箔押し／彫金／木彫／蒔絵などの体験				・休暇 自由行動	・休暇 自由行動
Week 3 【現地】	2月25－27日 ・内山紙に関わる技術を学ぶ ・紙漉の見学と体験			2月28－3月1日 ・飯山仏壇、内山紙の技術を活用したデザイン企画とプレゼンテーション		3月2日 ・移動／帰着	
Week 4 【事後】	3月4－5日 ・自宅学習(現地学修の振り返り)		3月6－7日 ・報告書、プレゼンテーション資料の作成と報告会				

◎ 成果と課題

参加学生は、飯山仏壇、内山紙といった伝統工芸を職人(伝統工芸士)から直接、指導してもらう体験を通じて、技術の高さを知るだけでなく人柄の温かさにも触れ、また対話することで、ものづくりに対する想いを感じるとともに伝統工芸の置かれている状況や諸問題(ライフスタイルの変化や後継者不足等)についても理解することができた。

伝統工芸士は、技術を身近な道具に転用することを同技術を生き長らえさせる方途と見ているが、アイデアに窮することが多い。一方で学生は、技術の習熟にはほど遠いが、魅力を知って身近なものに転用する着想においては時に面白いものを生み出し得る。学生の持つアイデアを、技術の特質を知悉する工芸士が形にする、という連携が幾つかの商品発想に結び付いている事実は、同事業の成果と言って良い。

課題として、長期に渡り共同生活をする中で、日々の体験や得られた着想について学生同士で議論をし、その結果を作品に反映される形へ発展させていくことがあげられる。今後は、それが可能となる仕掛けを教員サイドで準備したい。

1 履修の目的・目標

このプログラムを履修した理由は伝統技術を体験して理解して発信したいと考えたからです。留学生である私は、日本に来てずっと東京で生活しているので伝統技術をみる機会がそれほどありません。この授業に参加することで様々なことが知られると思いました。

私は建築コースを選びました。建築の外観だけではなく内装にも伝統的なものを溶け込ませる方法を考えたいと思っています。

2 研修で最も印象にのこったことについて

研修で最も印象にのこったことは職人達が伝統的な技術を現代社会と繋げたいとかんがえていることです。これによって伝統的な技術 が保存されるからです。たとえば、鷲森さんは仏壇の彫金だけではなくほかの仕事も受けます。彼は工房の入り口に ショーウインドーを並べています。いろんなアクセサリが置かれており、鷲森さんは女の子はこのような精巧なものが好きだと言っていました。藤沢さんも鷲森さんとおなじく、アクセサリもつくっています。彫刻の森さんのところで体験した時はiphoneのスピーカーをつくりました 。阿部さんのところで研修したとき彼は内山和紙の丈夫な特徴を利用して名刺入れや筆箱などを挑戦してつくりました。現代では色んな技術がなくなってしまい技術を探す可能性もないと聞きました。職人は伝統技術を保存したいと考えています。

3 研修を通して気づいた事・学んだこと

彫金では自分の描く線にそってスパチュラを銅版をたたきました。難しい作業ではないのですが小さい絵を完成させるのに一日の時間が必要でした。私は草花の絵を選びましたが、葉のエッジと茎の太さによって打つ力も違います。先生の作品を見た時、草花は生きていると感じました。先生と同じようには、簡単にはなれないとわかりました。

和紙で制作は紙にしたらいいと思います。自分は姿勢がわるいので紙が引っ繰り返りました。紙を10枚作り終わると腰がおれそうでした。先生はこれではだめだと笑って言いました。手すき和紙は薄い紙を作るのに4年以上の経験が必要だそうです。一つ一つの伝統技術の学習の過程はただ根気強いだけではなく、技術を研鑽することが必要です。

4 今後の学生生活に生かしたいこと

建築・インテリア学科の授業構成は一つ一つの課題を通して私達の考えをさらに成熟させます。異なる課題は新たな挑戦です。新しい問題にぶつかった時は努力して克服しなければならないです。2年生になって、課題をするときは毎回自分に新しい目標をきめてやろうと思います。

最後の二日間に自分の企画書を提案した際に自分の問題に気付きました。私は「蒔絵と彫刻のラジオ」を提案しましたが他の人の提案と違って実現性についての考えが足りませんでした。物の制作コストは人力と時間とお金によって決まります。また完成すれば売るための宣伝費用がかかりと売れ残る場合もあります。建築企画も同じ問題があると思います。デザインする場合実現性の問題を考えなければならないです。

1 履修の目的・目標

コラボレーション科目はファッション関係の科目が多くあり、自分の学びたかったった造形・デザイン関連の科目がなかったが、この「和紙と漆でものづくり」の科目を見つけ、昔ながらの伝統技術を学ぶことで、いい刺激になると思ったし、知識として取り込めば自分が何かを作るときにも、この研修で学んだことを生かすことが出来るのではないかと思ったため、履修しました。

2 研修で最も印象にのこったことについて

昔ながらの伝統工芸を受け継いでることもあって、基礎作業のほとんどが手作業で行われており、特に蹴り彫りに関しては思いのほか肉体労働で大変だった。だが作っていくうちにたちまち形になっていく様子には感動を覚え、できたときの達成感も強く感じられた。また、飯山の伝統技術でもある仏壇や内山紙などの技術をつかい、新しいものを作ろうとする気持ちには感銘を受けた。飯山の仏壇技術のひとつである木彫りの技術でスマホスピーカーを作る発想が面白かったし、内山紙などにおいても、和紙に含まれる繊維を使って布を作り、クッションや服、バックなどを作ったり、型番に繊維を流し込むことで一つの立体物を作ることが出来たりと、和紙の汎用性の高さにはおどろかされた。

3 研修を通して気づいた事・学んだこと

飯山の伝統技術でもある仏壇や内山紙などの技術をつかい新しいものを作る際には、ただ昔のものを守るだけではなく、現代における需要を意識しながら、それぞれの特性を生かそうとする姿に感銘を受けた。特に驚かされたのが、和紙の汎用性の高さで、和紙のもととなっているのは、木の繊維と接着剤、それと水をあわせたもので、最初は紙を作る技術だけだったものが、繊維を柔らかくすれば布のように作れたり、繊維は重ねるほど固くなり、立体物を立てられるほど頑丈なものを作ることができ、工夫次第で強度や質感を変えられることで制作物の幅が広がるのが和紙の魅力だと思った。また紙を普通に加工するだけでもおしゃれな照明家具などもできたりと、伝統技術としてだけでなく紙としての汎用性あるからこそより自由度が高いと思った。

4 今後の学生生活に生かしたいこと

履修目的にも書いた通り、知識として取り込み自分が新たに何か作ることになったときにこの研修で学んだことを生かしていきたいと考えており、特に仏壇技術のひとつである木彫りの技術でスマホスピーカーを作ったり内山紙などにおいても、和紙に含まれる繊維を使ってバックなどを作ったり、既存の作品を通じて、伝統的な技術受け継ぎながら日々新しいものを生み出そうとする姿勢は、造形学部に所属する自分にとってはとても良い刺激になった。また今回の授業を通じて伝統工芸の持つ意外な側面やに気づけたことや、それらを使って新たな企画を作れたことは大きな収穫だったと思う。仏壇や内山紙のこれまであまり知られていなかった特性を用いることができたらと考え、この経験を活かして、新たな作品を作ることが出来たら、感動もひとしおだと思う。

1 履修の目的・目標

履修した理由は２つある。１つ目は、日本の伝統文化について１日だけではなく数日かけて深く学びたいと考えていたためである。また、飯山は１年次にフレッシュマンキャンプで訪れた地域であるため、その文化・伝統工芸を知りたいと思ったからである。２つ目は、和紙や仏壇がどこの家庭にもある、とは言い難い時代にあってどのように商品を展開しているのかを知るためである。

2 研修で最も印象にのこったことについて

研修で最も印象に残ったことは、私が思っていた職人のイメージと実際の雰囲気が異なっていたことである。私がイメージしていたのは寡黙な職人像であったが、実際は気さくに話しかけてくれた。普段できない体験をするため、自分は緊張していないつもりでもきっと緊張していたはずだ。その自分では気が付けない緊張を、会話することによって解いてくれたのだと感じた。事務的な作業をするにしても、作品を制作するにしても自然体ですることが最も良い方法であると思う。また、会話をすることによってさまざまな情報を得ることができ、当初の目的以外の場所にも足を運ぶ可能性が広がった。職人も、興味がある人からの声によって良いアイデアが浮かぶ可能性もあり、ほかの地域の人に話すことによって様々な人に商品が知られる機会になるだろう。

3 研修を通して気づいた事・学んだこと

５つの伝統技術に関してそれぞれ学んだことを記す。１つ目の彫金では、たたく角度や強さによって表情が異なり、ただ点で線を描くだけでなく動きのある線にできる。２つ目の箔押しでは、金箔は重なって付くことはなく、形によって大きさや太さを調整する。３つ目の木彫では、削るだけではなく穴をあけることができ、木の種類によって力加減が異なる。４つ目の蒔絵では、筆で描いて終わりでなく筆で接着剤をつけその上に金箔を蒔くことで完成する絵である。唐草模様や七宝文様、浮世絵、水墨画などからもインスピレーションを受けている。５つ目の和紙では、縦振りと横振りをほぼ同じ回数行うことで強い和紙になり、紙つぎでは４８枚の和紙を１mmずらし糊をつけつなぎ合わせていく。共通点はどの作業も繊細で丁寧に行うことで、良いものが作られているという点である。

4 今後の学生生活に生かしたいこと

便利なものや嵩張らないもの、長期の保存ができるものなどが求められる現代において、新しい素材や技術などが日々発展している。そして、先人たちが生活の中で築き上げた知恵は今も便利で日常生活において使用されている。新しいものが出てくるとそちらに目を向けてしまいがちだが、昔ながらの技術にも目を向けていくべきであると感じた。最新の素材や技術と先人たちの知恵をうまく組み合わせることによって、新しいものを作り出していけると考える。０から１を作り上げることは難しいが、１から２にすることなら多くの人が行えるかもしれない。できたものを発信していけば、そこからまた誰かが新しいものを作ることができるだろうと考える。ＳＮＳで気軽に発信できる現代だからこそ、体験したことや考えたことを発信していくべきだと思った。何事にも臆さず、チャレンジしていくことで自身の視野が広がることを改めて感じた。

1 履修の目的・目標

この授業を選択した理由は、伝統文化についての理解を深めたいと言うのが大きい。なぜなら、私は元々伝統的なもの、日本らしいものが好きだからである。また、まだ将来について具体的な構想はないにしろ、可能であれば伝統文化にずっと触れていたいと思うし、その興味を自分の中で昇華させ、今後専門科目で学修する製作の場面で個性にしていきたいと思ったからである。

2 研修で最も印象にのこったことについて

私が今回の研修で最も印象に残ったのは、阿部製紙と飯山手すき和紙体験工房での和紙に関する体験だった。勿論、最後に体験した場所と言うのもあるが、何より印象に残った理由は、それぞれの場所で見せてもらった色々な商品が一番の理由だろう。今までも広告などで和紙を利用した商品を目にしたことがあり、和紙の利用され方は何となく知っていたが、あまりに漠然としたもので、具体的な知識は全くと言って良いほど無かった。和紙を使った鞄やネクタイ、ブックカバーやキーホルダー、財布やクッション、名刺入れやティッシュカバーなど、今回見せて頂いた様々な品物は目新しく新鮮で、自分は人より伝統文化に興味があると思っていたが、その知識の浅さに自分自身驚いた。同時に、こうした伝統工芸品等の技術に関心とこだわりをもって考え続ければ、ここまで多くの発想が生まれるのかと驚いた。

3 研修を通して気づいた事・学んだこと

今回の授業で学んだことは大きく分けて「企画面で気づいたこと」と、「学びとして得られたこと」と二つある。

まず、企画面で気づいたことの一つ目は、飯山仏壇の技術の体験をして感じた「それぞれの技術が装飾性が高く、デザイン性が重視される品物に使いやすい」と言うこと。二つ目は、内山紙についての体験を通して改めて知った「和紙は加工しやすく、付加価値もつけやすいため、汎用性が高い」と言うことだ。

そして、学びとして得られたことの一つ目は、「今まで漠然としか知らなかった伝統工芸品の製法や用途を知ることが出来た」と言うこと。二つ目は、「伝統技術の各工程や加工方法等が、どんな効果をもたらすか知ることが出来た」と言うことだ。三つ目はやはり、「実際に体験してみてようやく分かることの方が圧倒的に多い」ということ。そして四つ目は、上記と重なるが、「伝統工芸品等の技術を関心とこだわりをもって考え続ければ、様々発想が生まれる」と言うことである。

4 今後の学生生活に生かしたいこと

今回のコラボレーション科目に参加して気づいた自分の課題は、今回伝統工芸品を使った様々な商品を見せていただいたことにより認識した「自分の知識の浅さ」である。伝統文化に興味があると思っていても、実はその知識は非常に漠然としたもので、実際は現地へ赴き、それぞれの伝統技術を体験してようやく分かることの方が圧倒的に多いのである。当然理解しているつもりだったその事実を、今回のコラボレーション科目で改めて感じ、「知っているつもり」の不確かさを認識した。

それを踏まえ、今後は以前から興味があり、既に調べたりしたことがあるモノやコトだとしてもそれで満足せず、可能であれば現地へ赴き、実際にその技術や実態に触れ、その上でその経験を企画や製作に昇華させて行こうと思う。

国内プログラム

[梅春] 素材からの商品企画(東京新潟)

授業概要

本講座では、アパレル業界における布地の製造、企画、生産、販売までの一連の流れについて、実際の現場を学び体験し、その成果としてオリジナルのテキスタイルで商品企画を行う。マツオインターナショナル株式会社(東京)で、企画書や生産のプロセスを学び、また販売方法や戦略などについて実店舗で見学を行う。特に布地の製造にていては、株式会社匠の夢(新潟)で素材から学び、実際に布地が織られる現場を見学する。また、織機を用いてオリジナルのテキスタイルを製作する。その他に、新潟県見附市でニットの製造工場や布地の整理加工業などの工場見学から産地を学ぶ。最後に、学んだ知識を生かし、オリジナルテキスタイルから商品の企画書、商品製作、最終プレゼンテーションを行うことで実際のアパレル業界の流れと、もの作りの現場を理解する。

到達目標

商品企画、生産、販売の現場について研修や実店舗見学などから商品プロセスをより深く理解する。織物について、素材からテキスタイルデザインまでを深く学び、伝統的な技術から最先端の見せる生産現場を視察する。また、研修で得られた知識や体験を生かし、商品企画、製作、最終プレゼンテーションを行う。この一連の流れから、日本のモノづくりの現場を理解し、自らの思いや考えをまとめ、発信する力を養成する。

期間／スケジュール

第1・2週：株式会社匠の夢(新潟)で素材からテキスタイルに関する講義や、実際に布地が織られている現場を見学し、糸から反物への製造過程を学ぶ。また、オリジナルでデザインした布地を製作する。産地である新潟県のニットの製造業や整理加工専門の企業等、工場見学を行う。

2・3・4週：マツオインターナショナル株式会社(東京)で企業、ブランドについての概要説明、企画・生産・営業・管理部門についての研修、また実店舗見学を行い、アパレル企業の仕事内容や販売の現場を知る。また、実際に商品企画を行い、企画書、商品製作、プレゼンテーション資料の作成を行う。商品企画では、ディスカッションを繰り返し、商品の改良や人に伝わるプレゼンテーションスキルを学ぶ。また、アパレルに関する全般の内容について課題を取り上げ、ディスカッション形式で自ら考え、人に意見を伝えるという姿勢を学ぶ。最後に研修の集大成として、商品企画プレゼンテーションを行い、企業の方等に意見を頂き総まとめを行う。

成果と課題

企業研修を終え、学生から以下のような学びや感想が挙げられた。

・日本のものづくりの素晴らしさをもっとたくさんの方に知っていただけるように発信していきたいと思った。
・プレゼンテーションしたことで人前に立つことに少し慣れ、伝えたいことをより伝えられるようにしていきたいと思った。
・物事をポジティブに考えて、まだ自分が知らないことをたくさん学んで色々なことに挑戦し、今以上に成長できるようになりたい。
・授業では体験できないようなことができた。
・ものづくりの奥深さを知ることができた。商品を作るのもたくさんの方の力があるからこそ出来上がるとともに、そのなかでの各分野の方の匠な技があることで、より良いものが作れると感じた。お客様により良いものを作り、どうしたらたくさんの人に手に取ってもらえるかを考えると、使用する素材やコスト、形を理想に近づけることは簡単なことではないのだと感じた。
・現場の方が「大変だけど楽しい」とおっしゃっていて、お仕事を楽しみながらすることで、さらに良いものが出来ていくだと思った。
・人間としても学んだこともあり、ポジティブに考えることで視野が広がり、色々なものに興味を持ち、実際に見ることで新しいことを発見でき自分を成長させてくれると感じた。
・自分でテキスタイルデザインを考えることが意外にも難しかったが、布地になるととても愛着が湧き、嬉しさと感動でい

っぱいになった。

・産地ツアーでモノづくりの現場を見たことで、今まで以上に自分の服を大切に扱いたいと思うようになった。

・アパレル業界で仕事をするには、ただ服が好きというだけでなくデザイン、パターン、品質、マーケティングなど他にも様々なことを学生のうちに学び、社会人にならなければ通用しないということが分かった。また、良いものづくりには、周りとのコミュニケーションが必要不可欠で、様々なものに興味を持ち感性を磨くことが大切であるとわかった。

・わたしの所属している学科では、ビジネスが中心のため、製品作りをする機会がないので、今回の研修でモノづくりの現場を知っておく必要があると感じた。何年経っても今の気持ちを忘れないようにしていきたい。

以上のように、この研修を通して、実際のアパレル企業の現場を知るという実体験は学生にとって大きな教育効果が得られた。また、将来を具体的に考えるきっかけにもなった。今後の課題としては、この体験から学んだ知識や感動をどう生かし、持続させるのか、大学の教育カリキュラムでその方法を模索する必要があると考える。

1 履修の目的・目標

新潟県にはよく旅行に行っていて、その時に毎回、織物体験をするのが楽しみでした。今回新潟県に織物産地があると知り、素材から織物になる工程の技術を学び、自分で商品を企画しプレゼンテーションを行うという、実際に現場で経験できるところに魅力を感じました。また、企画力やプレゼンテーションなど自分の足りないところの力も伸ばすことができると思い履修を決めました。

2 研修で最も印象にのこったことについて

最も印象に残ったことは、新潟県の織物工場「匠の夢」で自分で考えたデザインの生地が作らせていただいたことです。実際に作るものを考えながら柄、柄の大きさ、配色を決めるのが服のデザインを考えるよりも難しかったです。ポットをテーマに生地をデザインしたのですが、今回は配色を変えて2種類生地を作っていただきました。実際にジャガード機で織られているところを見せていただいて、織物の組織だけで色の濃淡を変えていたり、ポットの形になっていて自分が考えたデザインが生地として出来上がっていくのにとても感動しました。2種類あわせて約5mも織っていただき授業では体験できないようなことができ製作するのがとても楽しみなりましたし、匠の夢の方や先生に生地を褒めていただけてとても嬉しかったです。

3 研修を通して気づいた事・学んだこと

今回の研修では、ものづくりの奥深さを知ることができましたし、商品を作るのもたくさんの方の力があるからこそ出来上がるとともに、そのなかでの各分野の方の匠な技があることで、より良いものが作れると感じました。デザイナーさん、パタンナーさん、品質管理の方のお話を聞いたときに、お客様により良いものを作り、どうしたらたくさんの人に手に取ってもらえるかを考えると、使用する素材やコスト、形を理想に近づけることは簡単なことではないのだと感じました。その時に皆さんが「大変だけど楽しい」とおっしゃっていて、お仕事を楽しみながらすることで、さらに良いものが出来ていくだのと思いました。また、人間としても学んだこともあり、ポジティブに考えることで視野が広がったり、色々なものに興味を持ち、実際に見ることで新しいことを発見でき自分を成長させてくれると感じました。

4 今後の学生生活に生かしたいこと

生地や加工などについて、たくさん知ることができたので今後服を作るうえで、素材の選定に生かしたり、日本のものづくりの素晴らしさをもっとたくさんの方に知っていただけるように発信していきたいと思いました。企画の考え方も身についたので、4年時のファッションショーや社会人になって企画をするときになったら、今回学んだことを実践したいと思います。プレゼンテーションしたことで人前に立つことに少し慣れたので、伝えたいことをより伝えられるように、緊張せずにしていきたいと思いました。そして、物事をポジティブに考えて、リラックスしながら、まだ自分が知らないことをたくさん学んで色々なことに挑戦し、今以上に成長できるようにしたいです。

所属学部学科 ▶ 服装学部ファッション社会学科

1 履修の目的・目標

幼い頃から母の影響でニットや織物、ファッションに興味があり、長期休暇を有意義なものにするためにも学校の授業ではやらないようなことを学びたいと思い今回のAPを履修しました。モノづくりにも興味はありますが、大学の大人数での授業ではできない企画提案や、プレゼンテーションをするのが好きなので、プレゼンテーション能力を高めるのと同時に、自分でモノづくりをすることで得られる気持ちや考えをプレゼンテーションを通して表現したり、2年時からの授業選択や、将来何になりたいかなど明確な目標を見つけられるようになりたいです。

2 研修で最も印象にのこったことについて

見附での10日間がとても印象に残っています。毎日織物のことを学びながら、最初はわからないことだらけで聞くのも初めて、見るのも初めてという状態で話についていくのに必死でしたが家から高校時代に使っていた資料を送ってもらい、旅館に戻ったらそれを見ながら勉強したりしながら徐々にわからないことを減らしていきました。そして、匠の夢ではオリジナルデザインの布地を作らせていただく事ができ、そのような経験は初めてだったのでとても感動しました。自分でテキスタイルデザインを考えることが意外にも難しく、アイデアはたくさん浮かんでくるのですが実際にその布を使ったアイテムを作るとなるとなかなかしっくりくるものがなく苦戦しました。でも悩んで決めたデザインが実際に布地になるととても愛着が湧き、嬉しさと感動でいっぱいになりました。産地ツアーでは、今までに見たことないような機械をみてこのようにして自分の着てる服が出来上がっているんだと思うと、今まで以上に自分の服を大切に扱いたいと思うようになり、勉強にもなりながら服の大切さも知ることができました。

3 研修を通して気づいた事・学んだこと

アパレル業界で仕事をするには、ただ服が好きというだけでなくデザイン、パターン、品質、マーケティングなど他にも様々なことを学生のうちに学び、社会人にならなければ通用しないということがわかりました。そして今回のインターンでデザイナー、パタンナー、品質管理、そして実際に織物を作るお仕事をされている方、MDの話を聞いて、皆さん共通しているのはお客様に良いものも、喜んでもらえる商品をつくりたい、手に取ってもらいたいということでした。お客様に喜んでいただける商品を作るには、デザインも、品質も、パターンも、値段もすべてかけてはいけない要素で、それが一つでもかけてしまうとお客様に満足していただけない。感動を与えることができないから何一つかけてはならないものであると思いました。そのような商品を作るには周りとのコミュニケーションを欠かさなかったり、様々なものに興味を持ち感性を磨くことが大切であるとわかりました。

4 今後の学生生活に生かしたいこと

わたしの所属している学科では、製品作りをあまりする機会がないので今回のインターンですべてを知っておくべきだと思ったので、デザインや縫製などの授業を取り、もっと詳しく洋服の構造や作り方を学びたいと思いました。また、ファッション社会学科ではこのインターンを受ける前のわたしのように、洋服について、アパレルについてイマイチよく理解していない学生が多くいると思うので、そのような学生に今回のことを話して少しでも興味を持ってもらったり、わたしと同じように勉強への向上心をあげるような行動をしてほしいと思いました。そしてその話をする中で、何年経っても今の気持ちを忘れないようにしていきたいと思いました。

国内プログラム

[梅春] 染めによる着物デザイン

授業概要

着物の総合生産地である新潟県十日町市にある株式会社きものブレイン社で着物の構造、染色、仕立て方やプレタ着物製造のプロセス、着物のアフターケアの理解と体験を通して日本の着物産業について体験を交えた企業研修を2週間にわたり行う。

到達目標

・着物の歴史について理解し、基礎知識を身に付ける。また、着物産業の現状について調べることで自ら問題点に気づき、ディスカッションや特別講義を通して解決策について考えることができる。
・着物の総合生産地である十日町市で伝統文化や着物に触れることで、ものづくりに対する思いを感じることができる。
・伝統的な着物の染めの技術や現代的なアフターケア技術を実際に体験し、日本の伝統文化をより深く理解することで世界に向けて発信できる力を養う。

期間／スケジュール

事前教育期間	企業研修期間	事後教育期間
2018年2月12日(火) ～ 2月15日(金)	2018年2月18日(月) ～ 3月2日(土)	2018年3月4日(月) ～ 3月8日(金)
■研修シラバス配布・会社紹介・研修流れの説明 ■特別講義・ディスカッション・着物について基礎研修	■株式会社　きものブレイン　企業研修	■研修内容の報告・ディスカッション・プレゼンテーションの準備 ■プレゼンテーション、個人報告書まとめ・提出

成果と課題

この科目の履修者は、日本の伝統文化や着物について興味・関心を持っている学生が殆どだったため、プログラムをより深く掘り下げて研修を行うことが出来た。事前研修では市場調査を行い、着物産業の現状と問題点を見つけながら、国内外に着物文化を広める方法を真剣に模索していた。和装研究所で着物の歴史とTPOに応じた合わせ方について特別講義を受け、着物に関する基礎知識を振り返ることができた。株式会社きものブレインでは、着物の製造から流通にかけて一連の流れとアフターケアを体験することができた。研修後の報告会では、着物に関する知識を幅広く学ぶことも良いが、専門的な技術を集中的に研修したいとの意見もあった。学生の希望を取り入れられるように今後も調整を行う予定である。

研修先の宿泊施設の満足度は高く、休日はスキーやスノーボードー、温泉などを楽しめることに非常に満足していた。

1 履修の目的・目標

履修した理由としては、着物自体に興味があったことと、『青柳』の工場に行って染めの体験ができるという話に関心を持ったからです。そして大学生になって初めて経験できる特有のものがインターンシップだと考えていて、大学一年生から少しでも早く社会に触れてみたいなと思ったのも今回このプログラムを履修した理由です。

2 研修で最も印象にのこったことについて

最も印象に残ったことは、工場ではほとんどのことが機械で行われているのだろうなという考えが覆ったことです。扱っている生地が繊細なものというのも一つの理由かもしれませんが、仕事の多くが手作業で行われていました。だから、各作業思った以上に時間がかかり、さらにどうしてもミスが発生しやすくなるため工程ごとに必ず商品情報の確認を行う手間もかかっていました。もっとスムーズに商品動いているのだろうと思っていましたが、実際の現場では真逆だったことに驚きました。

そして、もう一つ印象に残ったことは仕立作業が海外で行われているということです。さらに分業制で行われるため技術の精度も高く合理的に作業が進むので、日本で仕立てるよりも高品質、低予算、短納期にする事が可能になるという、良質なもの作りの生産能率を上げるための工夫にも興味を持ちました。

3 研修を通して気づいた事・学んだこと

今回の研修で学んだことは、仕事では各作業を丁寧に行うことも大切だけど、それをいかに効率良くし、どう会社に利益を出すかを考えることも重要であるということです。そして他にも一方方向なことだけをやり続けるのではなく、それに関連した新しい事業を始めることも会社を経営するにあたって必要になっていくのだと並行して学びました。

そして着物についてという面では、今回の研修先が主にアフターケアを一つの大きな事業として行なっていたので、着物はとてもデリケートで扱いが難しいということを、身をもって知れました。他にも価格、着付けの難しさ、手間などが原因で『着物利用者人口』が減ってしまっているという問題点も大きくなってきているようです。ですが日本伝統である『着物の文化』が途絶えることがないよう、管理、着やすさに考慮した商品を作ることでその文化を守っていこうとしていることも、また一つの新しい学びでした。

4 今後の学生生活に生かしたいこと

今回のプログラムでは主に企業について説明や、中でやっていることの説明だったので、そこに関しての課題点はありません。ですがプログラムを体験して、自分は技術者よりもアイディアを生んでいく仕事をしたいなと思いました。自分だけじゃなく、人の意見でもいいけど、想像の中にあるものや思いついたものを具現化して発信し、面白いと感じるもの、新しいものを作っていきたいという目標ができました。だから今は学べること、学べる時間に感謝していろんな事からたくさんのものを吸収することに専念し、そしてアウトプットもしながらいろんな経験を経て、何か表現することに関する仕事を見つけ、そこに向かって今を懸命に頑張る事がこれからの私の課題だな感じました。

1 履修の目的・目標

履修をしたり理由は海外の人々に日本の着物文化を伝えたいと思ったからです。そのためにはまず自分自身が着物の知識を身につけなければ意味がないと思ったからです。着物の染め、柄、加工の技術を実際に体験し、着物デザイン、着物の生産過程について学び、現代の着物の流行や産業を知ることを目標にしました。

2 研修で最も印象にのこったことについて

研修で行ってきたことは主に着物総合加工、インクジェット染色です。

着物総合加工ではきもののアフターケアなどを行っており私は中でも工芸修正が印象に残っています。焼け焦げ、柄切れなどを樹脂顔料や箔などを用いて柄の修正を行います。箔を入れる体験はとても楽しくて夢中になって行いました。また顔料をエアブラシで吹き付ける体験はとても苦戦しました。すぐに顔料が固まってしまい思うように吹きかけることが出来ず大変な作業だと実感しました。

インクジェット染色では、昇華転写プリントと言ったインクを気体にさせて生地にデザインを染めるプリントを体験しました。デザインはパソコン上で行うのですが画面に写っている色と印刷する紙の色、出来上がった生地の色は全て異なるので何度も試しプリントを行ないお客様の希望に沿った色をプリントします。直ぐに生地に印刷して商品ができると思っていたのですが、インクの管理や熱の温度調節などプリントを行うのに多くの工程、手間がかかっていることがわかりました。

3 研修を通して気づいた事・学んだこと

研修を通して、改めて日本の着物文化の素晴らしさに気づくことができました。全ての作業がほとんど手作業で1着作るのに多くの人の手や時間がかかっていることを間近で見て体験してわかりました。研修の前では、着物の格の事も少ししか知らなかったのですが実際に着物に触れて染め方、織の種類を学び着物の価値について多く知ることが出来ました。現在では着物に使われている伝統工芸が減りつつあると聞き、私はこの技術守るためにより多くの方々に伝え、知って貰う事が大切になっていく事だと気づきました。

また、現代は着物離れが多くなっていることに対してきものブレインさんでは簡単に着付けができる着物、帯、洗える襦袢などを開発しもっと多くの方々に着物を手に取って頂きたいと考えており、もっと私達若者が着物の幅を広げていく事が大事なのではないかと気づきました。

※たとえば、「最も印象に残ったこと」が自分にとってどのような学びや気づきであるか、など。

4 今後の学生生活に生かしたいこと

今回の研修では、初めに聞いていた研修内容と異なり自分自身でたてた目標、目的を達成することができませんでした。ですがこの研修を通して沢山の着物に触れ、きものブレインさんが行なっている事業内容を実際に見て体験をし多くのことを学びました。着物にもアフターケアが必要ということを現代の人達の多く知らないと思うので、成人式のために買った振袖を一回きりで終わらせてしまうのではなく、管理をしっかりして綺麗な状態で保管して友達の結婚式などに使っていけるように伝えていきたいと思います。

また、今までは着物の柄、種類などあまり知識がなかったのですが今回の研修を受けて着物についてもっと学んでみたいという思いが強くなりました。

今回は、残念ながら染めの体験が出来ず悔しい思いをしました。この事から改めて実際に足を運んで体験したりすることが大切だと感じました。これからは、なくなりつつある伝統工芸をもっと学んでいきたいです。

1 履修の目的・目標

この科目を履修した目的は染色を学び体験することです。染色という職業については弟子入りというイメージが自分の中にあり弟子入りだとお給料がアルバイト程度しか貰えないと聞き仕事にするのは諦めようと思っていました、この科目で染色の会社があることを知り会社での染色という仕事がどんなものか知りたかったためです。学校に居ては学べないことやできないことを体験するのが目標です。

2 研修で最も印象にのこったことについて

この研修で最も印象に残ったことは洗い張りの工程です。まず着物は絹で作られているから洗わずシミがついたらシミ抜きをする程度だと思っていたので、洗うということがまず衝撃でした。洗濯機のような機械で有機溶剤を使って丸洗いする事も出来ますが、洗い張りでは一度解いて反物に戻して水洗いをするので縫いジワなどが表にでない様修正をしたりサイズを微調整したり新しい着物のようにデザインチェンジが出来るので色々な意味で長く着られるんだなあと、着物が長くきられる理由がよく分かりました。自分も実際お母さんの振袖を着るときにお直しにかなりのお金がかかったのですが、これだけ手間がかかっていて長くきられるならと納得がいきました。

3 研修を通して気づいた事・学んだこと

この研修を通して気づいた事は自分たちが預けた着物が会社でどの様な扱いをされているのか全然知らないという事です。最も印象に残ったことで述べた様に例えば自分の着物を預けたとすると元どおりか預けた時より綺麗になってることがほとんどなので、こんなにお金かかるんだったら切るのやめようかなみたいになる人もいると思うので預ける側ももっとそこに興味を持つべきだし会社側ももっと発信していくべきだと感じました。この様なことはやはり実際に会社の中に入ってみないとわからないことなので良い学びだったと思います。あとは会社では様々な役職がありヘルプをしたりするので色々な仕事ができた方が会社で働くうえではいいことを学びました。

4 今後の学生生活に生かしたいこと

このプログラム中毎日メモを取っていたのですが、会社の方にもそこまでノート取らなくていいよと言われることが多く要点を瞬時にまとめるのが苦手なことがわかりました、要点を瞬時にまとめる技術はこの先の学生生活や社会に出てからも大切になると思うので様そこが課題です。会社も一つのチームとしてそれぞれがそれぞれに頑張りつつ協力して仕事を円滑に進めていたので今後の学生生活のショーをやるときなどに自分の仕事だけでなく周りを見ながら行動することを意識していきたい。今回は会社の中に入り会社がどういうものなのかを学び自分にはやはり会社というものが向いていないことに築けたので今後のキャリアで在院の基準としていきたい。

国内プログラム

[梅春] オーダーファッション(東京岩手)
―個対応の服づくり、店頭と工場―

◉ 授業概要

一般的に服を購入する場合、シーズンに先駆けて製造された既製服が対象になる。それ以外に、自分の体型に合わせて、好みの生地で服を注文することが出来るオーダーファッションも紳士服を中心に根強い人気を得ている。本講座では、オーダーを受ける店舗とそれを製造する工場で研修することによりメンズのオーダーファッションの一連の製作過程を理解する。研修先は、東京・新宿の株式会社福岡が経営する「ZERBINO新宿店」と岩手・二戸の「日本ソーイング株式会社岩手工場」である。

◉ 到達目標

⑴店頭においてデザイン・サイズ・生地が決定されるまでの顧客対応の過程を理解することができる。
⑵店頭から工場へ送る縫製仕様書の作成方法を理解することができる。
⑶顧客のオーダーに基づき一枚ずつ製作される工場での生産過程を理解することができる。
⑷日本の服づくりの技術力を認識することができる。
⑸自分自身のキャリアデザインを考慮し目的意識をもって参加することができる。
⑹ＡＰプログラムでの経験を通じて、今後の大学での学びへの応用や卒業後のキャリアについて考えることができる。

◉ 期間／スケジュール

研修日程：2019年2月11日(月) ～ 3月7日(木)　17日間

2/6（水） 事前説明会	2/11（月）～ 2/16（土） 研修(岩手)：日本ソーイング株式会社岩手工場、最終日／近隣工場見学
2/18（月）～ 2/21（木） 研修(東京)：ZERBINO新宿店	
2/25（月）～ 2/27（水） 研修(東京)：学外研修のふりかえり、市場調査、調査報告書作成	
3/5（火）～ 3/6（水） 事後教育：研修報告書作成、発表準備	3/7（木） 研修内容発表、報告書提出

◉ 成果と課題

・一人一着オーダージャケットを縫製したことでオーダーファッションの製造プロセスを体験しながら学ぶことができた。
・日本ソーイング株式会社岩手工場での研修、また二戸地域の近隣縫製工場を見学したことで、日本の工場が持つ縫製技術の高さやそれぞれの特色を理解することができた。
・スーツの歴史や生地の知識を習得し、オーダーファッションにおける顧客対応の過程を理解することができた。
・店頭から工場へ送る縫製仕様書の作成方法を理解することができた。
・今後は、研修先とのより細かな連携強化を進めるとともに、教育内容の充実を図っていきたい。

1 履修の目的・目標

私はオートクチュールに興味があり、このプログラムは一人一人の体型や体格に合わせてオーダーメイドでスーツを仕上げるというところから心惹かれた。オーダーメイドで服を作り上げるプロセスはどんな服にも共通することなので、将来オートクチュールや舞台衣装製作を目指していくためにも大切なプログラムになると思ったので履修を希望した。

2 研修で最も印象にのこったことについて

工場での流れ作業が私の中で最も印象に残った。工場といえば大人数で同じ作業をするという印象があったが、日本ソーイングさんでは普通の工場と異なり個人で仕事が分担されていた。それを、とても速いスピードで縫い上げていて工場で働く方々の技術力の高さに感動した。また作業がスムーズに進むようにいろんなところに工夫が施されていた。同じ作業でも多くて8人程度で動いていてそれも衣服を製作するのに欠かせないアイロン作業だった。実際に工業用ミシンで私たちが縫うと流れ作業が少し乱れることがあった。次の分担に行くまでの受け渡しや縫う速さがとても速く学校にいるだけでは体験できない縫製作業の工程を体験することができた。また三和ドレスさんでは日本ソーイングさんよりも人数は少ないが一日の生産数が同じくらいで仕事を分けて作業をすることで流していくところがとても印象に残った。

3 研修を通して気づいた事・学んだこと

研修を通して気づいたことは工場での技術力の高さ、衣服を作るということに対する自分の意識の低さだ。工場での分担作業や流れの良さは経験から得られるものだと思っている。また衣服に対する扱いも日々の積み重ねが重要だと思っているが、私の衣服について学びは3年ほどで工場の方々との技術力の差は比べなくてもすぐに分かる。工場にはベトナムの方々が学びに来ている。とても集中力が高く、早く上手に縫えるようになるためにとても努力をしていた。4日間の研修だけでもそれがとても伝わってきた。私はそこで自分の意識の低さ、未熟さを痛感した。ファッションの大学に通い毎日貴重な授業を受けさせてもらっているのにあまり「努力をする」ということができていないことに気づいた。そして、自ら積極的に衣服について縫製から知識までもっと理解を深めていかなければならないということを学んだ。

4 今後の学生生活に生かしたいこと

岩手・東京での研修を終えて、もっと衣服について理解を深めたいと思った。人が存在しなければならない理由など衣服だけにとらわれず大きな世界として工場の方や店舗の方がお話をしてくださったので将来の方向性が見えた。だが、それだけに執着せずいろんなことに挑戦してみることが大切なのだと思ったのでまずは授業から見直していこうと思う。いままでは一つ一つの授業として捉えていたことも何か共通点や比較できるものはないか、そこからすべての授業をつないでいけるようにする。とても難しいことだと思うがそれができるようになったらもっと衣服に対する理解、扱い、知識を深めることができるのではないかと思った。自分の視野が広がるのではないかと思ったのでまずは少しずつ努力をしていきたい。ファッションを学ぶ一学生として学生生活を有意義なものにしていきたい。

1 履修の目的・目標

・私達が普段着ている洋服が、工場でどのような流れで作られているのかを知る。
・既製服とオーダーファッションでは、具体的にどういうところが違うのかを知る。
・洋服について勉強しているので、服が売られていくまでの経路を知り、自分が今後どういう仕事がしたいかを考え、これからの履修選択などに役立てる。
・実際に働いている方々の話を聞き、将来の参考にする。

2 研修で最も印象にのこったことについて

4日間の岩手・日本ソーイングさんでの研修が印象に残った。普段では絶対見る事の出来ない現場にお邪魔して、1着自分のジャケットを作っていく中で自分が出来る部分の体験をさせていただき、貴重な体験ができた。生産性を落とさないために、みんなが集中してテキパキとそして綺麗に仕上げていて、圧倒された。私たちが普段着ている服はこんなにもたくさんの人の手が加わった物なのだと思うとすごい事だと思った。接客の研修では、そこで働く方々の自分の仕事に対する誇りを、お話を聞いている中で感じることができた。様々な仕事がAIなどに取って代わることが可能になってきた時代。そういう時代だからこそ、人間にしかできない「接客」とは何かを常に考えていた。お客さんとの会話、提案、一緒に考えて導き出すなど。ブランドイメージ、世界観を持ち、それを良いと思った人に売る、という考え方も、素敵だなと思い印象に残っている。いいものを売りたいという気持ちは共感できる部分があった。

3 研修を通して気づいた事・学んだこと

生産ラインに流して作ることで1着にかかる時間がとても短縮される。その反面、小さなロス時間が積み重なると後々に響き生産率に関わってくる。単純だがとても重要なことでそこで働く人達みんなが意識しないといけない事で、チームワークも大事だなと思った。毎日必ず着ている私たちの服。どこで誰が作っているのか知らなかった。自動機械などはあるが服は人の手で作られるものだった。その点ではこの仕事はなくならないな、と思ったがそれと同時に世の中に服は溢れているのに今日も作られる、裁断ではゴミが出る、着られなくなった服たちはどこへ行く？服の最期は？とも思った。服が作られる過程を今回は見ることができたが、その後も気になった。今回はオーダーファッションだったので長く着られる服たちだと思うが、ファストファッションとなるとどうなのだろうか。今後、服に関わる仕事をするなら、地球、人、服について関連付けた仕事ができたらいいなと思った。長く大事に着てもらえる良い服とはどういうものなのか。

4 今後の学生生活に生かしたいこと

今回は服が作られる流れ、販売される流れを知ることができた。そこに携わる多くの人の影が見えた。アパレル業界と言ってもたくさんの役割があると感じた。私はまだ将来どのような仕事に就きたいのか、どのような仕事がしたいのかわからない。1年間を通してもこれといったものは見つからなかった。だが、今回の研修を通してどのような仕事があるのか、自分に向いているものは？自分の興味があるものは？と実際に見て考える機会ができた。なぜこの仕事を選んだかという質問に対して、要素で選んだという回答もあった。どういう仕事がしたいのか、というよりも自分はどういう人間でどういう事が好きなのか(会話が好きなど)をまずは見つけていくのも大事な事だと思った。大学を卒業したら人生の大部分の時間を使うことになる仕事。お金を稼ぎ、生きていくためには必要なこと。残りの学生生活3年間では、さらにアンテナを張ってどんな仕事があるのかを知れたらいいなと思った。

1 履修の目的・目標

パターンオーダーのスーツ店でアルバイトをしていることから、オーダースーツについてさらに知識を付けたいという思いと実際に作られている現場を見たいという思いから履修を希望した。服を制作する時に工場ではどのような点を重視したり工夫しているのかを知り今後の制作に役立てること、服を既成ではなくオーダーで作るということの意味や既成との差を出せる部分について学ぶこと、オーダースーツの接客で心がけるべき点を学ぶことが目的である。

2 研修で最も印象にのこったことについて

最も印象に残っているのは工場の作業のスピード感である。特に、生産効率を上げるための工夫等について質問した際の「機械を止めると効率が落ちるため機械を止めないように機械のスピードに合わせられるようになるのが理想だ」という言葉はよく覚えている。実際に工場の中はかなり機械化が進んでおり、常に機械音やバキューム音が響いていて、どの工程もほとんど機械を休ませることなく行っていた。また、工程ごとの受け渡しの時間や作業内容を確認する時間をどれだけ短くできるかも生産効率を上げることにとても繋がるそうで、搬送車での受け渡しやパーツごと分けられるハンガー、バーコードで内容が分かるようになっているなど工夫が多くあった。さらに、1人が1つの工程だけを覚える訳ではなくいくつかの工程を担当できるようになっておくことで欠員が出てもスピードがあまり落ちないようにしていた。多くの工夫や意識の高さによってスピードを保ちつつ正確に製品が作られていて素晴らしかった。

3 研修を通して気づいた事・学んだこと

まず工場での学びはバキュームの使い方である。今までは熱と水分を取るためだけに使っていたが、工場では裏地にいせを入れる時や、動きやすい生地を止めたい時にも使うことがよくあるということを知った。まち針などでおさえたりするよりずっと作業がスムーズで早かった。また、まち針はほぼ使わずノッチのみで縫い合わせており、機械の速度やパワーに慣れるまでは難しそうであったが、待ち針を使うより断然効率的で、服に針が混入する危険性もずっと減るということが分かった。さらに工夫として、いせをいれたりギャザーをよせる際に分量を均等に早く入れるために小さく切った方眼紙を縫う位置のそばに置いてミシンをかけるというのがあり、これはすぐに取り入れられると感じた。

次に店頭では、顧客の求めるものに＋αとしてコーディネート提案を行っていき客単価をあげる方法を学んだ。相手のことをよく考え、必要なものをさらに提案するというのは様々な場面で実践できそうであった。

4 今後の学生生活に生かしたいこと

プログラムを通して服に関わる仕事をされている方々の仕事に対するモチベーションの高さをとても感じ、それが私に足りていない部分であるとも感じた。モチベーションの高さがあるからこそ技術力向上を意識したり、限られた時間で最大限の仕事が出来るよう集中できるのだと思う。私も自分のやるべき事、出来るようになりたい目標を明確に持ち、限られた大学生活という時間の中で自分を高めていきたいと改めて思えた。仕事として服を作ること、それも既製服ではなく一人一人の体型や求めているデザインに合わせてオーダーされた服を作るということは、作ることに関わる側の技量によってずっと大切に着てもらえる服にもクレームをつけられるような服にもなる。だからこそ、自分にできる最高の仕事をしようという意識を常に持って働くことの出来る仕事環境なのだと感じた。まだ就職する職場を明確に決めることは出来ていないが、意識を高く持ち続けられる職場を選ぶようにしたいと思う。

国内プログラム

[梅春] カットソーの製造現場(東京山形)

授業概要

本学では、学習機会が少ないが、カットソー製品(Tシャツ、パーカ等)は、商品企画においては不可欠のアイテムである。このカットソーの企画から製造までのプロセスを理解するため、企画・製造の現場に入って研修を実施する。研修先は、カットソーの企画・製造から販売までトータルに扱っている株式会社ナカノアパレルで、東京事務所において素材や製品に関しての商品企画講習と山形工場での製造に関する実技研修を行う。

到達目標

本講座では、世界的に高い評価を得ている日本の製造現場で研修することにより、グローバルに通用する創造力とは何かを体現し理解する。具体的には、企画の現場では、クライアントとの打ち合わせや試作のプロセスを経験し、またカットソーの製造現場では、織物とは違う、編物の特性を理解し、専用の縫製機器やアタッチメントなど実際に体験することでカットソーアイテムのデザイン提案力を身につける。

期間/スケジュール

第1週　事前研修とカットソーの調査・分析(東京):2月12日(火) ～ 15日(金)
第2週　ナカノアパレル山形工場研修(山形):2月17日(日) ～ 23日(土)
　　工場の各工程を体験することでものづくりの基礎を学ぶ(研修スケジュール参照)
第3週　ナカノアパレル東京本社研修(東京):2月25日(月) ～ 3月1日(金)
　　現場で学ぶＯＥＭ企画(納品先ブランドの受託生産)
第4週　事後研修とレポート作成(東京):3月5日(火) ～ 7日(木)

成果と課題

【教育の成果】
実際の現場に入り、製品の製造工程を目の当たりにし、生産機器、製造ラインの編成、時間管理、品質管理等日本の服作りの技術力を認識することができた。しかも、1年、2年という早い時期に実施できたことは専門課程に入って大きな意味を持つものと考える。
(学生感想)
・現場を経験し、服づくりのリアリティを実感することができた。
・デザインするということが、実際の製造ラインおよびそこの設備に依存していることが理解できた。
・お客様が着用する製品ということで、現場での「針」の扱いが大変厳しいということに驚いた。
・漫然と作業をこなすのではなく、秒単位の時間管理といかに効率よく製造するか常に技術的な工夫があることが解った。
・現実に稼働している様々な機器に触れ、あらためて服づくりの面白さに目覚めた。
・欧米のハイブランドが、日本の山形で製造されていることの驚きや、同年齢のベトナムの研修生との交流を通じてファッションのグローバル化を認識できた。

【プログラムの課題】
長期のインターンシップの場合は、現場の作業、業務に支障が出ないよう研修の時期や人数を考慮する必要がある。また、受け入れ企業にもメリットがないと長続きしないのではないだろうか。双方で検討が必要である。

所属学部学科 ▶ 服装学部ファッションクリエイション学科　1年Cクラス

1 履修の目的・目標

最初はコラーボーレーション科目の単位を取りたい気持ちでコラーボーレーション科目探したが、結局自分が好きな科目が見つからなかった。また来年取ればいいと思って諦めたけど、ナカノアパレルの研修内容を聞いて、工場も見学できるし、東京の会社にも行けるから、一年生の自分にとっては視野を広げる機会なのでこの科目を履修しました。

2 研修で最も印象にのこったことについて

東京の会社で研修する時、モリリンという商社の方から生地についての講習会を受けました。原料から紡績糸の製作、編み方と染色の方法まで説明してくれました。学校にも素材論の科目で似たような内容聞きましたが、それはあくまで教科書に書いてある内容として、大事だと思うけど、どうしても実感が湧きませんでした。でも、モリリンの方から講習受けた時、その人から熱意を感じました、自分がやってる仕事に誇りを持っていて、そして今でもずっと勉強してるって言いました。特に綿の産地や特性についてはとても詳しいです、どこの産地の綿繊維が長いか、どの品種の綿は人気あるとか。たとえ同じ産地の綿でも、紡績糸にする工程の差によって、出来上がった生地の風合いも違います、こういう現場じゃないと体験できない知識こそ、アパレル産業の宝だと思います。モリリンの方は原料をみるために産地まで行きますし、そのほうが楽しいし、現場での知識も手に入るからって言いました。私は、その楽しそうに語る姿に共感しました。

3 研修を通して気づいた事・学んだこと

自分の知識の少なさに気づいたことが、今回の研修で一番の収穫だと思います。学校は布帛についての知識がメインだけど、自分の勉強もまだまだ足りないし、ましてやカットソーやニットの知識など、研修行く前になんの関心も持てなかったです。でも、カットソーやニットには、布帛が持ってない可能性と特性があって、どのブランドも必ずこの二つのアイテムがあります。特にTシャツみたいな、原価がそんなに高くないアイテムはブランドのイメージを乗せやすいメリットがある。消費者にとっても、比較的に安いから手が出しやすいと考えます。この研修でもう一つ気づいた事は、今どの産業でも変化を求める時が来ました、テクノロジーの進歩によって、生産の仕方はどんどん無駄がなく効率が良い形として進化し続けていくと思います。だから学校での基礎知識をしっかり身につける上で、この変革にアンテナを張る事が大事だと思いました。

4 今後の学生生活に生かしたいこと

このプログラムに参加して、ブランドを立ち上げたい意志がだんだん強くなりました。私は、今まで服をデザインして、造形で自分のアイデアを服装にしたんだけど、それはただの服作りでしかないと私は思います。私はこれから芸術や音楽の領域をたくさん勉強して、自分のデザインのルーツを見つけたいです。難しいけど、これによってブランドの価値も明確になるかもしれません。私はGrungeというロック音楽のジャンルが好きで、それをファッションとして再び蘇らせたいです、昔のMarc Jacobs、Helmut Langはうまく服装でGrungeの概念を表現しました。そして私が尊敬するMartin Margielaも脱構築のデザインでデストロイショーや服の概念を変えた。そのデザインもGrungeの先鋒と評価されました。彼のファッション体制に対しての不満は、やがてデザインのソースや形になって、人を感動し魅了させました。私はその精神を受け継ぎたい。たとえ時代が変わっても、反抗の精神は常に忘れることなく、この思想と精神を基に、私は自分の知識を充実して、デザインし続けます。

所属学部学科 ▶ 服装学部ファッションクリエイション学科　1年Cクラス

1 履修の目的・目標

一年次の段階でこのような企業の研修を受けることで、自己のスキルや経験を深めるとともに、自身がAO入試のプレゼンテーションの題材にも選んだアパレル業界の様々な現状を実際に目にすることで視野を広げたいと思った。また数ある科目の中でも、学校ではあまり学ぶことのないカットソーの製造現場を見ることにより、今後の作品制作にも活かせると思った。

2 研修で最も印象にのこったことについて

最も印象に残ったのは、工場もオフィスも共通して会社の向上心や変化に適応する力です。私は、ナカノアパレルの工場に対して普通の工場だろう、といった誤ったイメージを抱いていました。しかし、実際に現場を見てみると、工場の方々は製造ラインの距離の改善やミシンの改造など、ただ仕事をこなすだけでなく自社の工場にプライドを持ち幾多の改善を行っていました。オフィスの方々も同様に、日々新しいシステムに目を向け工場業態にもかかわらず商品提案にも力を入れていました。また、そこに通じるパタンナーの方々も強いこだわりを持ちブランドのアイテムと勘違いするレベルの提案商品をいくつも手がけていました。これはナカノアパレルの企業としての前向きな姿勢を意味し、今後はより一層普通の工場でなく新しい工場の形になって行くのだと感じました。

3 研修を通して気づいた事・学んだこと

ナカノアパレルの研修は、自身が以前より抱いていた”新しい時代に適応し進化していく企業が勝つ”というビジョンをよりハッキリさせてくれました。具体的にはナカノアパレルは様々な方法で変化に適応しこの厳しい時代に生き残っており、これからも挑戦し続ける姿勢が感じ取れたという事です。この姿の陰には、アパレル業界の低迷していく様子がいくつも隠されています。いくつか取り上げると、大量生産大量消費によるファストファッションの流行や、それに伴う全体的なコスト削減や賃金の低下などがあります。これ以外にも数多くの悩ましい現状がありますが、私はこの時代を逆手に取り様々な角度からアパレル業界を分析しようと思いました。このような問題がたくさんあるということはそれだけの解決策（ビジネスチャンス）があるということです。それを見つけ出すのは容易ではありませんが、残りの大学生活でその解決策を一つでも多く探っていこうと思います。

4 今後の学生生活に生かしたいこと

技術や知識的な面と意識的な面があります。

技術、知識面では日本トップレベルの工場を目にすることができたので、そこで見た工程やミシンの使い方などを参考に作品づくりに取り組みたいと思っています。また知識として、工場を運営する会社が製造以外に取り組んでいることを学ぶことができました。その取り組みを、レポートなどを見て思い返しながら、今後何ができる人材が社会で求められるかなどを考え、自身の勉強の方向性を決めていこうと思います。

意識的な面では、進化していくナカノアパレルを目の当たりにしてこのままじゃいけないという意識が強くなりました。今回見た会社の方々の向上心や仕事に対する熱意は何よりも今後の生活に生きてくると思います。工場の方々の効率や品質に対してのプライド、オフィスの方々の一人一人が会社の歯車として活躍、貢献しようとしている姿を目にしたことで大学生活全ての時間に無駄がないよう過ごしていけると思います。

所属学部学科 ▶ 服装学部ファッションクリエイション学科　1年Eクラス

1 履修の目的・目標

このプログラムに参加した理由は学校では習わないカットソーについて学んでみたいと思ったからです。参加前にたてた目標は今後に活かせるカットソーの作られ方、企画について学習するということです。カットソーの作られている工場に行き現場を見て、今後デザインをしていくときに工場側が作りやすい服をデザインしたいと考えました。3、4年次では量産に向いた服作りも挑戦してみるのも面白そうだと思ったので工場で見てきたこと感じたことを生かし挑戦していきたいと思いました。

2 研修で最も印象にのこったことについて

研修を通して最も印象に残ったことは工場の忙しさです。工場に行くのが初めての経験だったのですが今まで工場はこうゆうものだと思っていた雰囲気とは違く、ピリッとした空気で集中して作業していて自分が考えていたものとの差に驚きました。毎日生産しなくてはいけない量が決まっていて、それを達成できないと売り上げに繋がらないなどスピードとチームワークを大切にしていかないと実現できないことが多くそのような環境からピリッとした空気になるんだなと感じました。作った量はパネルに表示されその量が少なかったらプレッシャーになるのではないか？など作っている方々の精神面がとても心配になりました。ですがそんな状況でも作業をしているみなさんの集中力が高いからあんなにも綺麗なカットソーがたくさん作れるし工場が成り立っているのだなと思いました。

3 研修を通して気づいた事・学んだこと

研修を通して気づいたことは自分には工場は向いていないということです。東京本社で行った企画や商談の体験はとても楽しくやりがいを感じました。ですが工場の仕事は同じ作業を繰り返すのでやりがいがあまり感じなく疲れたとすぐ思ってしまいました。工場の作業も楽しいものはありましたがやはり自分は企画など、この先何が起こるかわからないそのような仕事の方がスリルを感じとても楽しいと思いました。ですが、工場も東京本社も人との繋がりは大切にしているということにも気がつきました。

工場では人と協力して1つのカットソーを作り上げていき、東京本社は商談などでコミュニケーションを大切にしながら仕事をしていました。人との繋がりを大事にすると次の仕事もうまく行くんだということを学びました。

4 今後の学生生活に生かしたいこと

今回の研修を通して周りを見る力、そして効率よく相手を気にして行動することが自分にはもっと必要だと感じました。効率よく行動できればやれることが増えるし、相手のことを気にすることで相手も心地いいコミュニケーションができると考えました。自分にはまだコミュニケーション能力が足りなく、ナカノアパレルで働いていた方をみて将来これでは商談などでうまくいかないなと感じました。人の目を見て会話することの大切さを教えていただいたのでそこを意識して話していこうと思います。周りをよくみて効率の良い行動ができれば会社で必要とされる存在になれるとも思ったのでそのような目標を立てました。ナカノアパレルでは人と人とのコミュニケーションをとても大事にしていたのでそこを今後の学校生活に取り入れていこうと思います。

所属学部学科 ▶ ファッションクリエイション学科　1年Eクラス

1 履修の目的・目標

履修した理由は、学校ではカットソーの勉強はないと聞いていたので、カットソーを勉強できるいい経験になると思い履修しました。

目標は、工場や本社で実際に見た現場の雰囲気を感じたり、学校では学ぶことの出来ない勉強をし、今後の服作りにも活かせる知識を身に付けることです。1・2年で学ぶことの出来ないことを学んで知識の幅を広げるとともに3・4年で就活を考える良い材料にもなるのではないかと思っています。

2 研修で最も印象にのこったことについて

工場に行ったのが初めてで、写真で見た工場の雰囲気と実際の現場の雰囲気が全く違いとても緊張感があった事が一番印象に残っています。

工場の作業といえば、ずっと同じ作業を繰り返し行っているだけだと思っていたのですが、その中には作業時間や効率も考えて皆さん作業をされていました。目標枚数なども、全員から見える位置に配置されていたり、一人一人が意識を高く持って作業しないと成り立たない事がたくさんあり、印象に残りました。もう一つ印象に残った事が、東京本社でパタンナーさんの作業を見学させて頂いたときに、ただパターンを引くだけでなく、デザイナーさんの要望や気持ちをしっかり考えて引くことや、縫製する人たちへの完璧な書類製作までデザインと縫製以外の仕事をほとんどパタンナーさんがしている事が印象に残りました。

3 研修を通して気づいた事・学んだこと

この研修中に気づいたことは、時間、人との繋がりが大事だと気付かされました。工場では、効率を重視し、いかに早く服が大量に作れるか、効率を良くするための改善活動も積極的に実行していました。本社でもスケジュール会議というものがあって、次の週にやる事をしっかり決めて効率よく仕事ができる様工夫していました。時間はお金で買えないといいますが、本当にそうなんだと気付きました。人との繋がりでは、商談に一緒に行かせて頂いた時に、商談する人だけでなく、その近くにいた別の仕事をされている方などにも積極的に挨拶をされていました。外の人と交流を深めたり、目を見て挨拶するなど基本的のことが仕事では大事だと教えていただきました。そして人を繋げることで仕事も増えるのだと気づくことができました。

4 今後の学生生活に生かしたいこと

1年でこのプログラムに参加できたことは、本当に良い経験ができたと思っています。参加してすぐに思った事は、知識が全く無いという事でした。学校で授業を受けて沢山知識を吸収したつもりでいたのが恥ずかしく思えました。

工場や、布や糸についても、もっと自ら進んで勉強していくことが今後の目標です。どんな職業についても、それは自分の財産になるのでしっかり勉強したいです。私には進みたい職があり、それと今回の研修は関係ないと思っていたのですが、縫製工場が絶対必要という認識はあったので、今回の研修で学んだ事を最大限に活かしてキャリアデザインに結びつけて行きたいと思います。

所属学部学科 ▶ ファッションクリエイション学科　1年Eクラス

1 履修の目的・目標

カットソーは、学校では詳しく学べないので今回是非参加したいと考えました。　参加前に私が立てた目標は、現場をしっかりと自分の目で見ること、将来に少しでも役に立てる様に自分の中に取り込むことです。また今回の研修で自分の将来の目標が少しでも見つかることに繋がれば、と思い研修に参加することを決めました。

2 研修で最も印象にのこったことについて

今回の研修で印象に残っている事は２つあります。１つ目は、山形の工場で見た作業のスピードです。工場では一人一人が自分の役割をしっかりと把握していて、無駄な動きがなくスピーディに作業を行っていました。また、リーダーの方々が、作業に応じてミシンを配置してさらに効率的に作業を進めていました。それでいて、仕上がりがとても綺麗なので特に印象に残っています。

２つ目は、東京の本社で学んだ人との繋がりの大切さです。商談に同行させていただいたのですが、営業の北森さんは、今回お話をさせていただいたオンワードの方だけで無く、他の席に座っていた方々にもご挨拶をしていました。また、パターンナーの方々と営業の方々、共にお互いの仕事内容を把握し合っていてコミュニケーションがとれているところが凄いなと思い印象に残っています。

3 研修を通して気づいた事・学んだこと

研修を通して学んだことは、お互いに理解し合い助け合うことです。工場でも作業が遅れていたりすると、リーダーの方が声をかけたり他のチームから応援で人を呼ぶなどしていました。また、仕事が始まる前に、リーダーの方とベトナムからの実習生の方々が、楽しそうにお話をしていて、コミュニケーションがしっかりとれて、お互いを理解し合うことに繋がるのではないかと思いました。前述しましたが、お互いの仕事内容を把握することで、分からないことがあればすぐに聞いて解決し、間に合わない場合の対応などとても迅速で、お互いに理解し合い、助け合う気持ちがないと出来ない事だと研修を通して学ぶことが出来ました。これらのことは、これからの学生生活に限らず社会人になってからも大切な事だと思うので今後にいかしていきたいです

4 今後の学生生活に生かしたいこと

今回のナカノアパレル研修で、今後に生かしていきたいと感じた部分は、多くの人とコミュニケーションを取るということです。これは、人脈にも繋がり将来的に役立つと思いました。またこのようなプログラムに積極的に取り組むことの大切さも、今回の研修を通して強く感じることが出来ました。自分はまだ１年生ですが、実際に現場を見ることができ工場や本社での大変さや楽しさなど、身をもって感じることが出来ました。１年生のうちにプログラムに参加することで学校では学べないカットソーや縫製機械はもちろんのこと、人との繋がりの大切さやアパレル業界について多くを学ぶことが出来ました。

今回の研修でこれ程の学びを自分の中に取り込むことが出来たので、他の１年生に差をつけて２年生になることができ、今後同じ授業を受けても身につき方が異なってくるのではないかと思っています。今回の研修は、自分にとってとても大きな成果であったと考えています。

国内プログラム

[梅春] ハイブランドの製造現場(千葉)
高級フォーマルウェアの仕立て技術を学ぶ

◉ 授業概要

首都圏の大型縫製工場であり関東屈指の設備をほこる、千葉県のソーイングアサヒ株式会社にて、ハイブランド製品の製造現場を体験する。世界的なブランドが認めるこだわりの技術で高級婦人服(プレタポルテ)のフォーマルウェアや重衣料を中心に製造する縫製工場で、ハイブランド製品の量産プロセスや工業用縫製機器による作業を体験し、量産の工程や各種機器の用途の理解と、技術の習得に取り組む。

◉ 到達目標

事前教育により、一般的な既製服の生産工程についての理解を深めてから、現地研修として2週間にわたりソーイングアサヒ株式会社にて以下のことを目標に研修を行う。

・既製服の製造の工程（メーカーから発注→日程計画→原反搬入→スポンジングマシン→裁断・芯貼り→部品工程・組立て工程→まとめ→仕上げプレス機、検針機→出荷)を理解する。
・工業機器(スポンジングマシーン、CAD、CAM、縫製機器、プレス機等)の用途を理解する。
・高度な品質レベルをクリアする縫製技術を理解する。
・企業での円滑なコミュニケーション力を身に付ける。

◉ 期間／スケジュール

第1週：事前教育	衣服の量産の工程についてと研修先の企業について調査を行い、レポートにまとめる 学外研修における目標設定を行う
第2週：現地研修	企業の内容説明と見学、各部署、各機器の使用体験
第3週：現地研修	各部署、各機器の使用体験、仕上げ作業の体験
第4週：事後教育	研修記録(ワークシート)による企業研修のふりかえり 研修活動報告のためのパワーポイントによる発表資料作成 事後報告会

◉ 成果と課題

・大学で学ぶ衣服製作とは異なる、量産プロセスについて工業用の縫製機器の使い方を体験しながら学ぶことができた。
・工業用の様々な機器の使用説明を受け、機器の用途を理解することができ、縫製技術の向上につながった。
・高い品質基準をクリアするために、職人たちの技術力向上への取り組や、商品つくり工程と機器の工夫、品質チェックなどを行っていた。これらを実際に目にすることで、商品としてのモノ作りの厳しさを学ぶことができた。
・目的意識をもって参加することで、今後の大学での学びや卒業後のキャリアについて考えることができた。
・学生が企業研修の初日の夜からインフルエンザを発症し、2日目から欠勤することとなってしまった。宿泊先のホテルに学生1人という状況となった。1週目の土曜日に医師から出勤許可がおり、2週目のみ企業研修をさせて貰った。
・研修先の最寄り駅に宿泊先が無く、今年度の履修者は、隣駅のビジネスホテルに2週間滞在する予定であった。生活面の費用の負担が大きいことも履修者増に繋がらない一因と考えるが、1名での遠方での研修は、病気になった場合の対処も難しい。自宅から通勤か、複数名での研修が望ましい。

1 履修の目的・目標

ファッションについて十分に学べる環境にいることを活かし、学生のうちに実際の現場を体感したいと思い履修しました。ハイブランドの製造を選んだ理由は、もともとハイブランドの縫製に興味がありどのような工程を経て流通するのか知りたいと思ったからです。事前学習で学んだことを実際に体験し、より深い学びに繋げていくことを目標としました。

2 研修で最も印象にのこったことについて

量産の過程を学んでから研修に行ったのですが、やはり実際の量産のスピードの速さと工場で働いている方々の技術はとても印象的でした。１人の人が１着全てを作るのではなく裁断をする、部品を作る、パーツを組み立てる、検品をするなど各作業を分けることで作業の効率を上げ生産性を上げているため１着が仕上がるスピードがとても速く驚きでした。それだけの速さで作られているにも関わらず縫製は１つ１つとても綺麗で仕上がりにむらがなくプロの方の技術を体感しました。ミシンの作業やアイロン工程の見本を見せてくださる時もその布地の特徴をすぐに判断し気を付けるべきことを教えてくださいました。また効率を上げるために作業のなかで様々な工夫がなされており、必ず何枚ずつと決めた枚数で回すことにより枚数を数える手間を省いてると聞き、そういったことを徹底し関わっている方全員で量産しているのだなと思いました。

3 研修を通して気づいた事・学んだこと

1着の洋服を作る過程でもたくさんの人が関わりたくさんの手間がかかっているのだということを実感しました。アパレル企業側の要望に応えるために企画書通りに柄を配置したり、扱いにくい布地は２人がかりで作業を行ったり、工場側で芯地や裏地を選定することもあると聞き、私が想像していた以上の仕事量の多さと重要性に気づきました。社長からお話を伺った際にミシンの針が布地を縫っている時、ボタンを付けている時にお金になっているという意識を持って仕事をするという教えがあるということを聞きました。ミシンに糸をかけている時や糸を探す作業、商品の数を数えることなど必要ではあるけれど生産に直接関係がない時間をいかに短くするかということを考えることは重要なことだと学びました。私の普段の製作中にも意識したい教えだと思いました。

4 今後の学生生活に生かしたいこと

研修の間、私は目の前にあるパーツや布地を商品になるものだと常に緊張感をもって丁寧にミシンやアイロン掛けをしていました。しかし今までの自分を振り返ってみると授業内で製作してきた作品は自分の課題としてみている部分が多く、完成させて提出することが目標になっていたと痛感しました。１つ１つの作業を丁寧にこなしていくことが完成の綺麗さや着心地につながっていくということを忘れていたと思います。工場では関わったすべての方が着る人の目線で仕事をされていたと感じました。衣服は着る人がいて初めて意味を成すということを考えさせてもらった研修期間でした。これから服作りをする時には自分が行っている過程がこの服を着る時の着心地の良さ、シルエットの綺麗さにつながるということを考えて製作していこうと思いました。また、仕事をするにあたり何事もいかに効率よく作業を進めるかを考えることが大切であると学びました。目の前のことをただこなすだけではなくより効率よく進められるかを考えて作業できるようになりたいと思います。

国内プログラム

[梅春] ファクトリーブランド(東京山梨)

授業概要

日本のアパレル流通は企画・製造・販売の流れの中に商社や卸といった中間業者間に多く入る多段階構造となっている。この構造は、リスク回避、生産・販売数量の調整機能、小売店頭の品揃強化等の点において、利点があったが、中間マージンによるコスト高に繋がるというデメリットもある。本科目はファクトリーブランド「evam eva」を展開する近藤ニット株式会社での学外研修である。企画立案からデザイン、製造までをデザイナーと職人が同じ空間で完結させるものづくり、自社工場で作られた商品がブランドコンセプトに基づいて設計された店舗で販売されるファクトリーブランドの全貌を研修を通じて理解する。

ファクトリーブランドについて理解するためはファッション産業の理解が不可欠である。近藤ニットでの研修の前に都内近郊のアパレル業界の現場や関係者などを訪問し、ファッション業界について見識を深め、ファッション業界の流通の仕組みや商習慣などについて理解する。

到達目標

アパレル業界の現場や関係者との交流を通じてアパレル・ファッションに関するコミュニケーション能力を向上させるとともに、ファッション産業への理解を深め、業界の現状や展望について自分なりの意見を持てるようになる。山梨から国内外に発信しているファクトリーブランド「evam eva」の経営・運営・モノづくりなどを理解し、グローバル・ローカルな視点を養成する。研修を通じて様々な場所へ訪問、様々な人と交流、実体験から既存の考え方に捉われないファッション業界の新たなキャリアを切り開いていける視野を身に付ける。

期間／スケジュール

第1週　平成31年2月12日～2月15日　アパレル業界の現状を知る①(東京)
第2週　平成31年2月18日～2月22日　アパレル業界の現状を知る②(東京)
第3週　平成31年2月25日～3月1日　近藤ニット本社および工場研修(山梨)
第4週　平成31年3月4日～3月8日　evam eva店舗研修(東京)

成果と課題

【成果】 科目のねらいの通りに学生のアパレル業界への構造や現状などの理解を深めていくことで、これまでの自分の学修スタイルの見直しや、大学生活での取り組むべきことなどが明確になった学生が多く、今後の学修の質向上に対してアプローチが出来ていると感じた。グローバルのためにまずローカルを意識することや、アパレルの現状を理解した上で学生自身が将来どのようなフィールドで勝負するのか、そのために何をすべきかをよく考え、プログラムに対して各自で決めた目標や将来構想に対しても何かしらの答えやヒントを見出している学生が多かった。履修学生全員が自分自身の将来やキャリアをと結び付けて考えること出来たのは、訪問先の講師が必ず将来の夢やビジョンについて質問してくれ、全員が回答をしなければならない機会を与えられたことが大きかった。それだけ学生の将来に興味・関心があり、期待しているということの表れだと感じた。

【課題】 学生は非常に有意義な体験を通して、学習成果があがっていることは報告書や実際の研修の様子、コミュニケーションの質等で確認が出来ているが、インターン先である受け入れ企業側は学生への教育や指導、生活の補助という負担が大きく、継続していくために学生の受け入れを通して企業へのリターン、メリットを大きくしていくことを検討しなければならないと感じる。

1 履修の目的・目標

次年度からブランド企画コースへ行くにあたり学内では知りえない現場の声を聞き、現実に抱える問題を知ることによりビジネスとしてのアパレル産業をより具体的なものとして捉える。そして、問題に対する自分の見解を立てることでより実践的なブランディング学習に活かしていくことを目的として履修した。

2 研修で最も印象にのこったことについて

前半二週間の中でアパレルに関係する様々な職種の方にお話を伺ったが、視点は異なれどみなさんお話しされている内容の根源は同じであるということに気づき、その現状に対して変えようと働きかけている方もいれば、現状をよく理解した上でその状況とうまく折り合いをつけながら良い方向へと働きかけている方もいらっしゃった。その根源は「細分化しすぎた分業体制」であるが、自然発生したことではないからこそどこかでいい場所に収めていくことがこれからのアパレルの課題であると口を揃えて仰っているのも印象的であった。それぞれの役割の中でどのような働きかけをしていくのかこれからに期待が高まった。

3 研修を通して気づいた事・学んだこと

洋服が好きであるということだけで仕事はできないということを痛感したと同時に、好きであることが最大の武器にもなるということも感じた。企画、製造、販売と一連のアパレルの流れを体験して元は洋服に興味がなかったという方も少なくなかった。ではなぜここまで熱くなれるのか。それは好きだからの一言に尽きるのだろう。汚い部分もたくさん知ったが、それほどまでに人を虜にできるアパレルという産業に私は希望を感じずにはいられない。前項でも述べたが解消しなければならない課題は山積している。しかし、それほどまでに奥深い産業だからこそ面白いのだと思う。

4 今後の学生生活に生かしたいこと

次年度からブランド企画コースへ進級することになり、より今回のAPで学んだ知識や感覚が重要視されてくるフィールドに入る。価格設定やデザインだけで完結するようなブランディングではなく、実際にビジネスとして回っていくために自社でできる範囲と委託する範囲の設定や素材の細かな選定といったところまで徹底した学習を進めていきたい。そしてその中で「細分化しすぎた分業体制」へ自分ができる働きかけは何かを模索していくことが重要であると考える。ブランドの強みをどこに持っていくのか、社会に対して何を還元していくべきであるのか学生である以前に一人の人間として課題に向き合っていきたい。

1 履修の目的・目標

前半の2週間では不況だと言われるアパレル業界の内情について、方々のお話から詳しく学び、アパレル業界や洋服に対する視野を広げ、自分なりの考えを持つ。後半の本社と工場、店舗の研修では、ファクトリーブランドであるevam evaで行われているブランドビジネスの工夫や仕組み、こだわりを学ぶ。また、今までの自分の在り方も見直しつつ、将来を見据えて今後どう過ごすべきか考えられるようになる。

2 研修で最も印象にのこったことについて

私の学科では自分の好きなようにコンセプトを決めてデザインをして作品を作っていたため、今までなかなか洋服やブランドをビジネスという風に捉えられていなかったように思う。このプログラムの中でお話を聞いた、米田さんや近藤社長や尚子さんや山地さん、どの方もみなさんブランドはビジネスであるという風に仰っていて、ブランドの種類や在り方は何であれアートでも趣味でもやっていけないということを改めて認識することができた。特に山地さんのお話であったように、ブランド成功させるにはビジネスとして明確なビジョンを持ち、具体的かつ論理的な戦略が必要であるということで、ブランドを続けていくということは本当に難しいことなのだろうと思った。

3 研修を通して気づいた事・学んだこと

店舗ではevam evaのプロパー消化率90%の要因をより詳しく知ることができた。旧品を置いていたり、店舗間で商品が行き来していたり、様々な工夫や仕組みがあった。セールをしなくても旧品を店頭に置けるのは、流行にとらわれず、ブランドのコンセプトに沿ったこだわりの中で色やデザインに大きな変化がないことが要因であると思う。山梨の本社と工場ではそれぞれの工程にある製品への手間や工夫がコンセプトである心地よさに繋がっていることを感じたが、店舗でも同様に、挨拶やお畳や掃除や空間づくり、どの作業にも心地よさのための工夫があり、企画と工場と店舗での一体感を感じた。一体感を感じられたのもファクトリーブランドならではであり、どの工夫や仕組みもevam evaのよさを引き出すために効果的で、良い循環ができていることを感じた。その循環がきちんとビジネスとしてプラスになっていて、近藤社長と尚子さんのブランディングにおいての秀逸さを感じた。

4 今後の学生生活に生かしたいこと

今までテキスタイルの興味があってもどんなアプローチをすればよいかわからなかったが、まずはテキスタイルの世界には宮浦さんのような職の他にどんなものがあるのか調べてみようと思った。テキスタイルに対してもいろんな可能性を感じたので、調べたり学んだりする中で自分なりのテキスタイルとの向き合い方を見つけられるようにしたい。このAPを通して、自分から積極的に行動すれば学ぶチャンスや機会はたくさんあるということを知ることができた。学校にいるだけでは他と違う強みを身に付けることは難しいということもよくわかったので、ファッションについてもそれ以外についても、もっと学校の外にアンテナを張り、学生のうちにできるだけ多種多様な知識を身に付けようと思った。また、学内でも学外でも、人と繋がるということをもっと意識して生活しようと思った。

1 履修の目的・目標

アパレルの現状を知る。なぜ、アパレルが今不況なのかをその原因と経緯を知りたい。自分がアパレル業界でやりたいことはどういった職種に当たるのか理解し、そのためには学生生活なのかで何ができるか行動に繋げるきっかけにしたい。学校の中では学びにくいものを自分で見て聞いて、そこで感じたことに対して自分は何ができるのか考えるきっかけにしたい。

2 研修で最も印象にのこったことについて

最も印象に残ったのは、一つの商品ができるまでに関わっている人の多さです。企画の方々が企画し、編立の方がデータを作りパーツの作成をし、できたパーツの糸始末をする人がいて、その後に洗いをし、リンキング、縫製、アイロン、検品と一つの商品を作るだけでも、こんなに人が関わっていて、企画段階より前の、糸作りや、糸の原料を作る部分まで考えると、想像以上に人が携わっていることが身をもって感じることができました。聞くだけではわからなかった部分が詳しく学べました。力のあるブランドはどういった戦略でプロモーションをしているのかということや、自分が作りたいものばかり作っても消費者に買いたいと思ってもらえなければ意味がないことなど、ブランドはビジネスであるという大前提の事も改めて実感しました。

3 研修を通して気づいた事・学んだこと

デザイナーと繊維産地を繋げるというお仕事があることを初めて知りました。デザイナーが産地へ行かなくなったことで、デザイン発想が弱くなり、その影響もありOEM委託が増えていることもわかりました。また、海外メーカーから日本のテキスタイルが求められていることは、聞いたことがありましたが、テキスタイルにおいて、他国に比べて、日本製は何が勝っているのか、全く知りませんでした。日本は糸の開発会社が多く、優れたものが多いので、それを活かした複合素材に対してのノウハウがあることや、今までの知識を活かし、最新の機械を用いて布地を作る、ローテクとハイテクの両方を使えるという、他国には真似のできない技術を持っていることが強みだと感じました。テキスタイルの種類の多さも初めて知ったので、知識を深めたいと思いました。

4 今後の学生生活に生かしたいこと

デザイナーと繊維産地を繋げるというお仕事があることを初めて知りました。デザイナーが産地へ行かなくなったことで、デザイン発想が弱くなり、その影響もありOEM委託が増えていることもわかりました。また、海外メーカーから日本のテキスタイルが求められていることは、聞いたことがありましたが、テキスタイルにおいて、他国に比べて、日本製は何が勝っているのか、全く知りませんでした。日本は糸の開発会社が多く、優れたものが多いので、それを活かした複合素材に対してのノウハウがあることや、今までの知識を活かし、最新の機械を用いて布地を作る、ローテクとハイテクの両方を使えるという、他国には真似のできない技術を持っていることが強みだと感じました。テキスタイルの種類の多さも初めて知ったので、知識を深めたいと思いました。

1 履修の目的・目標

学校で勉強をしていて学校内だけではわからないこともあると感じた。その一つが実際のアパレル企業についてである。調べることで得られることもあるが、実際に現場を見なければわからないことも多い。このプログラムでは、アパレルの会社で研修を行うということで、実態を知ることができるのではないかと思い参加することを決めた。また、ファクトリーブランドについて当時は言葉しか知らず、詳しく理解したいという思いもあった。

2 研修で最も印象にのこったことについて

最も印象に残ったことは、実際の商品の流れを目で見ることができることである。企画書を作成し、パターン、布の裁断、縫製、検品し、店舗で販売し、お客様の手に商品が渡る。当たり前のことであるが商品の一連の流れを見ることができるのは近藤ニットならではなのではないかと感じた。そして、これが本来の洋服が作られて売られていく過程であり、もっとも重要なことではないかと感じることができた。中でも企画の方が縫製のチェックをし、修正を打ち出し、文書で提示するだけでなく企画の方と縫製の方がしっかりコミュニケーションをとって物作りをしている場面に感動した。服作りの中で担当している部分だけでなく、全体を把握することでよりよいものづくりができていると感じたし、たくさんの人の思いが込められて服が完成する過程を見ることができとても嬉しかった。

3 研修を通して気づいた事・学んだこと

よりよいものづくりをし、商売につなげるためにはチームの力がとても重要で必要だ、ということを学ぶことができた。1つの商品が完成するまでに多くの人が関わり、多くの人の思いが込められていることを感じた。現代では、当たり前のものづくりができていないのではないかと感じることが多い。その中で近藤ニットでは目に見える範囲の中でものが作られていて、これが本来のものづくりであると強く感じた。実際販売されている商品がどのような過程で作られているか、消費者が細かく知ることはあまりないと思う。しかし、知らずとも近藤ニットが作る製品には価値があるとされていて、支持を得ているのは事実だ。このように、見えない部分でもしっかりと作っているものは評価されていくということを知ることができてとても嬉しく感じた。

4 今後の学生生活に生かしたいこと

近藤ニットのものづくりを見て、私も胸を張ってアピールができるような製品を企画したり、作ったり、売りたいと強く思った。自分が自信を持てないと周りからも認めてもらえないように、ものでも同じなのではないかと感じた。自分が良いと思わないものを相手に良いと思ってもらえるはずはなく、自分の行動に自信を持つこともとても重要だと感じることができた。まだ明確に自分の進路は定まっていないが、自分の良いと思えるものづくりに関わりたいと新たに思えることができた。それがどのような方向であるのか、これか勉強していく中でしっかり見つけていきたいと思う。そして、自分に自信を持つこと、自信を持てるような行動をしていくことが自分に足りないところだと気づくことができた。自信がないから躊躇してしまいできなかったこと、後悔した経験があるので、性格面も見直して自分にとって良い方向にしていきたいと感じた。

1 履修の目的・目標

アパレル業界は低迷しているとネットなどで目にする事が多くなっているように思い私自身そういう風に感じる事はなく生活していたので、どこがどうなってそう言われているのか知りたいと思い履修しました。参加前は分からない事ばかりで何を目的にするのか考えていくうちにプログラムが始まりました。けれど、参加していくうちに、もっと作り手の方の想いを知りたいと思うようになり疑問も次第に浮かんでくるようになりました。また、参加した理由のひとつは違う学科の人たちはどういった事を学んでいるのか、そしてそれを自分自身が知った後違う視点からモノが見えるようになるのではないかと思い参加しました。

2 研修で最も印象にのこったことについて

工場での研修がとても印象的でした。島精機の機械に囲まれながら作業する事も印象に残っていて、機械の点検をしたり、針を実際に触ったりと全てが新鮮でした。 作業中もこんな事なかなか経験することのない貴重な時間なのだと思いながら手を動かしていました。初めは難しかった糸始末も最終日にはスムーズに出来るようになったのではと個人的に思うようになり、楽しくなっていきました。また、出来上がった服は一度洗濯をするということを知った時は驚きました。かなりの時間が掛かるのにも関わらず洗濯して、アイロンをかけるという工程に感動しました。デザインが異なると違う洗い方をし、洗剤や時間などにもかなりこだわっていました。これだけ工程では終わらず、この後リンギングをして寸法を測り依頼のサイズと違かったら、また1からやり直すのだとお聞きしました。このような流れで1着の服が完成するのだと知ると、大切にしょう、したいと思うようになりました。

3 研修を通して気づいた事・学んだこと

工場で作られた服が店舗にいき、お客様の手に渡るという事は簡単に見えるが、実はかなりの時間と人が関わっているのだと気付きました。プログラムに参加する前は、服は簡単に作られているとだと私は思っていましたので、お店で服が乱雑に並べられていても扱われていてもなんとも思っていませんでした。けれど、参加したことにより、自分自身服をどれだけ長く着れるようにするにはどうしたらいいのか？と考えるようになりました。店舗実習の時に従業員の方から、ニットはハンガーにかけて乾かすのではなく平干しで乾かしているのだとお聞きした時に、干し方ひとつ変えるだけで服の状態も変わるのだと学び、よく考えるといつもニットをハンガーで乾かしているとどこが伸びているように感じていました。こういった事でモノを長持ちされる事も出来、大切にする事もできるのだと学びました。

4 今後の学生生活に生かしたいこと

沢山の方にお話を聞き、工場へ行き、店舗実習もしました。メモをとる量も日に日に増えていき服は奥が深いんだなと思うようになりました。専攻していない学科のプログラムに参加したけれど、今回学んだ事はどこにでも社会人になっても通用する事だと思っています。皆さんが言っていた「相手のことを考える」というワードは当たり前のように聞こえるかもしれませんが、実際に研修をしていくと身に染みて感じるようになりました。きっと文字や言葉だけでは伝わらない事を沢山目にしました。話をしてくれた方の熱量や想いを目で見て感じれた事は本当に貴重な時間だったのだと改めて思います。この貴重な時間を忘れずに記憶の中に残していきたいと思うと同時に、視野が広がった今、今後の学校生活をどのように過ごすのかもう一度しっかりと考えて新学期を迎えたいと思います。

1 履修の目的・目標

はじめはファクトリーブランドってまずなんだろうという何も分からない、特に理由もなく履修しました。その時は自分が何を将来したいかもあまりはっきりとわからなかったのもありますが、知りたいことをどう知ればいいかもわかりませんでした。また私たちの学年から2年生の授業が幅広くとれるようになり、逆に何も取っていいのか適当にとって無駄にしてしまわないか不安でした。

ですが、履修の内容の説明を受けたとき、ファクトリーブランドを知るために最初にアパレル業界の川上から川下までの流れ、今のアパレルの現状を知れると聞きこれだと思いました。自分が知りたかったことが知れる機会ができたので、ただ聞くだけでなくせっかくすごい方々のお話を聞けるので一から全て吸収するつもりで質問などを考えることができました。

そして、学んだことを2年生からの授業選択に行かそうと目標を決めました。

2 研修で最も印象にのこったことについて

工場では、服作りの現場をリアルに感じることができ、知りたいけど知ることのできないことばかり体験することができてこれからアパレルを仕事にしたい自分にとって本当に貴重な経験となりました。

私は糸始末の作業をひたすら行いましたがそれだけでも結構な時間や労力がかかっていて、想像の何倍も大変で、商品は機械に頼っている面が多いと思っていましたが、機械で商品の情報を入れ、機械から出来上がったパーツの糸始末をして、縫製して、仕上げにアイロンをかけたり染めたりして、不具合がないか検品し、タグをつける。まだ作業はたくさんあるがこれだけでも人の手がすごく多く加わっていて工場の方々が服作りを支えていることをものすごく感じました。

また、サンプルを作っているとき先上げしたものがリンキングや縫製の過程で修正を加えた方がいいところなどを工場内を何度も行き来して直接話し合っていたり、また私もやらせて頂いた作業で、量産するときに素材の色で印つけが見えにくいから色の違うチャコペンで印をつけるなど臨機応変に対応できたり、直接話すことによって無駄なく作業ができることがとても効率的で良いと思いました。

テーマやコンセプトがあり細かく世界観を作り込んでいましたが、そこまで作り込んでオリジナリティーをだせる秘訣もファクトリーブランドだからこそできることなのかもしれないと思いました。

3 研修を通して気づいた事・学んだこと

お話をしてくださった全ての方に通して、人との繋がりを大切にされているなと思いました。どうしたら人との繋がりを作ることができるのかと考えたら自分をアピールできる知識や技術、自信を持っているからだと、人を惹き付けるものを持っているからだと思いました。何事においても大切なことだと改めて感じました。自分はこれだけは誰にも負けない、大好きだと思えるものがありそれにとことん取り組んでいる人は本当にかっこよかったです。

展示会など初めて行く機会もいただき、世の中にはたくさんは知られていないけれど、すごく素敵なものがたくさんあることも知りました。こんなに素晴らしいものがどうして知られていないんだろうと思いましたが、良いものを作っても知ってもらうのって思っている以上に難しいことなんだなと思いました。売れるものを作る、良いことのように聞こえないけど正しいことだなと思いました。また正直作ることしか考えていなかった私にはその考えはなくただただ驚きでした。それと同時にファッションビジネスにも少し興味が湧きました。

そして、今後服作りのどこの過程に関わったとしても、Jクオリティーなどのようにその服の本当の価値を着る人に伝えていけるようになりたいなと思いました。

今回、アパレル業界の決して華やかではない泥臭い世界を知り、その一瞬は落ち込むような気持ちになったりなんだかモヤモヤが残る気持ちにもなりましたが、今後アパレル業界で働きたい私にとって、この1年生で現状を知ることができたことはすごく良かったです。

4 今後の学生生活に生かしたいこと

今回色々なことに触れ今までの自分の将来の仕事は自分の知っていることのなかでやりたいことを決めていただけで、す

ごく狭いなと思ってしまいました。まだまだ知らないことをたくさん残りの3年間やこれからで吸収したいです。そのなかで自分のやりたかったこともみつけていきたいです。そして、そのことに1年生の間で気づけたことを無駄にしないように、2年生の授業選択やこれからの大学生活に生かして頑張りたいです。まずは2年生の授業選択、もう一度めんどくさいとかそういうので選ぶのではなく、どうしていきたいかちゃんと考えてきめようと思います。

そして、私は自分のやりたいことやしてみたいことを誰かにいうのに抵抗があり怖いと思ってしまう気持ちが今まですごくありましたが言葉に出すことや誰かに聞いてもらうことがどれだけ大切なのかわかりました。

APでの話を家で母にしたとき、将来のことについてなど初めて話して、まず自分が思っていた反応と違うものが返ってきて驚きました。言うだけでなにが変わるんだと思っていましたが、こうしたらいいんじゃないとか、いいんじゃないとか言ってくれて、それだけでも自分の狭かった視野が広がり全く自分に自信が持てない私でもすこし自信がもてた気がします。

自分で言葉に出すだけでも自分ってこんなこと思ってたんだって気づけることもわかりました。成長したかは分からないけれど、APを受ける前の自分よりも今の自分の方が好きになれたのでそれだけでも十分よかったと思いました。

国内プログラム

[梅春] ハイブランドの製造現場(東京)
—高級既製服の仕立て技術を学ぶ—

授業概要

後期試験終了後から春期休暇までの4週間にわたり、ハイブランドの製造現場を学修する。ハイブランドの縫製方法を市場調査し、また、東京都杉並区にある有限会社ファッションしらいしにて製造現場を体験する。

到達目標

ハイブランドの市場調査や約4週間にわたる製造現場を体験することで、アパレルの現状を知り、ファッションを中心とした分野で発揮できる能力を養う。

期間／スケジュール

第1週目：接着芯の裁断、サッシュベルトのステッチ縫製、パターン整理　等
第2週目：接着芯の裁断・接着、ノベルティの布地裁断・縫製、裏地縫い　等
第3週目：接着芯の裁断・接着、ノベルティの縫製、タグ・値札・品質表示作り　等
第4週目：接着芯の裁断・接着、ノベルティの縫製、ボタン付け　等

成果と課題

縫製工場での4週間の研修は、大変有意義であったと考える。企業の方の配慮により、裁断や接着芯貼り、縫製など多くのことを経験させていただいた。スピードと綺麗さが求められるプロの世界を経験し、自分たちは技術も知識も不足していることを感じたと話していた。出来ることを経験するだけでなく、出来ないことが分かることで、自分を今以上に成長させるためにこれからの学生生活をどのように過ごすべきか考えることにつながっていた。これからの学生生活の目標が明確となり、より一層学びを深めることになると考える。また、仕事の場に関わったことで、就職や職種についても関心を強めたようで、キャリアデザインについてもこれからしっかりと考えていきたいと話していた。社会においても相手に意志を伝えるためのコミュニケーション能力がいかに重要であるかも感じたなど、長期間の研修だからこそ多くのことを得られたと考える。また、縫製工場の現状と課題、企業の取り組みを体感でき、縫製業をはじめファッション業界に興味関心の視野が広がったと考える。次年度も同期間での研修ができるよう、企業への協力をお願いしたいと考えている。

1 履修の目的・目標

1. 自分の遺伝子の１つの中に、芸術家になりがちな要素があって、いつもアーティスト系になるのか、商業系になるのかが悩みだった。2年生からはもっと自分の理想と、現実の差を実感し始め、学生の時期や一人前として自立するまでは一旦自分の内面にある芸術家的な要素は押さえて、基礎をきちんと学び、事実、現場を知るため。

2. 現場で学んだことを今後の課題にも生かして活用するため。

2 研修で最も印象にのこったことについて

1. 縫製の技術に関しては、プロの速さ、正確さ、厳しさが一番印象に残っている。

2. 物事や、商品を考える姿。例えば、全てのプロセスが重要だが、一番最後にネームタグを付ける場合、きちんとつけないと、そのブランドのレベルも落ちて見えるということを教えて貰った。手縫いする際も、針は非常に危ないので、厳しく扱うことや、指も刺さないように気をつけることなど、指を刺すと血が出て生地に付くので、そう言う細かい部分まできちんと厳しくして作る現場のことを学んでよかったと思った。

3. 仕事の一部だけではなく、全体像を把握して、要領や段取りを考え、仕事がより早くスムーズに出来ること。それは長くやれば自然に見えてくると先輩が勇気を与えてくださったので、厳しさの反面、その部分は優しく教えてくださった。

3 研修を通して気づいた事・学んだこと

1. いつも親や尊敬する方々の影響でゼロから始めた創業家に対するリスペクトがあった。白石社長は、創業者でもあるがそれと共に日本のバブル期から不景気の時期を全部乗り越えて生き残っている。その強さも含めて学べることは山のようにあると感じた。

2. 現在、ファッションしらいしは、大きく分けてブランドのコレックション向けの縫製、ハイブランドの縫製、自社の企画も担当している。色んな仕事を行い、色んな技術を学べる会社は中々珍しいと気付いた。自社の商品も企画するので、良いきっかけだと思った。

3. ４週間と言う短い期間で、沢山の縫製技術は学ぶことはできないし、実際に現場で自分が出来ることも少ないが、私の弱みの一つでもある縫製の技術が少しでも向上したことに満足した。このきっかけを始め、立ち止まらずこれからの自分の成長にもっと繋げて行くことが大事なことだと気付いた。

4 今後の学生生活に生かしたいこと

1. 仕事は厳しければ厳しいほど自分には役に立ってくる。私の場合、だからこそ魅力的に感じて、これから私の作品も厳しく作ってよりスピードを出したいと感じた。

2. 最低でも期限を守ると言うことは大事なことだと感じた。期限を守れない事は何よりも他人の信頼を失う事であるため、まず日本社会は信頼社会なので、そこから全てが始まる事だと感じた。

3. これからの課題や作品を製作するにはもっと自信を持って作ると良いと感じた。このことによりもっと自分の直感や直観を信じて、これからの学生生活に生かし、作品の製作もしたいと感じた。

1 履修の目的・目標

私はこのプログラムを履修した目的は、縫製工場へ行き、実際の仕事の流れや内容を自分の目で見てまた経験することで、将来の就職についてしっかりと考えたいと思ったからです。就きたい職業は、現段階では考え中ですが、今回の履修で縫製工場を研修させていただくことで考える選択肢を増やすことができると思い、履修しました。

2 研修で最も印象にのこったことについて

研修の中で一番印象に残ったのは、細かいことへの配慮がなされていることです。例えば、反物の違いです。同じ品番の生地でも反ごとで色味が変わることがあるため、区別が付くように印を付けていました。その違いが、私にはいつも分からなかったですが、教えてくださった工場の方は、一目で違いが分かっていて、すごいと感動しました。大学の授業で製作を行う場合、1着分の布地を購入するため、反違いで色が変わる等を意識して購入したことはありませんでした。また機器の掃除も徹底されていました。しっかり掃除して使用されており、その配慮もすごいと感じました。多くの服を同じクオリティで仕上げるためには、細かなことに配慮をし、いかに効率よく行うか考えて作業することが大切であるかを感じ、とても印象に残っています。

3 研修を通して気づいた事・学んだこと

研修で学んだ事は、たくさんあります。綺麗に裁断することや丁寧にアイロンをかけること、接着芯の機械の使い方なども勉強になりました。会社の方の丁寧な説明や指導のおかげで、裁断や接着芯貼りなどの作業を進めることができました。また、働いている方のいろいろな技術を近くで見ることができ、本当に勉強になりました。4週間の研修の中で、ハイブランドの服がなぜ高いかという事も理解できたように思います。研修を通して、服を作ることは授業でおこなってきましたが今以上に技術や知識が必要であることが分かり、これからの学生生活の中でこれまで以上に勉強する必要があると気付きました。これからはもっと真剣に勉強したいという思いが強くなりました。

4 今後の学生生活に生かしたいこと

今回の研修を通して、縫製工場で働く人達のことを尊敬しました。お客様に綺麗で着やすい服を届けるため、手間をかけて服を作っていることが初めて分かりました。将来、ファッション業界で働きたいと思っていますが、今回感じたことを就職活動時も仕事に就いてからも忘れずにいたいと思います。工場で教えていただいた技術は、これから学校の課題でも活かしていきたいと思います。今まで以上に真剣に大学の授業で学んで、服ももっと真剣に考えて作りたいと思います。自分に足りないと感じたことも沢山あったので、それらはこれからの学生生活でより多く身に付けるよう努力して、社会で活躍できるよう、今後の学生生活を有意義に過ごしていきたいと思います。

所属学部学科 ▶ 服装学部ファッションクリエイション学科2年

1 履修の目的・目標

縫製工場ではどのような作業工程があり、どのような流れで行われているかを知ることを目的として履修しました。縫製を行う技術や効率よく作業する方法を学び、それを身につけること、効率よく作業を行うためにどのようなコミュニケーションをとるべきか、学校と会社の違いなど技術以外のことも学んでいきたいと考えていました。

2 研修で最も印象にのこったことについて

私は研修始まってすぐサッシュベルトのステッチミシンをやらせて頂きました。何枚か縫った後に綺麗に縫えていなくて角のミシンを全てやり直しになってしまいました。そのステッチミシンの良いものと悪いものを比較してみると1mmしか変わらないのを見た時、学校で先生が仰っていた1mmの世界とはこのことかと肌で感じました。自分の中で"このくらい大丈夫だろう"という甘い考えがプロの世界では通用しないことを痛感しました。二年間学んでいてもうまく綺麗に縫えないし時間もかかってしまい、本当に自分が縫っても大丈夫なのか不安になりました。しかしそんな中で専務が「失敗することで学んでいくんだよ」と仰っていました。失敗しない方がいいのはもちろんですが、失敗することを恐れたりこのくらいと甘くみて見逃したりする方が、縫製技術は身につかないし良いものは作れないし自分自身の成長にも繋がらないことを改めて思いました。

3 研修を通して気づいた事・学んだこと

見えない、目立たない箇所の少しのずれやほこりまでも無くしていく作業を見て、お客様に満足してもらうためにはここまでする必要があると学びました。また、プロの世界ではそのようなことはできて当たり前で、そこにスピードが伴わないと通用しないことも学びました。一日の中でどれだけ多く作れるか一分一分がコストと関係していることを常に意識して作業をすることにとても緊張しました。

技術以外に気付いたこととして、工場の方々は様々な個性を持っているのに誰一人として違う方向を見ていないということです。朝のミーティング、作業の様子・雰囲気を間近で見て全員が全員同じ方向を見ているなと感じました。良い服は、良い設計・パターン・裁断・縫製…とありますがそれぞれを行う人がうまくコミュニケーションをとっていかないと成り立たないことだと思います。この工場で常に良い服を作り続けていける理由が理解できました。

4 今後の学生生活に生かしたいこと

課題に対する姿勢を変えていきたいです。自分の物を作るからこのくらいでいいやではなく、練習台として完璧に作り技術を完璧に身につけ、ほかの誰かに作る時などにもっと素晴らしい服を作れるように取り組みたいです。社会では締切までに終わらせることの大切さをこの研修で肌で感じたので、時間が経っても気を抜かず、どの課題でも綺麗さとスピードを意識して取り組んでいきたいです。

私は三年生からはデザイン系を深く学ぶコースに進みます。ファッション業界の職種の中でどの道に進むかまだはっきりしていませんが、工場の方が仰っていたように誰かを笑顔にできるような服作りをしていきたいです。沢山の職種が繋がることで洋服が作れ、買って頂くお客様がいることでファッション業界が成り立つことを忘れず、この研修で学んだ沢山の技術もそれ以外のことも意識して学校生活を送っていきたいです。

国内プログラム

[梅春] ファッション企業研修(東京)

授業概要

本授業は後期期末試験終了後を梅春学期と設定し、国内ファッション系企業で4週間のインターンシップを行う授業科目である。ファッション系企業の業務内容や仕事の進め方、企業内の様々な職種やそれらの業務内容を習得する。実施時期は2月下旬から3月中旬の4週間である。

到達目標

大学在学中に4週間の長期にわたり企業インターンシップを体験することで、仕事をすることの意味や意義を理解するとともに社会人として求められる主体性、行動力、課題発見力やコミュニケーション能力を身につけることを到達目標とする。

期間／スケジュール

第1週　平成31年2月18日(月) ～平成31年2月22日(金)
第2週　平成31年2月25日(月) ～平成31年3月1日(金)
第3週　平成31年3月4日(月) ～平成31年3月8日(金)
第4週　平成31年3月11日(月) ～平成31年3月15日(金)

成果と課題

多くの学生が漠然としたイメージしか持っていない「社会、仕事、企業」などについて、具体的な姿がインプットされた事が最大の成果としてあげられる。当プログラム参加により、学生は企業や仕事が多くの人間のコミュニケーションの上に成り立っている事や責任感の重要性、日々の仕事はどのように進められているかを学べたと報告している。これらの内容は企業の現場に携わった事により初めて実感できた事柄であり、大学生活の中では多くを得られない果実だったと言える。

また今現在の知識や知見の少なさや自らの発信力の不足を感じた学生も多く、今後の大学生活の中でそれらを意識して過ごしたいとの思いを持つきっかけとなった。

当プロジェクトでは研修先企業により業種や実際の業務にかなりの幅があり、事前事後に統一感を持って具体的な目標や成果を共有する事が難しい面がある。本年度は報告会にて各自の研修についてプレゼンテーションを実施した結果、情報の共有と新たな学びや気付きが生まれた事は大きな成果だった。

1 履修の目的・目標

私は服を作ったり見たりと服が好きです。したがって、将来は服に携われる仕事がしたいと考えています。服に携われる仕事は、服を売る・作る以外にもたくさんあると思います。どのような仕事があるのか早い段階から学び、もっといろいろなことに挑戦し、自分のやりたいことをみつけたいと思い参加させていただきました。

2 研修で最も印象にのこったことについて

キッズの夏服を決めるのにまず、内見会が行われました。店長リーダー・MD・チーフが集まり、企画が考えたサンプル服を見てデザイン・値段など良いのか・どのくらい仕入れるのかについて話し合いをします。打ち合わせが終わったら今のキッズ服の現状・これからどのようにしていくのかという話し合いが行われました。キッズ服の売り上げを伸ばすには今後どのようにしていったらよいのか皆さんと一緒になって考えることが出来とても勉強になりました。その後展示会が開かれました。直営店のお客様がいらっしゃり、どの服をどのくらい仕入れるか考えていかれました。展示会の準備も携わらせていただき内見会にも出させていただいたため、お客様の質問に対応することが出来、前の服のトレンドなどいろいろなお話をさせていただきとても楽しかったです。その次の日に、受注会議が行われました。すべての店長さんが集まり、本当にその商品を商品化してよいか話し合いをします。このようにして服が商品化されていくことを学びました。

3 研修を通して気づいた事・学んだこと

営業では今回キッズ服に携わらせていただきました。普段子供服を気にして見ていませんでしたが、インターンをさせていただいてから子供がどのような服を着ているのか意識して見るようになりました。子供服のほうが大人の服よりとても素材にこだわっていて、なおかつデザインにもこだわっていることがわかりました。沢山の会議に出させていただき、商品化するまでの過程を一通り見させていただくことが出来てとても勉強になりました。営業ではこのお仕事以外にもお客様の情報の管理や商品の検品などお店を運営する上でのお仕事を沢山行っていて驚きました。お店に並んでいる服一着には沢山の人が携わっていることがわかりました。プレスではサンプル服の管理、SNS・ブログでの発信・メディアへの対応を行っていました。2/21リニューアルオープンのカフェにSNSの情報を頼りにお店に足を運ばれるお客様がいらっしゃいました。また、雑誌を見て服を購入したいというお電話もありました。現在はSNS・オンラインショップを利用する人が増えています。そのため情報発信のお仕事はとても重要であるということを学びました。プレスというお仕事をあまり理解していなかったので、今回とても勉強になりました。営業・プレスのお仕事以外にも企画・総務・デザイナーなど沢山あり、アパレルの仕事の多さに驚きました。

4 今後の学生生活に生かしたいこと

今回はファッション須賀さんでインターンシップをさせていただきました。私は普段大人のサイズの服ばかりを見ていましたが、今回キッズ服のお仕事をさせていただき、キッズ服にも興味を持ちました。これからは子供からお年寄り、すべての人の服装に目を向けていきたいと思いました。営業・プレスのお仕事は企業によって全然違うと思います。なのでもっと沢山の企業を見学し体験させていただき学んでいきたいと思います。いろいろな人の講義を聞いてもっと知識を増やし自分のやりたいことを見つけていきたいです。現在はインターネット社会です。多くの人にいろいろなことを知ってもらうには細かい情報も必要です。今後人に何かを発信するときは、相手に呼びかけるような発信・発表ができればいいなと思います。

1 履修の目的・目標

インターンに参加した動機は、今までアパレルの仕事をしたことがなく、ファッション業界について詳しく知らなかったので知りたいと思ったからである。その為には、実際に自分で体験することが一番良いと思いインターンに参加した。インターンに参加する上でたてた目標は、積極的に行動すること、社会人としての当たり前の休まない、遅刻をしないである。私は、積極的に行動することが苦手なのでインターンを通して、ファッション業界の知識を深めるだけでなく、積極性を持ち、人として成長したいと思った。

2 研修で最も印象にのこったことについて

インターンで印象に残っていることは、店長会議を見学したことだ。店長会議では、売上の話や、SSのレディース服の説明が行われた。また、SSのレディース服の中から指定された服を使ってコーディネートを組むゲームを行った。私も店長さんたちに交じってゲームに参加した。自分とは異なる系統と年代の服をコーディネートするのは難しかったけれど、私の組んだコーディネートを見て、「かわいい！若い！新しい！」と言って貰えたのは嬉しかった。店長さんたちは慣れた手つきでブランドのイメージにあったコーディネートを組んでいて凄いなと思った。私もアパレル店員として働くことがあるならば、この店長さんたちのように、お客様の要望に応えオシャレなコーディネートを組める店員になりたいと思った。

3 研修を通して気づいた事・学んだこと

このインターンを通して、アパレルの仕事は華やかなイメージがあったけれど、瑞江にあるセンターに行って、売れ残った大量の服を片付けたり、ZOZOに送る服の袋詰め作業、カタログ作り、ひたすらパソコンに商品番号を入力したり、スワッチを作ったりと、意外と力作業や事務作業が多いことが分かった。私は、パソコンが苦手なのでパソコンでの作業は慣れるまで少し大変だった。社会人になったら仕事でパソコンを使うことが多くなると思うので、その時の為にパソコンの練習はしておこうと思った。また、電話対応も大変だった。今まで仕事の電話を取ったことがなかったので、今回のインターンで初めて電話の取り方を勉強出来た。何回やっても慣れず、電話が掛かってくるのが怖かったけれど、いい経験になったと思う。

4 今後の学生生活に生かしたいこと

このインターンを通して、子供服に触れる機会が多く、今まで子供服にあまり興味がなかったが、とても可愛くて子供服関係の仕事に就くのもいいなと思い、興味の幅を広げることが出来た。これからの学校生活に生かしたいことは自分から積極的に行動することである。インターン中の私は、自分から積極的に行動することを意識していたが、少し緊張もしていて思っていたよりは積極的に行動できていなかったと思う。けれど、インターン後の私はインターン前の私より成長できたと思う。自分から積極的に行動することを今後の学校生活にも生かして色々なことにチャレンジしていきたい。

1 履修の目的・目標

就職活動のひとつとして、実際に現場に行くことで、どのような業務で、どのような流れで、どのような繋がりを持ってその企業が社会に対して利益やサ―ビスを提供しているのか、企業全体の枠組みを知った上で、実際に業務をやらせていただいて、自分の今の技量や適性を実感し、また第三者からの客観視や評価を知りたかった為。

2 研修で最も印象にのこったことについて

業務を教わり、実際に取り組んでいく内に分からないことや、疑問点が出てきて、はじめの内はなかなか声を掛けづらく戸惑うことも多くありました。しかし、ひとつ質問をしてみると、質問内容はもちろん、プラスでもっとこうしたらやりやすいとか、効率が良くなる、お客様に喜んでいただける等々、質問以上のことをたくさん教えてくださることに驚きました。三週間という、短い期間のインターンでの研修にもかかわらず、少しでも私たちに分かりやすいように、理解しやすいようにと、忙しいなか丁寧に説明してくださる姿をみて、とてもあたたかい素敵な方々で成り立ってる職場なんだなと、その都度都度感じさせられました。予約表をみてもひとりひとりのスタッフの予約は常にいっぱいで、予定の時間を押してしまって休憩すら間々ならない状況にあっても、私たちインターンに対しての姿勢は変わらず丁寧で、対等に接して下さっていて、こういったことは当たり前じゃないし、誰もが簡単にできることじゃないと思います。研修を重ねる度、エンドウのスタッフの方々の人間性に驚き、憧れました。

3 研修を通して気づいた事・学んだこと

ポーターのお仕事もフロントのお仕事も一環して、臨機応変な対応力が必要だと強く感じました。お客様を相手にして接客する以上、お客様のご都合や急なリクエストはつきものです。また担当者が時間を押してしまったりすることもあって、予定が崩れてしまうことは多々ありました。しかしそこで柔軟な対応力が試されると思います。お客様にご迷惑がかからないことを第一に、まず全体の現状の確認、余裕がありフォローに回れるスタッフの確保、そしてその変更点をスタッフ全員が把握できるようにするツールの手配等々をコミュニケーションを取り合って冷静に、正確に、迅速に対応することが重要だと学びました。このようにたったひとつのズレに対する対応量はとても大きく、まずはこういった問題を起こさない為にも、スタッフひとりひとりが予定が崩れないよう、ズレの出ないよう、常に時間と予約表を確認しながら働いていました。また、優先順位を考えて業務に取り組むことも重要だと学びました。上記と重なる部分もありますが、ただ指示されたことや予定を何も考えずにこなすのではなく、今は何を一番にすべきなのか、その時の状況と今後の予定を照らし合わせながら業務に取り組むのでは大きく違いがあると感じました。

4 今後の学生生活に生かしたいこと

コミュニケーションを取ることの大切さを改めて実感しました。話しをする際に相手の名前を呼ぶのと呼ばないとでは印象が大きく変わります。実際に名前を覚えてもらってから話しをすると、すごくリラックスできて上手くコミュニケーションが取れているという感覚がありました。私自身、人の名前を覚えることがかなり苦手でしたが、このことがあってからスタッフのみなさんの名前を一生懸命覚えました。すると、自分からも声が掛けやすくなったし、お仕事にもスムーズに活かせるようになりました。これからたくさんの新しい出会いがあると思います。まずはすぐに名前を覚えることからはじめて、ひとつひとつの出会いを大切にしていきたいと思いました。また、ブライダル（ポーター、フロント、ウェディングドレスコーディネーター）のお仕事内容は実際に経験して、間近で見学して、流れや繋がりを理解する事はできた一方で、アパレル企業（MDやプレス等）のお仕事はどのような業務があって、どういった流れに沿ってひとつの服が商品として市場に出回るのか、など知りたいこと経験したいことがたくさん出てきました。その為、これから自分の興味のある職種や企業を絞ってインターン等々を通して自分の将来と向き合っていきたいと思いました。

1 履修の目的・目標

私がこのプログラムを履修した理由は、私は2年間この大学で学んだが将来どのような職業に就きどのような風に働きたいのか今の環境では全く考えつかず、実際に企業さんを見て考えたいと思ったからだ。そもそも服に関わる仕事がしたいのか、かなり根本的な部分から悩んでいる。学校の授業でも触れたことのなく、個人的にも関わったことのないウェディング業界でのインターンシップだ。なにも知らない状態からまずはどのような業界であり、どのようにお客様と関わっていくのか学びたい。

2 研修で最も印象にのこったことについて

私がもっとも印象にのこったことは、ドレスを着させていただいたことである。これは本直しという作業の一つである。リリース前のドレスのサイズ感の最終調整であったり、デザインや小物の調整を行う。もし不具合等あれば、直すようだ。このときはウェディングドレスはなく、カラードレスのみであった。着用していたのは私を含めて2人で、それぞれ違うドレスを着ていた。1人だいたい6,7着は着ていたので色違いを含め12～14枚もあった。今回のリリースのドレスは特に多いようだ。同じサイズでもドレスにより大きめのものや小さめのものがある。特にハツコエンドウではハツコエンドウオリジナルドレスに加え、ANTONIO RIVAやValentinaなどのインポートドレスも扱っているためサイズ感はドレス個々で若干変わってくる。着用したドレスがどのようなサイズ感なのか、着用するときの注意点などがバイヤーの方からドレススタイリストのマネージャーの方に伝えられる。また、リボンやオフショルダーなどのドレスに直接付いてはいないものの講習も行った。実際にドレスを着るのは人生初めての経験であったことに加え、今までポーターとしてドレススタイリストの方のお手伝いはしていたがカーテンの中でお客様にどのように着させているかは知らなかったので、実際に自分が着用したことにより知ることができた。

3 研修を通して気づいた事・学んだこと

実際にドレスを着させてもらったことにより、ドレススタイリストの方がカーテンの中でどのようなことをお客様に直接行っているのか、新婦の方の大変さを学んだ。ドレスを着てしまうと自分のことは全くできなくなってしまう。ただ椅子に座るという行為だけでも、半回転回るという行為だけでも一人ではできない。そのため誰かに手伝ってもらう必要がある。ポーターのときにドレスを運び、とても重いと感じたが実際に着るとやはり重く、それに加えパニエの重さが加わる。パニエにはデザインを形作り、歩きやすくする効果、身長に合わせてスカート丈を調整する効果がある。そのためパニエはドレスを着るうえで必要不可欠なものである。もちろんドレスのラインによって使うパニエのサイズは変わってくるが、私が着用したのはほとんどがプリンセスラインかAラインドレスのため1番大きいサイズのパニエかもしくはそれに加えワイヤーのない大きなパニエを使った。お客様に人気があるのもプリンセスラインかAラインドレスであるため使用しているパニエは変わらないであろう。この重いパニエとドレスを着用し、靴は7センチか12センチのヒールの靴になる。このくらいの高さのほうが綺麗に見えるようだ。ただ立っているだけでもかなり辛かったが新婦さんはこの状態で歩くのだ。また妊娠している方も少なくない。そうなるとかなりの体力勝負になるであろう。

4 今後の学生生活に生かしたいこと

今回のインターンではドレススタイリストの方のお手伝いをするポーターという役職とフロントのお仕事をさせてもらった。また、ポーターのお仕事の際にはソーイングというドレスを直す仕事をする方とも関わることができ、本直しの際にはバイヤーの方、インターンの初めは人事の方とも関わることができた。ウェディング業界で働くさまざまな職業のかたがたに関わることができ、どんな職場なのか学ぶことができた。大学の授業でウェディングに関わる授業はないが、ドレスに関わることは嫌じゃないと感じた。将来は服に関わることができればいいと考えているが、洋服だけではなくドレスも和装も服の一種であるため、そこも範囲に入れて将来のことを考えたいと思った。ウェディングの業界に入るためにはウェディングの専門学校を卒業しなければならないのかと思っていたが意外とそうでもないらしく、普通の大学を卒業して就いた人もいれば不動産の会社に勤めていて中途採用で入った方もいた。もしこれから先本当にやりたいことが見つからなければウェディングの職に就くのも悪くないと考えた。

1 履修の目的・目標

３年後の就職活動の情報収集として、実際に働き現場の雰囲気を肌で感じられることから、履修を決めました。また、一年間の学習の中で自分がどの程度、知識・技術を身に着けることができたのかを計り、これからの行動指針にできると思ったからです。やるべき仕事を効率よくこなし、環境に順応することを目標として励みました。

2 研修で最も印象にのこったことについて

納品前のまだ店頭に並んでいない商品を採寸する仕事が最も印象に残りました。まだ世に出ていない商品を一足先にじっくりと触れて見ることができ、自分では到底買うことができないような高級な商品も触ることができたからです。実習の授業の経験から、パターンの形状や縫製方法、縫製の難しい箇所を想像できたので、できあがりの丁寧さや工夫が見て取れて、とても勉強になりました。海外工場と国内工場の品質、価格の差もわかりました。海外工場のものは価格がお手頃な代わりに、縫製の仕方や規格寸法と実寸とのずれがありました。中には売り出すことができないものもあり、見比べることができたことはとてもいい経験でした。さらに、デザイン性に富んだものも見ることができ、私が企業の方に質問するとパターンの形状を丁寧に教えてくださりました。デザイン発想のとてもいい刺激になりました。

3 研修を通して気づいた事・学んだこと

私の配属された技術課は、デザイナーや生産管理と生産工場との間の仕事で、特に工場との連携が重要となることがわかりました。法定基準や企業独自の基準、納品先の基準などすべてを考慮し、検品・採寸を繰り返して商品を世間に売り出すことから人から人に渡っていく流れを感じることができました。法定基準なども初めて知るものでした。例えばカットソーなどの被り物は、衿ぐりが周囲６０ｃｍ以上でないといけないということです。何気なく着ている服が法律で定められ、守られていることで私たちにとって着心地の良いものになっているのだなと思いました。生産工場の実際の様子も動画で見させていただきました。工場にも格差があり機械が導入できているところと、手作業のところなど現状を見ることができ、さらに日本で売る商品を文化の違う海外の人に作ってもらうことへの難しさを知ることができました。習慣や価値観の違いがあり、掃除をする、手を洗う、丁寧な作業をするなど日本人が実際に働いている人に教えに行かなければいけないということです。総じて、今まで知らずに過ごしてきた製品になる前の過程や規格、店頭など表向きでは見ることのできない側面を見ることができ、とても勉強になりました。

4 今後の学生生活に生かしたいこと

このインターンシップの経験から、現場で使える知識をこの学校で学んでいることと、一年間で学んだことが無駄にならず、知識として身についていることがわかりました。ですが、まだまだ知識、技術が足らないということもわかりました。これから、あと３年ほどありますが一年一年着実に進歩できるように漏らすことのないよう頑張りたいです。授業での経験が生かされた場面が多くあったので、今までより一層身を引き締めて将来の自分のために精一杯頑張ろうと決めました。また、将来なりたい職業が決まっていないので、今回研修したアパレル企業だけでなく様々な職業を調べていきたいと思います。身内にアパレル系の仕事をしている人がいないので、自ら行動して情報収集していきたいです。そのうえで、今回の経験が自信になったことは間違いありません。将来のなりたい自分のためにも知識、技術の向上に励みたいです。

1 履修の目的・目標

私がこのプログラムを履修したのは3年生から始まる就職活動に向けて実際に経験して少し早めのこの時期に働くということを学びたいからである。またこの3週間という期間の中で働いている社員の方々とコミュニケーションをとり就職活動についてや、仕事内容を聞きたいと思った。それらを具体的に聞いたり、体験したりすることで学生生活でのモチベーションと就職活動に生かしたい。

2 研修で最も印象にのこったことについて

私がインターンシップに行かさせていただいたScrollは会社内の雰囲気がとても良かったということが印象に残っている。それは、配属させていただいたユニットに挨拶に行ったときに快く私を受け入れてくださったからである。自己紹介の場を設けたり、会社の概要を軽く教えてもらい、とてもうれしかったのを覚えている。他にも、会社の中にカフェがあり飲み物や軽い軽食、お菓子などが置いてありリラックスできる環境が備わっていた。

研修中の仕事内容では、私が思っていたよりも外部の方との連絡が多いということである。企画している商品などについて不明な点があった時、すぐに連絡をしたいときに会社の携帯で電話しているところが多かった。ひとつの商品を作るということは色々な方が関わってできているんだなと実感した。

3 研修を通して気づいた事・学んだこと

私は研修を通して市場調査の大切さを学んだ。今まで作品を作るときには自分が好きなものをつくり、流行などはあまり気にすることは少なく、自己満足なことが多かった。しかし商品を企画する際にはお金が関わってくる。そのため他社通販会社の商品や展示会に行き、どれが売れているかを調べ、実際に商品を手に入れることによってどこがいいのかなど見ていた。また私はシニアミセスのユニットにいた為ターゲットの多い街(巣鴨、東日本橋、等)に出てどの様な服を着ているのか、天気との関係性についてもしっかりと研究していた。それを見たときにシニアの方々のファッションはあまり流行性が無く、落ち着いた色や着脱しやすい機能性があるものが多いと感じた。

もうひとつ学んだことは商品を作るのに何度もサンプルをつくり、工場とやり取りしながら商品の量産をしているということだ。お客様の手に届く商品ということであがってきたサンプルを採寸したり、実際に着てみて着心地、機能性などをしっかりと企画の方など一人だけでなく、ユニットの中の人たちも着たりすることでより良い物になるようにしていた。安い価格なのにいい商品を作っていてとてもやりがいのある企画だと思った。

4 今後の学生生活に生かしたいこと

私は今回2日目にScrollの実際に行われているインターンシップの受付を担当し、参加させていただいたときに3年生の就職活動生の方を見させていただいた。そこでは、会社の概要、これからの会社の姿のほかにも人事課の方が就活生に向けて経験談を交えながら話していた。そのインターンシップを見て、他の企業がどの様にして説明をしているのかが気になった。だから自分が就職活動をするときに積極的にインターンシップや説明会に参加していきたいと考えている。

この研修を通して社会人の方と一緒に過ごすことが多かったので、一人ひとりの責任感が大切だと思うようになった。よって自然と時間はしっかり守ることが出来た。この責任感というのは働くということで一番大切だと考えているので、学生生活にも生かしていきたい。

1 履修の目的・目標

私が国内企業研修プログラムを履修した理由は、学校でファッションの勉強をするだけでなく、実際に会社など商品の企画などの開発が行われている現場を見て自分が本当にやりたいと思えるような仕事を見つけたいと思ったからです。最初は幼い頃からの夢だったファッションデザイナーを目指して文化学園大学に入学しましたが、この学校で学んでいくうちにファッション業界にはいろんな仕事があることを知り、いろんな先生たちの体験談などを聞いて、今からファッションデザイナーだけに夢を絞らずにもっと視野を広げてみたいという思いが生まれました。この国内企業研修プログラムでは、いろんな仕事の職種を知り、将来の夢の視野を広げることを目標として取り組みました。

2 研修で最も印象にのこったことについて

私がスクロールの企業研修で最も印象に残ったことはスクロールの取引会社のキャラクターの展示会や下着の展示会に連れて行ってもらったことです。キャラクターの展示会では、ディズニーやマーベル、サンリオ、スターウォーズやハリーポッターなどいろんな有名キャラクターのグッズが展示されていて、とてもわくわくした気持ちになりました。その時期によって売れるキャラクター商品は異なり、生誕何周年記念の時やそのキャラクターの映画公開前だと話題性があり、売れるのでそのキャラクターの商品を製作したりするそうです。下着の展示会ではリーバイス、スポルディングス、プーマなどの有名ブランドの下着の新作などを見せてもらい、エコ素材でできたパンツがあったり、立体裁断で作られたパンツがあったり、ファッションを学ぶ身として見ていて勉強になりました。これらの展示会にいけた事でどういうキャラクターや商品が注目されている商品なのか知る事ができたりしてよかったです。今後は展示会で見た素材やデザインなどを参考にして洋服を作ったりするときに展示会で見たものなどを思い出して参考にしていけたら良いなと思います。

3 研修を通して気づいた事・学んだこと

国内企業研修プログラムを通して実際に会社で働いてみて、自分で考えて行動しなければいけない面が多く、一人ひとりがしっかりと責任感を持って仕事をしていて、学校とは全く違う環境に刺激を受けました。学校ならやるべきことは先生が教えてくれるけど、会社ではある程度の事は教えてもらえるが、ほとんどは自分から学ばないといけない。また学生のときはミスしてもやり直しや融通が利くけれど、会社ではミスしたことで金銭の損失が出ることもあるので安易にミス出来ず、責任感も学生のときとは全く違っていると感じた。その反面、自分が努力した事が会社に影響を与え、会社を通して誰かのために貢献する事が出来るので会社で働くことはとても大変だけど、やりがいのある仕事だと感じました。この国内企業研修プログラムを通して自分が実際に社会に出て働く前に社会の厳しさをを知る事が出来たので、これからは何事にも責任感をもち、自分で考え行動できるような人になりたいです。

4 今後の学生生活に生かしたいこと

国内企業研修プログラムを通して自分が実際に社会に出て働いたことにより会社の中でもMDや企画担当、カタログ製作担当、仕入れ担当など様々な仕事の役割があることを知る事が出来たので、今後の将来の夢の視野に入れていきたいと思いました。今までは洋服を作る側の仕事をしたいと思っていたけど、洋服を作るだけでなく、企画したり洋服の魅力を伝える仕事をするのもいいなと思い、やりたいと思う仕事の幅が広がりました。今後はもっと色々なファッションの職種について積極的に学んでいく機会を増やしたり、他の企業のインターンにいってみたりする機会を増やしていこうと思います。また、展示会などで見たのは下着やキャラクターグッズで、一見洋服とはあまり関係ないジャンルに思えますが、そこから色々なことを学ぶ事が出来たので、これからはデザインのアイデアを考えるのに洋服だけに絞らず色々なものからインスピレーションを受けて、もっといい作品を作れるようにしていこうと思います。

海外プログラム

[梅春] ブリスベン研修

授業概要

文部科学省大学教育再生加速プログラム（AP事業）である長期学外学修プログラムとして実施する．後期試験終了後から春期休暇までの4週間にわたり海外学修を体験する．TAFE QUEENSLAND BRISBANEにて，英語研修，ワークショップ，講義，異文化交流，課外授業などに取り組む．言語は，すべて英語となる．

到達目標

本学の長期学外学修プログラムはコミュニケーション力、伝統・文化理解力、グローバルキャリアデザイン志向をもった「グローバル創造力」の育成を目的としている。4週間にわたりTAFE QUEENSLAND BRISBANEにて，英語によるコミュニケーション力の向上，異文化の理解深耕などを図り，今後ますます進展するグローバル化社会において，ファッションを中心とした分野で発揮できる能力を養成する．

期間／スケジュール

研修日程：2019年2月12日(火) ～ 3月10日(日) / 3月13日(水)・14日(木)

	Mon	Tue	Wed	Thu	Fri	Sat	Sun
	2/11	2/12	2/13	2/14	2/15	2/16	2/17
Week 1	祝日	事前教育				成田発	ブリスベン着
		文化学園大学					
	2/18	2/19	2/20	2/21	2/22	2/23	2/24
Week 2	8:15-12:30 英語研修 General English course (ELICOS) TAFE Queensland Brisbaneにて					自由行動	自由行動
研修先	オーストラリア　ブリスベン						
	2/25	2/26	2/27	2/28	3/1	3/2	3/3
Week 3	8:15-12:30 英語研修 General English course (ELICOS) TAFE Queensland Brisbaneにて					自由行動	自由行動
研修先	オーストラリア　ブリスベン						
	3/4	3/5	3/6	3/7	3/8	3/9	3/10
Week 4	8:15-12:30 英語研修 General English course (ELICOS) TAFE Queensland Brisbaneにて					自由行動	ブリスベン発 成田帰国
研修先	オーストラリア　ブリスベン						
	3/11	3/12	3/13	3/14			
Week 5			事後教育	研修報告会			
研修先			文化学園大学				

成果と課題

本年度よりブリスベン研修を語学研修に特化したプログラムに改め、同じくオーストラリアで実施した「シドニー・メルボルン研修」との差異化を図った。その結果、英語力の向上を目的とした学生が履修し、参加目的と実習内容のミスマッチを避けることが出来た。

プログラム実施の面では、語学学校において英語力毎にクラスが分けられたことで、それぞれの学生のレベルにあわせた研修を行うことが出来た。また、オーストラリアの語学学校には日本以外の地域から来た学生も多かったことにより、出身地域によって話される英語も異なるという気づきを学生が得ることが出来た。英語にも文化的な多様性が反映されることを体験できたという点で、単なる語学研修にとどまらない成果を挙げられたと考えられる。

1 履修の目的・目標

私は、高校生の頃に留学を経験してみたい思っていて、学校の海外プログラムで留学できることを知り履修しました。今はカタコトな英語しか話すことができないので、日本へ戻ってきたときには日常会話が少しできるくらいの会話力を身に付けたいと思っています。今回の機会を生かしてこの国の文化や衣食住などを勉強したいと思っています。また、日本へ旅行に来ている外国人が困っていたら自分から声をかけて手助けしたいと思っています。

2 研修で最も印象にのこったことについて

私が今回の研修で一番印象に残ったことは、生徒と先生の仲が良く、壁が無いところです。日本では、生徒と先生の壁が少し感じられますが、私が今回行った学校ではその壁がまったく感じられず生徒と先生が一緒になって勉強しているという雰囲気がありとても良く楽しく感じました。教科書内の問題で分からないところがあればすぐに質問をし、先生もその質問に対して親切丁寧に教えてくれ理解しやすかったです。私が話したいことが出てこないとき手を貸してくださったり、とても優しい先生が多く安心しました。また、生徒同士も仲が良く違う国から来ているということを感じさせないくらいでした。私のクラスではスペイン語、ブラジル語、韓国語、中国語、タイ語を話す人がいました。お互いの国の言葉を教えあったりして、英語だけでなくいろんな国の言葉を知ることができたのもすごく楽しかったです。授業中クラス内はと和気あいあいとしていて自分から進んで授業に取り組めて楽しかったです。

3 研修を通して気づいた事・学んだこと

私が今回の研修を通して学んだことは、英語の大切さです。英語を学ぶために今回の研修に参加したのですが、言いたい言葉が思うように出てこず苦労したことが何度かありました。そして、中学校、高校、大学で学んできた英語だけではとても足りないことが分かりました。なので、普段生活している時に自分から積極的に英語を勉強していかなければいけないと思いました。私は普段授業内であまり発言をしないのですが、授業内で発言することや分からないことがあったら積極的に先生に質問して分からないだけで終わらせるのではなくしっかり理解できるまで取り組むことがとても大切だと気づきました。通学中などに洋楽を聴いたり洋画を見ることができたらいいと思います。また、見たり聴いたりするだけでなく話す機会を作れたらより良いと思いました。私はブリスベンに行く前は、ブリスベンは大都市で東京と同じような雰囲気なのかと自分の中で想像していましたが、いざブリスベンに到着して学校の周りやCityの方を歩いてみると自分が想像していたブリスベンとは違って、自然が多くあり空気がきれいでとても過ごしやすいところだと思いました。自分の想像やインターネットで調べたことだけではわからないことが現地へ行って実際に体験できたのでとても良い経験になりました。

4 今後の学生生活に生かしたいこと

私は、将来ツアープランナーになりたいと思っています。ツアープランナーになるためには色々な資格を取ることも大切だと思いますが、資格を取る勉強と一緒に英語の勉強をできたらいいと思っています。また、ツアープランナーの仕事は日本や海外のいろいろな場所をよく知らないと上手なツアーを企画することはできないと思うのでいろいろなところへ行って現地の人と触れ合ったり行った場所についてよく知ることができたらいいです。そのためには英語が必要不可欠だと思うので現地の人に詳しく話が聞けるように今から英語を勉強したいと思います。私はスピーキングが苦手なのでアプリなどを使って向上させられたらいいと思います。また、親戚に英語圏で仕事をしている人がいるので、分からないことを聞いたりその人と英語を使って連絡を取ったり、周りの人の力も借りながら英語力の向上に努めたいと思います。

1 履修の目的・目標

昔から留学に興味はあったのですが、いきなり長期で行くのは不安な部分などもあり英語も話すことができないので、今回の三週間で英語に慣れようと思い参加することにしました。短い期間なのでできることは限られていますが、英語を話す環境に慣れて、せめて簡単な会話や自分の感情を伝えることができるようになりたいと思っていました。そして、今後も英語を勉強をするにあたっての糧になるようにしたいと思っています。

2 研修で最も印象にのこったことについて

私が今回の研修で最も印象に残ったことはG.O.M.Aという現代美術館に行ったことです。ちょうど最後の学校の日に行ったのですが、そこの美術館の作品がとても印象的でした。なぜこんなにも印象に残ったかと考えると多くの作品が何を伝えたいのかよく理解ができず考えたことが多かったからだと思います。初めのほうに見た作品はタイの作品が多く、一緒に見て回った人の中にタイの人がいたので質問をしたりしながら見て回りました。G.O.M.Aで私が気にいった作品は多くの写真があったコーナーと、タイの写真のうちの一つの写真です。多くの写真があったコーナーには日本人が撮影したものもあって日本をとても強調していてその写真に写っている人たちから強い信念みたいなものを感じるような写真でした。タイの写真も同じように写真から伝わってくるものがあったのですがそれはとても言葉にしにくいようなものでした。G.O.M.Aへクラスの人たちと会話をしながら歩いて向かっていったのも印象に残っています。授業の時は席が遠くてあまり話したことがなかった人とも英語で会話をできたことがとてもうれしかったです。

3 研修を通して気づいた事・学んだこと

今回の研修を通して気づいたことは、英語を話せないからこそ話そうとすることの大切さです。クラスで授業を受けたときクラスメイトはその英語の文法が間違っているかもしれなくても積極的に発言していました。そこでもし文法が間違っていたら先生が直して生徒がまたそれを言いなおし覚えていっていました。英語ができないからと言ってずっと会話をしないでいたら自分が何をできて何をできないでいるのかもわからないままになるし、友達もできないと思います。恥ずかしがらずに少しでも発言することによって、もっとコミュニケーション力も上がっていく上に英語力も自然と身についてくると思います。そしてもう一つは英語ができることの大切さです。英語圏であるからということももちろん理由の一つではありますが、初日から最後まで不便さを感じたのは英語ができないということだけでした。簡単に情報を伝えることができても、細かいことを伝えることができずにもやもやした場面が学校でも何回かありました。そういう場面が何回かあったからこそもっと英語をできるようにしなければいけないと思ったり、日本へ帰ってからも勉強をし続けなければいけないと強く思いました。クラスメイトの国籍もアジアはほとんどおらず、コロンビア人やスペイン語を第一言語としている人が多かったためそちらのほうの英語は聞き取るのも読み取るのも両方とも難しかったです。日本語英語とよく言われますが、他の国にもこういう形でそれぞれの母国語を主体とした英語があることに気がつきました。

4 今後の学生生活に生かしたいこと

今回の研修を通して自分の英語力の低さを改めて感じ、それと同時にもっと英語を勉強したいという意欲が出てきました。そして一つの言語を話せるか話せないかだけで交友の輪が一気に変わるということを実感しました。クラスの人たちとコミュニケーションをとりたいのに英語がわからなくてなかなか話せず悔しい場面などが多くありました。そのような経験から簡単なものではなく完璧に日常会話ができるようになりたいと思いました。三週間オーストラリアで生活した中で英語が話せないがために感じた不便さや悔しさというものは多くありました。だからこそこれからも英語を勉強し続けたいと思いました。連絡を取り続けている人も何人かいるのでそこでも英語を当たり前に使うので毎日必ず何かしら英語には触れる時間を多く持ちたいと思います。まだ一年生で正直に言うと将来何をしたいかはっきり決まっていませんが、考え方が今までよりも柔らかくなったので幅広い中から決めることができそうだと思っています。今後も英語を勉強するにあたっての糧になるようにしたいと目標を立てていましたが、確実に糧になったと思います。三週間という短い期間ではなかなか英語も上達することが難しかったです。長期間入れたらよかったと思っています。日本へ帰ってきて自然と英語に触れる機会がなくなり、自分から触れていかないと忘れてしまうと思います。すでに日本の感覚が戻ってきてしまっているので、余裕ができたらですが英会話スクールにも通いたいと思っています。

海外プログラム

[梅春] シドニー・メルボルン研修

授業概要

文部科学省大学教育再生加速プログラム（AP事業）である長期学外学修プログラムとして実施する。後期試験終了後から春期休暇までの4週間にわたり海外学修を体験する。オーストラリア　シドニー Raffles College of Design and Commerce校にてファッションワークショップ、オーストラリア　メルボルンWhitehouse Institute of Designでの学修体験とオーストラリア最大のファッションウィークに参加する。言語は、すべて英語となる。

到達目標

本学の長期学外学修プログラムはコミュニケーション力、伝統・文化理解力、グローバルキャリアデザイン志向をもった「グローバル創造力」の育成を目的としている。

1週間の事前研修、2週間のオーストラリア　シドニー Raffles College of Design and Commerce校でのファッションワークショップ、1週間のオーストラリア　メルボルンWhitehouse Institute of Designでの学修体験とオーストラリア最大のファッションウィーク参加により、異文化の理解深耕などを図り、今後ますます進展するグローバル化社会において、ファッションを中心とした分野で発揮できる能力を養成する。

期間／スケジュール

<table>
<tr><th></th><th>Mon</th><th>Tue</th><th>Wed</th><th>Thu</th><th>Fri</th><th>Sat</th><th>Sun</th></tr>
<tr><td></td><td>2/4</td><td>2/5</td><td>2/6</td><td>2/7</td><td>2/8</td><td>2/9</td><td>2/10</td></tr>
<tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>事前教育
オーストラリア学生と
共同ワークショップ
（浴衣講義）</td><td></td></tr>
<tr><td>研修先</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>文化学園大学</td><td></td></tr>
<tr><td></td><td>2/11</td><td>2/12</td><td>2/13</td><td>2/14</td><td>2/15</td><td>2/16</td><td>2/17</td></tr>
<tr><td>Week 1</td><td>祝日</td><td>事前教育/
出発前オリエン</td><td>事前教育
オーストラリア学生と
共同ワークショップ
（ファッション画）</td><td colspan="2">事前教育
オーストラリア学生
東京観光</td><td></td><td>羽田発
シドニーへ出発</td></tr>
<tr><td>研修先</td><td></td><td colspan="4">東京</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td></td><td>2/18</td><td>2/19</td><td>2/20</td><td>2/21</td><td>2/22</td><td>2/23</td><td>2/24</td></tr>
<tr><td>Week 2</td><td>シドニー着</td><td>Whitehouseにて
オリエンテーション</td><td>Whitehouse
にて研修・
学生との交流</td><td>パワーハウス
博物館見学</td><td>Whitehouse
講義参加</td><td>自由行動</td><td>自由行動
（ブルーマウンテンズ
国立公園）</td></tr>
<tr><td>研修先</td><td colspan="7">オーストラリア　シドニー</td></tr>
<tr><td></td><td>2/25</td><td>2/26</td><td>2/27</td><td>2/28</td><td>3/1</td><td>3/2</td><td>3/3</td></tr>
<tr><td>Week 3</td><td>Mardi Gras
Parade準備手伝
い</td><td colspan="2">インターンシップ
（ヴォーグオーストラリア編集部）</td><td>アトリエ見学
インターンシップ</td><td>ファッションショー</td><td>LGBTQI Mardi
Gras Parade
見学</td><td>シドニーから
メルボルンへ移動</td></tr>
<tr><td>研修先</td><td colspan="6">オーストラリア　シドニー</td><td>メルボルン</td></tr>
<tr><td></td><td>3/4</td><td>3/5</td><td>3/6</td><td>3/7</td><td>3/8</td><td>3/9</td><td>3/10</td></tr>
<tr><td>Week 4</td><td>Whitehouse
オリエンテーション
Welcome BBQ</td><td>メルボルン観光
（Laneway walk
等）</td><td>Whitehouse
講義参加</td><td>ファッションショー
見学</td><td>観光
（動物園）</td><td>自由行動
（観光・学生との
交流）</td><td>メルボルン発
成田着</td></tr>
<tr><td>研修先</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td></td><td>3/11</td><td>3/12</td><td>3/13</td><td>3/14</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>Week 5</td><td></td><td></td><td>事後教育</td><td>研修報告会</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>研修先</td><td></td><td></td><td colspan="2">文化学園大学</td><td></td><td></td><td></td></tr>
</table>

成果と課題

本年度はシドニーの他にメルボルンでのプログラムを追加し、「シドニー・メルボルン研修」として開講した。語学研修プログラムをやめ、シドニーではMardi Gras Paradeの準備の補助や見学を実施し、メルボルンではファッションショーの見学を行うなど、よりファッションに特化したプログラムとして実施した。これにより他科目との重複を避け、履修目的が明確な学生によって開講出来たことは成果といえる。

プログラム内容の面では、多様性を受けいれうる動きの一つといえるLGBTパレードの準備や見学によって、異文化を受け入れる姿勢を体験し、学生が文化的側面におけるグローバル化の影響への「気づき」を得ることが出来たと考えられる。

1 履修の目的・目標

私は将来、グローバルに活躍できる人材になれるようになりたいと思っています。そのためには英語が必要だと考えています。なので、今回のプログラムを通して、英語を上達させたいと思います。また、ファッションを学んでいる立場として、他国のファッションを知り、これからの製作に役立てたいと思っています。なので、今回の研修でオーストラリアのファッションを学び、知識として蓄えることができればいいなと思います。

2 研修で最も印象にのこったことについて

この研修の中で最も印象に残っているのは、ファッションで個性を表現することの大切さです。LGBT文化が根付いているオーストラリアには、Mardi Gras Paradeという個性に誇りを持とうとするための大きなパレードがあります。今回、そのパレードに参加するための衣裳を作っている人のところを伺って衣裳作りの手伝いをしたり、ワークショップの見学に行って話を聞いてから、そのパレードを見ました。そこではLGBTに限定せず、自分の意思に誇りを持っていて、ファッションにもそれが表れている人が多いということをとても強く感じました。日本にいると、周りに合わせて目立たないようにするほうが周りから受け入れてもらうために大切だといった風潮があり、自分の意思を曲げずにいると周りから非難されることが多いと思います。しかし、オーストラリアでは、自分の意志をしっかり持っていて堂々としている人たちが私には輝いて見えました。それを見て、ファッションを学んでいる立場として堂々と自分を表現することの大切さを感じました。周りと違うことをするには最初は勇気も要るだろうし、恐怖もあると思います。でも、それを乗り越えてきた彼らがかっこよくて感動してしまいました。また、そんな彼らを見て、私も自分を堂々と表現できる人になりたいと強く感じました。

3 研修を通して気づいた事・学んだこと

私がオーストラリアで気づいたこととして第一にあげられるのは、ファッションが自由である事だと思います。私がオーストラリアで出会った人たちは、それぞれ誇りを持っていて自身を持って個性を出していると感じました。つまり、コンプレックスを隠そうとせず、それを個性として堂々と見せられるような人が多いということです。日本人なら、体型や性等コンプレックスになりそうなものを隠す傾向があると思います。もし、これをポジティブに個性として捉えることができれば、私達がファッションで表現できる幅は広がると思います。そのためには、今回私が見たMardi Gras Paradeのように、一人一人がファッションで個性を表現できる環境が必要だと気づきました。自由で活気のあるオーストラリアのファッションは日本のファッションに欠けているものが詰まっていると思うので、見習わなければならないと感じました。また、今回の目標の一つであった英語の上達に関して、私が目指していたところまで上達させることができませんでした。この研修を通して、もっと英語ができたらと何度も感じる場面があり、その度に上手く会話ができないことに対してもどかしさを感じていました。また、実際にオーストラリアで過ごす日本人や他国の移民の方々を見る中で、グローバルに活躍できる人材になるためには、現地の人に混ざってスムーズに会話する事が必要だと思いました。

4 今後の学生生活に生かしたいこと

今回の研修で、自分の英語力がどれだけ足りないかをしみじみと感じました。また、現地の人々と話す中で、スムーズな会話をするための目安を知ることもできました。これからは海外の方に混ざってスムーズな会話ができるようになることを目標として、英語の学習に取り組んでいきたいと思います。そのために、大学の授業だけでは勉強が足りないと思うので、リーディングやリスニングを中心に自主的に学習していこうと思います。また、今回の研修を通して自分の単語力の無さに悔しくなることが多くあったので、英語の文章を読む中で分からない単語を一つ一つ覚えていって、一つでも多く覚えられるようにしたいと思います。その上で、この研修を通してできた友だちとの交流を中心に海外の人と交流できる機会を作って、英語を使えるようになりたいと思います。そして、最終的には海外の人と障害なくコミュニケーションを取れるようになりたいと考えています。ファッション面では、オーストラリアのファッションを知り、日本のファッションに何が足りていないのかを再確認する事ができました。これからは、オーストラリアに行った私だからこそできる表現の方法を探って、今後の製作に役立てていきたいと思います。まずは、自分が世間に対して訴えたいものや自分の意思を明確にして、表現することから始めたいと思います。その上で、自分の発想に誇りを持ってこれからの製作を行っていきたいと考えています。

1 履修の目的・目標

現地ではプログラムをこなすだけで無く、積極的に行動し、新しい環境の中でファッションを学んでみたい。また、語学面でも向上出来るように沢山オーストラリアで友達をつくることを目標としたい。今まではアジアの人としか交流したことがなかったが、将来グローバルな活動をしてみたいという目標がある為、自分の視野を広げていきたい。

2 研修で最も印象にのこったことについて

オーストラリアと日本には違う点が沢山あるという点である。まず、考え方の違いを感じたのはシドニー・ゲイ・アンド・レズビアン・マルディ・グラというLGBTの祭典だ。日本ではLGBTに対してまだ差別があったり、関心が低いこと、知識が足りないことが問題視されている。しかし、シドニーでは街のいたる所にLGBTの象徴であるレインボーフラッグが飾られ、お祭り当日は街全体が活気に包まれた。私たちはお祭りの衣装作りの手伝いや、ワークショップに行って準備の様子を見せてもらうなどした。日本のLGBTに対する考え方がオーストラリアのように変わっていけば良いと思った。ファッションの違いは、学校での授業や街中を散策している時に感じた。日本人は体型を気にしたりするが、オーストラリアの人はあまり気にしていないように感じた。国によってファッションに対する意識の違いがあると感じたことも印象に残っている。

3 研修を通して気づいた事・学んだこと

私は、オーストラリアという国について何も知らずに現地に行ったが、出会った人たちはみんな親切で私たちの訪問を歓迎してくれた。しかし、意思疎通が上手くいかず、言葉の壁を感じることもあった。自分の語学力不足に気づくことが出来たので、この研修をきっかけに英語の勉強を頑張りたいと思った。コミュニケーションを通してより深い交流ができるように目指して行きたい。オーストラリアは多民族国家のため、様々の国の人が居た。日本ではあまり見ない光景に驚いたが、グローバル化が進んでいるのだと知った。インドのサリーを着た人を見かけることも多々あり、オーストラリアには様々な国の文化や、ファッションが共存していることに気づいた。

4 今後の学生生活に生かしたいこと

研修は終わってしまったが、ここからが自分のスタートラインだと考えている。今回の研修ではVOGUEでのインターンや、現地の学生との交流、ファッションショーを見にいくなど普段は出来ないような経験をすることが出来た。オーストラリアでの22日間を通して沢山の方と関わり、友達も沢山出来た。この出会いを大切に、SNSを通して今後も交流を続けて行きたい。私は研修に行く前から将来は海外で働くなど、グローバルな活動がしたいと考えていたが、研修を経てその思いが確信へと変わった。学校でインテリアデザインについても学び、自分の知らない分野にも興味を持ったり、自分の可能性が広がったと実感している。例えば、インスタグラムを通して、世界にファッション発信することは出来ないか、自分なりの発信の仕方とはどのようなものなのか、考えながら今後の学生生活を送って行きたい。

1 履修の目的・目標

私は元々海外の文化やファッションが好きで小さい頃から英語に触れてきました。ですが、いざ話すとなると自信はなく焦ってしまいます。さらには２０２０年には東京オリンピックが開催されます。その頃には英語がある程度話せていないといけないと思います。自分に自信をつける事ことと、多くの英語に触れ、就職時や海外に行ったときの強みにできたらと思います。

2 研修で最も印象にのこったことについて

私が今回の研修で印象に残ったことは、LGBT Festivalの"Mardigrasです。SNSで写真を見たり話を聞いているときはとりあえず派手なお祭り程度にしか思っていませんでしたが、実際自分の目で見るとLGBTの人たちがそれぞれ思い思いのファッション、メイクを施して街中を歩いていたり、LGBTの人だけではなく普通の人たちもレインボーカラーで統一したファッション、メイクをしていて、お互いを尊重し合っていたのがとても印象に残っています。日本ではまだまだLGBTについての理解が浅く、まずLGBTの意味すらあまり浸透していません。このMardigrasを見てから日本は遅れているなと考えさせられました。そして今回の研修ではMardigrasで使われる衣装製作のお手伝いをさせて頂くことができました。残念ながらその衣装を見つけることはできませんでしたが、お世話になった方が写真を送ってくださりその写真を見て達成感と感動を味わうことができました。

3 研修を通して気づいた事・学んだこと

私が研修を通して気づいたことは、１番は英語の必要性です。リスニングが少し得意、英語が少し好き、という程度で行ったのでかなり苦戦しました。知っている単語を聞き取りそれを自分の中で繋げていくことしかできなかったので、言われていることの反対の意味になったり相手が色々教えてくれているのにそれが明確に伝わらなかったり、逆に私が何か言いたくてもうまく伝えられなかったりしたのがとても辛かったです。また学んだことは、オーストラリアは移民を沢山受け入れている国だということです。シドニーでは特にアジア人が多く、たまにオーストラリアにいることを忘れてしまう程でした。日本人は少ないですが中国人、韓国人、またインド系の人が多かったです。電車に乗ると様々な人種の人が乗っていて様々な国の言葉が飛び交っていて面白かったです。

4 今後の学生生活に生かしたいこと

私は研修で気づいた英語力と多民族国家で過ごした３週間を過ごし、学んだ自分の世界を広げることの大切さを今後の学生生活で活かせたらいいと考えます。英語力の改善に対してはこれからの東京オリンピックを踏まえて日本でも英語力が試されてくると思うので２０２０年を目標に学習していきたいと考えます。また多民族国家でも生活は自分にとってとても刺激的なものであり、また私自身の人脈を広げたいなと感じました。様々な国の人たちと交流していく中で海外の文化や習慣を学ぶことができた。オーストラリアの場合だと国全体がエコを推奨しているため、買い物袋は基本的に自分でエコバックを持つことが常識である。これは日本だけでなく全世界が見習うべき習慣だと感じました。この経験は学生生活だけに関わらず今後の社会生活役立つものになると考えます。

1 履修の目的・目標

語学留学など海外で英語を学ぶ目的のプログラムはよくありますが、英語を学びながらファッションについても勉強できるプログラムは中々ないと思ったので、履修しました。オーストラリアは２回行ったことがありますが、今回は約３週間という長期間行くので、英語だけでなく日本との文化の違い(ファッションや食生活、人々の暮らしなど)についてもより深く知りたいと思っています。

2 研修で最も印象にのこったことについて

シドニーで見たLGBTのフェスティバル、「Mardi Gras」です。フェスティバル本番より前からすでにシドニーの道路の一部がレインボーに塗られていたり、カフェや洋服店の店内・店外などにレインボーの飾りがたくさんついていました。また当日のパレードの衣装やフロートを製作しているところを見学させて頂きました。どれも細かいところまで精密に作られていて、ミュージカルだったり、テーマパークのパレードで使われそうなクオリティの高さに驚きました。さらに、サリーさんという方のスタジオでMardi Grasの衣装づくりの手伝いをさせて頂きました。サリーさんは映画に出てくるエリザベス女王の衣装ににインスピレーションを得て製作していました。ドレスのスカートにつける飾りを作ったり、その飾りをスカートに縫い付けるなどのことをしました。フェスティバル当日は街を歩く人たちみんなレインボーのものを身につけ、派手なファッションをしていました。１人１人個性的な格好をしていたり、グループで同じ格好をしていたり、街行く人を見ているだけでも楽しかったです。パレードもすごい盛り上がりで、夜１１時くらいまで続きました。

3 研修を通して気づいた事・学んだこと

Mardi Grasのような大規模な祭典があることはとても大切だと思います。パレードで人々が掲げているプレートや、フロートについている文字からは、LGBTQの人だけでなくみんな１人１人が個性と自由を大切にしようというメッセージが込められていました。私自身も自分や他人の個性を大切にすることが大事であると考えさせられました。またオーストラリアは法律で結婚も認められており、ジェンダーに対する理解が進んでいる国だと思いました。

パレードの他にも研修で気づいたこと、学んだことはたくさんあります。今回の研修で自分の英語力に対して良い面と反省すべき点に気づくことが出来ました。良い面は自分で思っていたよりもネイティブの英語が聴き取れたこと、またそれに簡単な言葉でなら返すことが出来たことです。文章の全ては理解できなくてもいくつかのわかる単語から、相手が何を言っているのか予想することができました。反省すべき点は、自分からなかなか英語で話しかけることが出来なかったことです。話したいこと、聞きたいことは浮かんでいるのに、単語や文法など英語で何と言うのか分からず飲み込んでしまうことが多かったです。分からなくても、時間をかけてもいいから一生懸命相手に話しかければよかったと思います。

4 今後の学生生活に生かしたいこと

自分の課題は、スピーキングとリスニングの力をつけることです。そのためにはまず単語を理解できていないと意味がないので、CD付きの本やアプリを使って単語の意味を覚え、同時にその単語の発音と聴き取りができるようにします。また、ネイティブ会話でよく使われるような言い方を勉強し、簡単な言葉でもいいので聴き取れたり話しかけたりできるようにすることも重要です。そのために英会話に通うことや、海外の映画やドラマをよく見るのでそれらを英語で聴き理解できることを目標にしたいと思います。

今回のプログラムではファッションショー、VOGUE本社でのインターシップ、日本人デザイナーのエキシビションなど英語と同じくらいファッションにも触れることが出来ました。また、実際にファッションに関わっている方々のクオリティの高い仕事を間近で見ることが出来ました。私はまだ将来就きたい職業は決まっていませんが、それを考えるための情報をたくさん得ました。LGBTQのフェスティバルからは「個性を大切にすること」を学んだので、今後の生活において自分のファッションや意見に自信をもち、それをもっと表に出していこうと思います。同時に他の人ののファッションだったり考え方も尊重することが大事だと思います。

1 履修の目的・目標

私は日本に限らず海外にも視野を向けたファッション産業に携わっていきたいと考えている。元々海外に興味があり、英語に触れる事が好きで今は留学等も考えている。そのため、海外に行った経験がない私にとってこのコラボレーションは語学とファッションを同時に触れる事ができ、それを海外で経験できる良い機会であると思った。ここでの体験や学びを通し、将来の選択に大いに活かしながら、海外の文化を学ぶきっかけにしていきたい。

2 研修で最も印象にのこったことについて

私が最も印象に残ったことは、海外の学校造りと授業スタイルだ。シドニーとメルボルンに着いて最初にそれぞれのwhitehouseの施設を案内して頂いた。建物の中は色が統一されていて必要最低限の物しか置かれていなく、空間を広く使った造りをしていた。空間に圧迫されていない分ストレスを感じることなく授業を受けられるのではないかという印象をうけた。実際にwhitehouseで授業を受けてみて、オーストラリアの学生は一人一人が持っている意見を外に出す事ができ、授業の中で自分が必要としている事をしっかりとピックアップしていると感じた。同じ授業を受けていても良く見ると授業を受けるスタイルはそれぞれ違う。何かに合わせる事もしていないし、誰かの行動を真似る事もしておらず、自分が一番やりやすいスタイルを自ら生み出していた。学校側も生徒が自由に学べるように、生徒も自由に授業を受けられる環境に印象を受けた。

3 研修を通して気づいた事・学んだこと

この研修を通して、自由と言う言葉が一番強く残っている。学校生活や授業に関しては実際に自分が授業に加わることでより雰囲気を感じ取ることができた。先生から与えられた課題の答えを自分なりの工夫やアレンジを加えながら生みだしていく様子を見て、課題の捉え方は一つではないし、投げかけに対しての答え方も十人十色である自由さは私には無い授業の受け方であると感じた。さらに授業の一環としてvogueのオーストラリア本社とデザイナーのakira isogawaさんのアトリエでインターンをした。本来なら簡単には行けないプロの現場に初めは気持ちが引き気味だったが、自ら仕事を見つけ動き始めるようになってからは相手ともコミュニケーションが取れるようになった。学校、会社、アトリエ全く違う環境だがどの場所においても自分から何かを学ぼうと積極的に行動をしたり、自分の意見を様々な形で相手に伝える事が大切であると共に自分の行動で学べる量や幅が変わる事を学んだ。また、今回マルディ・グラの祭典が重なっていたことでオーストラリアはLGBTを受け入れた文化が根付いており、その分ファッションに関してもとても自由であると感じた。日本ではそこまで浸透していない文化であるため、初めの印象はとても衝撃的であった。しかし、オーストラリアで生活していくうちに街の様子や移民を受け入れている国だからこその人種の多様さやＬＧＢＴを否定しない文化が街全体で自由を生み出しているきっかけになっていると気付いた。オーストラリアで生活をしてみて様々な面からの自由さを感じたことから、まずは固定概念を持たず自分が思ったように行動する事で自分の成長や学びに繋がっていくのではないかと思った。

4 今後の学生生活に生かしたいこと

今回この研修を終えてみて、日本とは違う海外の文化をもっと知りたいと思った。行かなければ分からないこと、出会えない人たち、実際に現地で生活してみて街並み、文化、人々、ファッション、食から感じたことや新しい発見がたくさんあった。なによりも自分への良い刺激になった。何も分からず言葉も通じない環境に置かれても何かを得たい、学びたい、楽しみたいなどの意思が自分を突き動かす原動力になり、何かを生み出すきっかけになる。オーストラリアでの生活のように「ここに行きたい」「あれをやりたい」など思ったことを即行動に移したようにどんどんいろいろなことに挑戦していきたい。そして日本にはない海外の自由さや文化と取り入れ、日本での学びに活かしていきたいと思った。さらに今回の研修をきっかけに語学に重要さを再認識した。相手とコミュニケーションを取るために最も必要なことの一つだ。私はあまり語学を勉強せずに研修に参加したことから言葉が通じない不便さをより強く感じた。英語を話せたら、言いたいことも言えるし、相手との会話を膨らませることができる。この研修で出会ったオーストラリアの学生と日本の友達のように会話をしたい。そんな思いが強く残ったことで今後の語学への意識が変わり、英語を使えて話せるようになりたいと思った。この研修で感じたことを忘れずに今後は単語の習得やネイティブに近い英語を聞き流し、しっかりと聞き取り理解できるような勉強をしていくなど語学にも重点的に力を入れていきたい。

海外プログラム

[梅春] ニューヨーク研修
語学研修、企業研修、NYコレクション見学

授業概要

グローバルに活躍できる人材を育成し、大学入学後、早期(主に1、2年次)に中長期にわたる異文化を知る海外学外研修を後期2月中旬～3月中旬までの約1ヵ月を「梅春学期」として実施する。

到達目標

語学力の強化や、グローバルな創造力を修得し、物事を国際的な視野で考えることができる。

期間／スケジュール

第1週：語学研修(月～木曜)、アパレル企業研修、FIT服飾セミナー受講
第2週：語学研修(月～木曜)、アパレル企業研修、メトロポリタン美術館ツアー見学
第3週：語学研修(月～木曜)、アパレル企業研修、FIT学生交流会
第4週：語学研修(月～木曜)、アパレル企業研修、MoMA見学

成果と課題

履修者は8名であった。昨年同様、月～木曜はNew York English Academy（NYEA）で語学研修を行い、実践的な英語力の修得や異文化理解を深めることができた。アパレル企業見学では、Valentina Kova、BF+DA、GUCCI SoHo、GAPを見学した。現場の様子を知ることで、さらに業界についての知識を学ぶことができ、ファッションへの関心が深まり、サスティナブルファッションについて考える機会にもなった。FITにおいて歴史的な衣装の実物に触れ、時代背景やデザインの特徴、ディテールなどを学んだ。また、メトロポリタン美術館ツアーでは、衣装やアクセサリーなどの倉庫を見学し、様々な保管方法についても知ることができ、大変貴重な経験となった。様々な経験を積むことで視野が広がり、語学を学ぶことの重要性や将来のキャリアデザインについて具体的に目標を立てることができ、有意義な研修となった。

研修スケジュールの都合により、今年度はNYコレクションの見学が実現できなかったため、次年度はNYコレクションを見学できるようにすることが大きな課題となる。

1 履修の目的・目標

1つ目はNYC（ニューヨークコレクション）が見れるから。2つ目は海外就職したかったので海外でのインターンシップに興味があったから。

2 研修で最も印象にのこったことについて

インターンで日本の企業に取引メールを送ったこと。ブランドのコンセプトを和訳してメールのデザインを考えたり、すごく大変だったが、やりがいもあった。自分のこのメールでこのブランドに損益を与えると考えると、プレッシャーもあったが、その先の成功を考えるとどうにかしたいという想いの方が強かった。企業にメールなんて送ったこともなかったし、語彙力もなくて最初は不安だったけど、人はやればできるんだと思う。

3 研修を通して気づいた事・学んだこと

地球のためにファッション業界も可能性があることを学んだ。私は、ファッションよ地球はほど遠いように考えていた。しかし、今回の研修でファッション業界でも地球の環境をよりよくできるのだと学ぶことができた。サスティナビリティについては勉強し始めたばかりで多くは語れないが、ペットボトルやガラス瓶、プラスチック、いらなくなった貝など不必要なものからあらたに布を作ることができるのだ。これがもっと広まれば、いま世界で問題になっているゴミの増えすぎも多少は改善されるのではないだろうか。

4 今後の学生生活に生かしたいこと

今回の研修で、自分の可能性が広がったと思う。前まで一つしか見えてなかった自分の将来が一気に幅広くなった。単純に、ファッション業界についての知識が足りなかったのかもしれないが、色々な新しい職業や体験に出会えた。今は、サスティナビリティについてもっと深く学びたいと思っているので、本や授業などで積極的に勉強したい。他にも、海外就職したいので、さらに英語の勉強と、中途半端にしゃべれる中国語を磨きたいと強く思った。今回の研修のせいで、やりたいことが増えすぎたが、充実した学校生活が送れるような気がする。

1 履修の目的・目標

目的は海外のファッションを実際に目で見たりアパレル業界でのインターンをしたりして、将来の自分の視野を広げるため。そして、1ヶ月間、現地の方と沢山のコミュニケーションをとることで積極的な会話力を身につけるため。ファッションと英語が好きだから、海外での就職も視野に入れていて、実現させるためには何が必要で、これから何を学ぶべきなのかを明確にしたかった。目標は、日本とニューヨークの相違点発見、英語力の向上。

2 研修で最も印象にのこったことについて

インターンが一番印象的だった。インターンでは主に2つのプログラムを実施した。1つは、サスティナブルな素材についてを調べること、2つ目はブランドを日本進出させるために、日本のセレクトショップの調査をすること。私のインターン先のブランドは、サスティナビリティを念頭に置いたGRAMMARというブランドだ。環境に優しいシャツブランドで、初めに再生繊維の素材がどう糸になり、どのようなプロセスで持続可能なのかを調べるところから始まった。繊維ができる過程は知らなかったので、とても勉強になった。2つ目のリサーチでは、日本のセレクトショップの中からブランドにあったブティックを探し翻訳してまとめた。展示会へ行った際、NYで活躍する日本人デザイナーの方達に声をかけ、リアルなお話も参考にできた。通訳でのビジネス英語は大変で、ナーバスな日もあったけれど、自分の未熟なところも分かったし、悔しさを味わうことができた。

3 研修を通して気づいた事・学んだこと

この1ヶ月間で、NYの文化や環境をはじめ、企業の在り方など、幅広く沢山のことを学ぶことができた。私にとって初めての海外だったので、とても新鮮なことばかりだった。企業見学では、GUCCIの店内構造についてを細かく説明して頂けて、VMDの仕事にもさらに興味がわいた。興味のある仕事が沢山あるので、将来のビジョンを考えていく上で、とてもいい資料の1つになった。美術館見学では、世界的に有名な展示品だけでなく、コレクションのバックヤードも見れたことがとても感動だった。また、インターンで資料制作をした際は、自分にもっと英語力が必要だと改めて強く感じたし、企画やMDに興味があるので、日本とアメリカではセリングや流行の違いなどももっと知りたいと思った。

4 今後の学生生活に生かしたいこと

NY研修を通して、自分の勉強したいことが明確になった。1つは、日本のファッションビジネスについて、もっと細かく勉強して経済的な知識をつけようと思った。いつか海外でも働いてみたいという夢はあるものの、インターンを通して自分に日本のことですらまだまだ知識が足りないと感じたからだ。2つ目は、デザインの勉強も頑張ってみようと思ったこと。FITのジョーンズ先生に話を聞いた時、ビジネスだけを勉強しても気づけない側面があるし、デザインを勉強するからこそ分かることもあると感じた。1年生では実習的な科目を避けてきたが、2，3年生では履修したいと思った。そして、何より英語の勉強をもっとしたい。言葉の壁は分厚いけれど、もっと世界を見てみたいので、そのために大学生のうちに自分の強みとして、英語の勉強を継続して海外のビジネスでも通用するくらい上達させたい。

1 履修の目的・目標

目的・目標は大きく分けて2つありました。まず、1つ目は英語の実践の機会を増やすことです。英語を使わなくてはいけない環境に身を置いて、積極的に会話したいと考えました。事前に英単語と基本的な英会話を勉強していき、日常生活や語学学校での勉強がスムーズにいくように準備しました。2つ目はニューヨークで新しい世界を見てみたいということです。ファッションだけでなくアート、ミュージカル、街の景色などを自分の目で見て感じて、感性を磨きたいと思いました。

2 研修で最も印象にのこったことについて

最も印象に残ったのは、ブロードウェイミュージカルです。滞在中に5つの公演を鑑賞しました。私は将来、舞台衣装を作りたいと考えているので、ブロードウェイミュージカルの衣装はとても勉強になりました。あんなに華やかでキラキラした衣装を作れるようになりたいと改めて思い、モチベーションが上がりました。特に気に入ったのはキンキーブーツで、ストーリーはもちろん、ダンスや歌が好きなテイストだったので、自分がどんな世界観の衣装を作ってみたいのか知ることができました。前から2列目の席で見ることができて、衣装の細部まで見られたのも良かったです。その他にも舞台美術や演出が素晴らしいオペラ座の怪人や、本格的な歌とダンスのシカゴ、ディズニーのお馴染みのストーリーにエンターテイメントを沢山詰め込んだアラジンとフローズンなど、どの公演もとても心に残りました。

3 研修を通して気づいた事・学んだこと

英語を上達させるためには積極的に話かけたり、間違いを恐れずに発言したりするべきだと気づきました。自分から話かけるのは苦手だけど、もっと積極性を持つことが大切だと感じました。語学学校の授業は大学とは違い、自分が何をしたか、何をしたいかを話すことが多くて、とっさに単語が出てこなかったり言いたいことが上手く表現できなかったりしました。言いたいことを表現できるようになるには、英語で話すことに慣れて、自信を持つことが必要だと思います。ニューヨークの人は街中や地下鉄で着ている服をほめたり、どこで買ったのか聞いてきたり、素敵だと思ったものをすぐに言葉に出して伝えることに驚きました。私もいいと思ったものはもっと発信するようにしたいし、周りのものにアンテナを張って生活しようと思いました。

4 今後の学生生活に生かしたいこと

英語の勉強に関しては、まだまだ全然足りないと痛感したので、自分でできることをコツコツ続けていきたいです。具体的には単語を勉強してボキャブラリーを増やすこと、TOEICやTOEFL対策の勉強をしたいです。交流で知り合ったFITの学生とも連絡をとっているので、日本に来た時に再会して英語を話す機会を自分から作りたいと思います。また、ニューヨークで見たもの、感じたことを自分の制作に生かしたいです。古着屋で沢山見て気になっている服のリメイクだったり、撮った写真やメモからイメージを膨らませてデザインを描いてみたり、やってみたいことが沢山見つかったので授業や課題の合間をぬって挑戦します。そこから自分の作品として見せられるものに発展させていけたらと思っています。

1 履修の目的・目標

履修の目的は、アメリカに行きたかったからです。私の一つ目の夢・目標として、アメリカで勉強するというのがあります。もともと、海外には興味があり、異文化に触れることや外人とのコミュニケーションが好きです。なので、今回のこのNY研修は私にとって有意義なものになると思ったので履修しました。また、言語の勉強だけではなく、ファッションに関係した見学先への訪問や、インターンシップなどにも取り組める内容だったので興味を持ちました。今回の研修で目標は、多くの人とコミュニケーションをとり、進んで発言し、価値観を広げて様々な経験をすることでした。

2 研修で最も印象にのこったことについて

今回の研修で印象に残ったことは2つありました。1つ目は、アメリカの街並みです。私の印象として、行くところそれぞれの街並みは雰囲気が異なり、そこにいることで違うアメリカを感じられました。ニューヨークの都心は東京の新宿のように多くの高層ビルが並んでいて、様々なショッピングのお店がありました。東京と雰囲気が似ていたことから、そこにいることに親近感がありました。しかし、少し離れたブルックリンに行ってみると高層ビルはなく、ウォールペイントが代わりに沢山ありました。日本ではウォールペイントではなく落書きと称されてしまいます。日本で落書きがあればそこは治安が悪いなどの印象が持たれてしまい、消されてしまいます。しかし、アメリカでは消すのではなく逆に多くの視線を集めアートとして人々に親しまれていました。そこにいるとき、私は価値観の違いを感じました。もっと日本も視野を広げて違う視点から物事を見つめ直す必要があると思いました。2つ目に印象に残っていることは、インターンシップ先でお世話になった日本人の方です。その方はYUKAという名前で帽子のデザイナーをされている方です。彼女の下で帽子作りを手伝っているときに、沢山のお話を伺いました。話す内容一つ一つになぜか説得力があり、心を動かされました。何かに挑戦するということは簡単なことではないけど、自ら前進しなければ周りのことは変わらないと言われ、私も今なんとなく過ごすのではなく、新たに挑戦したいことをしていこうと思えました。また、将来の目標も明確にさせてくれました。とても素敵な方に出会うことができたなと思います。

3 研修を通して気づいた事・学んだこと

研修で気づいたことはいくつかあります。まず、アメリカの人たちはアートが好きということです。街の至るところにギャラリーがあり、美術館も沢山あります。美術館には終日多くの人たちで賑わっていました。ホイットニー美術館に行ったときに話しかけられた現地の方は1週間に最低2つはギャラリーを回るとおっしゃっていました。なぜそんなにも頻繁なのか不思議に思っていたら、いろんな刺激を受けることができるからだそうです。他に気づいたことは、何かしらに興味を持っているということです。これは、FITやParsonsに見学に行ったときに強く感じました。みんな何か正確な目標があり、個人がそれぞれすべきことに熱中していました。こんなにも何かに熱中できるのは凄いなと思いました。また、英語スキルの重要さに強く気づかされた研修でした。

4 今後の学生生活に生かしたいこと

この研修をきっかけに、いろいろなことに挑戦して経験を増やしていきたいと思います。また、将来の目標に向けて今できることを考えて行動に移していきたいと思います。大学生活はすぐ終わってしまうと重いので、1日も無駄にならないように有意義に過ごしたいと思います。具体的には、今までの自分の中にあった固定概念をなくし、普段はしないことをあえてしてみることなどです。それまで分からなかったことが分かったり、価値観も変わるのではないかなと思ったからです。

1 履修の目的・目標

ニューヨーク研修を履修した目的は、ニューヨークでしかできない貴重な経験ができると思ったからです。そして、ファッションの技術や能力だけでなく、人間として成長できると思ったからです。また、ファッショナブルでアーティスティックな街、ニューヨークで普段とは違う刺激を多く受け、沢山のことを学び、吸収し、発信する。その経験が今後の自分の制作の引き出しとなり、今よりももっと良い作品作りができるようになりたいと思ったからです。目標は、多くのことを学び、吸収する。そして、今よりもっとクリエイティブな自分になることでした。

2 研修で最も印象にのこったことについて

沢山の貴重な経験ができた研修でしたが、特に印象に残っているのは、メトロポリタンミュージアムのバックヤードツアーでした。普通の旅行、留学では入れない地下室でコレクションのアーカイブを見ることができました。誰しもが知る有名ブランドの過去のコレクションで発表された貴重な衣装を間近で見ることができました。年代ごとの衣服の特徴も実物を見て説明して下さりました。また、保管の仕方にもこだわっていて、どのようにしたら状態を維持できるか、分かりやすく見やすく保管できるのか、限られたスペースで効率よく保管できるのか。など、試行錯誤を繰り返し、今の保存方法に至っていることをしることができました。そのおかげで、大昔のコレクションの衣装を現在も拝見することができる綺麗な状態で保たれていました。とても貴重で魅力的な体験でした。何十着のドレスのディテールを見ることもでき、何百足もの靴も見ることができ、ずっと興奮しっぱなしでした。年代ごとにブランドごとに異なる個性を感じることができました。流行の特徴や時代背景についてもっと勉強したいと思いました。それに加えて、GAPのバックヤードツアーにも参加することで、保存の仕方の共通点、相違点を見つけることもできました。比べることで見えてくることも沢山あったので、とても勉強になりました。言葉では言い表せられないとても素晴らしい経験でした。

3 研修を通して気づいた事・学んだこと

ニューヨークはとても自由でアートに寛大な街だと思いました。アーティストにとってはとても住みやすい場所だと思います。色々なところで刺激を受けることができ、制作意欲を掻き立てられました。そして、様々な発信手段があると再確認しました。例えば壁画。日本では見ることができない文化だと思いました。ありとあらゆる場所で見かけることができ、建物や風景にマッチしているものから風刺的なものまで様々な種類があり、歩いているだけでインスピレーションを受けることができました。また、ストリートパフォーマンスをしている人も多く目にしました。若い人からお年寄りまで、自己表現に年齢は関係ありません。地下鉄で演奏する人や道端で絵を描いている人、広場でアクロバティックなパフォーマンスをしている人。多くの人が、自分自身を様々な手段で表現している、個性で溢れている街でした。ブロードウェイミュージカルも、ただのミュージカルとしてでなく、舞台装置や舞台衣装、音楽などあらゆることが自分の勉強しているファッションに通じていることに気づかされました。そして、美術館もたくさんあり、多くの作品を目にすることができる場所でした。これらのことから、アメリカ人は自己表現、個性をとても大事にしていることが分かり、アートに対する考え方が日本とは全く違うことを知りました。アートだけではなく、ファッションにも通じることだと思いました。ファッション、メイクも他人の目を気にせずなりたい自分をダイレクトに表現している人が多く、当たり前のことですが、日本では当たり前ではなくなっている。そんな自己表現としてのファッションを再確認することができました。自分の着たい服を着ることが本当のファッションの意味だと気がつきました。海外に行くことで、海外の良さを知れると共に、自国の良さや問題点にも気がつかせてくれると思いました。

4 今後の学生生活に生かしたいこと

アメリカ人のように、周りの目を気にせず、常識にとらわれない、自分の納得のいく作品をつくりたいと思いました。また、ニューヨークで吸収した色々なものを、自分なりに制作に落とし込んでいきたいと思いました。自分に自信を持って自分らしく生きることが大切なことだと感じたので、自分に素直になって、好きなものは好き、嫌なことは嫌と言える勇気を持って何事にもチャレンジしたいと思いました。具体的には、2年生の造形の作品でニューヨークで学んだカラフルでポップな配色のワンピースを作ったり、デザイン画では、大胆でインパクトのあるニューヨークで得た感情、インスピレーションをそのまま服に落とし込んだり。このように、様々な面でこの経験が活きてくると確信しています。

1 履修の目的・目標

長期休暇を利用して、普段ではできないこと体験をしてみたいと思ったのがきっかけでした。このニューヨーク研修では現地の語学学校に通うことができるのはもちろん、ファッションに関係したイベントやプログラムも盛り込まれており、文化学園大学に在籍しているから経験できることが多いと思い履修を決めました。また、インターンシップにも参加できるということで、就職や将来について考え直すきっかけになればと思いました。

2 研修で最も印象にのこったことについて

アメリカ(外国)人と日本人の文化の違いは、普段の生活から様々なところで感じることがあり、良くも悪くも印象に残っています。主に、積極性の違いです。アメリカ人は自分が思っていることをはっきりさせたい人が多いと感じました。例えば、授業中の積極的な発言、地下鉄内や駅構内で歌ったり楽器を演奏している人がいること、通りすがりに身につけている物を褒めてくれることなどです。反対に、私は引っ込み思案な性格なので、自分から行動せずいつも通り待っているだけでは生きていけない世界であることも実感しました。全てを真似する必要はありませんが、彼らのように思っていることを口にしたり行動に移すことも大切だと改めて感じることができました。

3 研修を通して気づいた事・学んだこと

アメリカではサステイナブル(持続可能な)ファッションが定着してきているということは、自分の中で大きな学びでした。BF+DAではそのような生地を実際に見て触れることができ、動物ではなく植物(シイタケ)から作られたレザーのような生地がとても印象的でした。その後パーソンズに見学に行った際にも、案内してくださった小西さんが自らキノコの菌糸体から作った布を使用しているという話を聞き、サステイナブルファッションの重要性を再び実感しました。また、インターンシップでお世話になった清水さんからアメリカでのファッションビジネスの実情をお聞きした際にも、様々なブランドが環境に優しい取り組みをしており、サステイナブルやエシカルが重要なキーワードであることを教わりました。日本でも同じような取り組みは行われていると思いますが、まだまだ身近に感じることができないので、国全体でファッションの面からも環境に配慮する意識が向上していくといいなと思いました。

4 今後の学生生活に生かしたいこと

今回、インターンシップのような形で企業の方と関わり、課題をこなすことで新たな経験と発見がありました。来年度からは少しずつ就職活動について真剣に考え始めなければなりませんが、良いきっかけになったと思っています。インターンシップに参加する意味については人それぞれ感じ方が違うと聞いていましたが、直接何かに繋がらなくても、人との出会いや仕事を通して何か発見がある点で私には必要だと思えました。早いうちからインターンシップにも積極的に参加し、悔いの無い就職に繋げたいと思います。また、普段日本では行かない、ミュージカルや美術館に訪れたことで新しい発見もあったので、あまり興味がないこでも挑戦してみたいです。

1 履修の目的・目標

私がこの梅春学期ＮＹ研修を履修した目的はたくさんあり、英語力をあげたいから、実際に英語を現地で使ってみたかったから(スピーキング力を試すため)、ＮＹコレクションを見たかったから、ニューヨークに行ってみたかったから、住んでみたかったから、などです。そのうえでＮＹ研修への目標は英語を少しでも話せるようになって帰ってくること、将来に役立つ学びを受けてくることでした。

2 研修で最も印象にのこったことについて

研修で最も印象に残ったことは、インターンです。インターンでは雑用や御遣いをすることが多かったです。例えば、撮影に使う紙を運んだり、靴を買いに行ったり、撮影でモデルさんの着替えを手伝ったり、配送サービスへ荷物を届けに行ったり、郵便局で発送をしたり、などです。最初は見知らぬ土地で一人で英語を使って初めてのことをするのに不安やストレスを感じていました。しかし、ありがとうと言ってもらえるとやりがいを感じたし、だんだん仕事をこなせてきた自分に自信を持つことができました。それにアパレル業界に勤めることになったとき今回のインターンが絶対役立つと思えたからです。入りたてはこのような雑用のような仕事をすることが多いと思います。その時に一度経験があると他と差がつくと思いました。

3 研修を通して気づいた事・学んだこと

上記の続きから書くと、インターンでは仕事を自分から探すこと、与えられた仕事は最後までやりきること、受身の仕事ではなく自分がコントロール出来る仕事にこそ面白さがあることを学びました。「指示されるのを待ってるのではなく自分から積極的に仕事をすることでチャンスがまわってくる。指示される仕事が好きならいいけど、自分にコントロールする権限がある仕事のほうが断然面白い。」最後インターンの方から頂いたこの言葉が今でも忘れられないくらい心に響きました。成功している先輩だからこそ説得力しかなっかたです。英語については使ってみることが学習としてとても重要だと思いました。いくら机の上でたくさん学んでも実際に使ってみないと意味がないです。語学を学ぶときは教科書を使って勉強するのも大事だけど、友達を作ったりスカイプをしたり実践的な学習が役立つとおもいました。

4 今後の学生生活に生かしたいこと

今後の学生生活に生かしたいことは勇気をもってチャレンジしていくことです。知ってる人がいない町だからこそ逆にチャレンジできた部分も今回ありました。今回培った勇気を日本でも使っていき将来のためにいろんな経験を積んでいきたいと思いました。自分から動くこと、積極的になることをキーワードにどんどん動いていき、どんどん機会を得ていき、そのチャンスをものにして、夢につなげていきたいと思いました。具体的にいうと学校から届くフィッターやボランティアなどの募集も積極的に参加したいと思います。また、改めてスペックが高い人のほうが夢をかなえるうえで有利だと思いました。就職活動や夢をかなえるうえで不完全すぎるのでハイスペックな人間になれるように磨いていきたいと思いました。

1 履修の目的・目標

日本とどのような文化の違いがあるか、旅行では感じることのできない貴重な経験をしたかったので参加した。また、私は一人暮らしをしたことがなく、初めて1ヶ月も親元を離れてみることで、以前よりも自立したいと思った。そして、異国で1ヶ月過ごすことで、自分の視野を広げ、今後の大学生活を意味のあるものにしたいと思い、参加した。

2 研修で最も印象にのこったことについて

ニューヨークは壁画アートや美術館、博物館などが大変多い。ブルックリンは歩いているだけで沢山のアートを見ることができる。マンハッタンにはメトロポリタンミュージアムやMoMAなどの美術館が至るところにある。そして、道端や地下鉄で突然演奏が行われるなど、ニューヨークは芸術が身近に感じられる街という印象を受けた。タイムズスクエアには歌とダンスで人々を魅了するブロードウェイミュージカルがある。これらは、ニューヨークの人々の自由でクリエイティブな発想力の元となっていると感じた。今までは美術館やミュージカル観賞などに興味がなかったが、この研修をきっかけに、日本でも行ってみたいと思った。また、研修中にニューヨークで出会った日本人の人々は、みんなチャレンジ精神が旺盛で、努力をしっかりしてきた人が多いという印象を受けた。

3 研修を通して気づいた事・学んだこと

全体的に能力不足だと気づかされた1ヶ月であった。ニューヨーク研修の目的・目標をもっと明確に持ち、参加するべきであったと感じた。大変貴重な経験を沢山したし、学んだこと、感じたことは沢山あったが、ニューヨーク研修に行くにあたって入念な事前準備をしていれば、より多くのことを吸収できたのではないかと思う。例えば、美術館でアートを見たときやブロードウェイでミュージカルを見たとき、知識があればもっと理解できたのにと思う。沢山の知識や経験は物事の理解をより深めるために役立つ自分の可能性を広げるものだと改めて感じた。この1ヶ月の経験を機に、自分を変えなくてはいけないと強く思う。あと2年間の大学生活を無駄にしてはいけないと感じた。

4 今後の学生生活に生かしたいこと

研修中、美術館に行き、現代アートは難しいと感じ、ミュージカルを見て衣装の素敵さに感動したり、ゴスペルを見て様々な宗教の形があると感じ、より世の中のことを知りたい、知識を増やしたいと思った。また、研修を通してまだまだ知識・経験不足で、未熟だと痛感させられる場面が多くあった。特にインターンシップでは、今のように言われたことだけをする、受け身の態勢から抜け出さなくてはいけないと感じた。就職するまでに自分で考え、行動する力を確実につけるために、興味のあるインターンシップに参加し、仕事とはどういうものなのかを学び、経験を積みたい。また、インターンシップ就職活動をスムーズなものにするために必要な検定をとったり、パソコンの基礎知識を学ぶことでスキルアップを図りたいと思う。卒業までに何をするか、具体的な目標を掲げ、計画的に行動したい。

海外・国内プログラム

グローバルファッションマネジメント実習

授業概要

服装学部ファッション社会学科グローバルファッションマネジメントコース3年生を対象に、本授業では、実際に企業で働くことを通して、グローバルファッションマネジメントを体験する。国内の企業もしくは海外提携先大学（香港およびオーストラリア）の紹介企業等で中期（8週間）にわたって研修を行う。

到達目標

グローバルファッションマネジメントのために必要なマインド、知識、スキルを実際の企業研修から体得し、これからの大学生活においてどのような学習や研究をしていくのか、また自分たちのキャリアデザインのための基礎的プロセスとして認識できるようになることを目標とする

期実施地域

ブリスベン、メルボルン、パース、ロンドン、台湾、ニューヨーク、東京

期間／スケジュール

2018年10月15日（月）～12月7日（金）　8週間
学生の希望やスキルに合せて、下記のような複数のパターンを組合せて実施した
・語学研修（4週間）＋企業研修（4週間）
・企業研修(8週間～6か月)

成果と課題

本年度は13名がグローバルファッションマネジメント実習に参加した。昨年度に引き続き、学生によるインターンシップ先の自己開拓が2件あった。また、留学生があえて東京の企業でのインターンを選択するケースや日本人学生が英語圏ではない地域（台湾）でのインターンを行うケースなど、自身のスキルや卒業後のキャリアデザインを考えながらインターンシップにのぞむ学生が増えており、このような自発的かつ主体的に臨む姿勢が学生の間に浸透しつつあることは、プログラムの継続的実施の成果といえる。

一方で、事前準備が不十分で目的をはっきりと意識できないままに実習にはいった学生もおり、実習の成果を最大化するためにも、事前準備の段階で、卒業後のキャリアデザインを意識させるなど、実習に対する目的意識の明確化をはかる必要があると考えられる。

1 履修の目的・目標

最も大きな目標は英語の実力の増進で、実際ネイティブの人との会話の重ねて、学校や本で学ぶような言葉ではなく、彼らの日常で使うような言葉を学びたいということと、将来海外の会社でも働いてみたいと思っているので、海外の会社でインターンを経験し日本や韓国と海外(オーストラリア)の会社の違いを知りたいと思った。その後は海外で色んな人に出会い、友達を沢山作りたいという目標を立ててオーストラリアに向かった。

2 研修で最も印象にのこったことについて

業務内容は大体博物館での資料を長期保管できるように片付けることであった。ファッションショーの撮影フィルムやポスター、写真などを特別な素材のファイルの中に入れてイベント別にタグを付ける仕事が一番多かった。他には博物館内にショップがあって、博物館のグッズやオーストラリアの記念品、展示会の関わるファッションアイテムを販売していたので、そこで販売を手伝う仕事や販売商品に値段のタグをつけるなどの仕事もしていた。1週間１－２回くらいは車で少し離れた所にある、博物館の倉庫に行って、展示品を持って来たり、次の展示する衣装をドライクリーニングのため預けたりするような業務もしていた。後は会議に参加したり、1980年代の本をデジタルコピーすることを見学したり、インフォメーションカウンターでの接客や展示会スタート記念パーティでの接客も経験できて色んな人に出会うこともできたので凄く楽しい経験だったと思う。

3 研修を通して気づいた事・学んだこと

今まではバイトで経験済みでも自分の中で接客は怖いという認識があって、お客様に対して積極的に何かをすることはあまりできなかった。でも今回のインターンシップを通じて、自分からお客様に声をかける積極的な態度が大事だということがわかった。後質問はその時その場できちんとしないと誰も教えてはくれないのでお客様だけではなく、同じ社員の人にも積極的な態度は大事ということがわかった。そしてスケジュール確認がすぐにできないと困ることが沢山あったので、スケジュールを既に確認できるよう手帳を持ち歩き、めもる習慣を身につけようとも思った。他には前より迷惑なお客様が来た時に前より慌てず、自分の感情を表に出ずに接客できるようになったので、それも自分の接客スキールのレベルアップができたと思っている。

4 今後の学生生活に生かしたいこと

一番最初に反省点は、博物館のエレベーターは10時以前には使用禁止だったので、それを知らずに行った初日はエレベーターの前でウロウロしていた。その時セキュリティーの人に今はエレベーターの使用は禁じられているので、出ていくように言われたことがある。その時インターンできたとは行ったが、証明ができなかったので10時まで外で待ってから博物館に行っていた。その後からは追い出されるかもしれないとおもって、10分前にいくことをやめて、定時にいくことにしたら到着したらいつも10時2－3分など少しすぎていた。博物館の人みんなにはそれはしょうがないと理解してもらっていたが、待たされたのが申し訳なく、反省が必要だと思っている。それを除いたら全て自分の最大限に頑張ったので悔いはない。今後の課題としては、やはり頑張ったと行っても英語が足りなかったので英語の勉強が必要だと思う。TOEICも受け続けてもっといい点を撮りたい。

1 履修の目的・目標

①ラグジュアリーブランドのビジネスを現場での体験を通じて理解すること
②ラグジュアリーブランドの付加価値の一つである接客について学ぶこと
③店舗オペレーションについて学ぶこと

2 研修で最も印象にのこったことについて

最初は中国語通訳とオペレーションアシスタントとして仕事を始めました。中国語をお話しになるお客様が来店されましたら、セールスアソシエイトと一緒に接客します。セールスアソシエイトの代わりに、中国語でお探しの物とご要望を伺い、また伺ったことを日本語にしてセールスアソシエイトに伝えます。たまたま英語をお話しになるお客様に対応したきっかけに、英語通訳も担当するようになりました。通訳として対応していない時は、オペレーションの手伝いをしています。例えば、包み作業と会計手続きや商品の整理、用度補充などです。3カ月目からは、一人でインバウンドのお客様を接客することもマネージャーの指示でするようになりました。

3 研修を通して気づいた事・学んだこと

ラグジュアリーブランドの商品は何十年も続いてお客様の指示を得ているのは、もちろん商品の品質が非常に良いというところがありますが、商品以外に、やはり丁寧なサービスで付加価値をつけていると、このインターンを通じて学びました。社員の方々は丁寧にお客様の要望を聞き出し、親身になってお話をして、一回きりの関係ではなく、長い間の信頼関係を築いていくのに工夫しています。これがラグジュアリーブランドの成功要因の一つだと自分は考えていますが、ラグジュアリーブランドにとどまらず、どの業界でも、お客様の信頼関係を得るのがとても大事だと思ってきました。

4 今後の学生生活に生かしたいこと

①社員の方々はどなたともとても人付き合いと気配りが上手な方で、大変忙しい時でも、相変わらず丁寧に話しています。自分は忙しい時に、気持ちの余裕を失い、言葉の丁寧さに怠ってしまったり、あまり出会ったことのないお客様との会話が進まなかったりして、自分の人間力はまだまだ磨いていかないといけないと体感しました。
②レザーグッズと洋服についての知識が浅く、お客様おご質問にうまく答えられなかった時もあるので、商材・サービスに対しての知識は働く上に大切で、今後は就職した際にそれを意識して勉強するようにしたいと思います。

1 履修の目的・目標

海外進出している日本の企業で働き、顧客や商品の違いを知る
日本人のいない生活環境の中で積極的にコミュニケーションを取り、中国語のレベルアップに繋げる

2 研修で最も印象にのこったことについて

勤務時間　17:00 ～ 23:00（セール期間中である10月11月は18:00 ～ 24:00）
衣料担当　（日本でのアルバイト経験を生かし、主にシューズの在庫管理）
店頭にて接客業務、商品整理。閉店後の搬入と入荷作業
日本人客は少なく、大半が地元の方達の来店のため、日常会話レベルの中国語スキルが必要。

3 研修を通して気づいた事・学んだこと

目標としていた海外進出している日本企業の旗艦店で販売スタッフとして店頭に立ち、来店する顧客の動きやブランドに対して求めている事を肌で感じることができた。1つ目は売れ筋商品である。数ある商品の中でキャンパス地のスニーカーがとても人気を集め、品薄状態になる程であった。日本と同様の商品ラインナップであったが手に取る商品に違いがあった。2つ目は顧客とスタッフである。多くの来店者は販売スタッフとの会話を好み、商品購入を決定する。積極的にコミュニケーションを取ることで購買率アップに繋がるとわかった。3つ目はブランドイメージである。MUJIに対してのみならず、日本ブランド＝良い商品といった印象を持っており、高いクオリティ、品質であると信用されている。日本にいるとそれが日常だが、外から見る、聞く事によって視野や考え方が広がった。

4 今後の学生生活に生かしたいこと

わからないことがあった時に曖昧に回答してしまった事である。インターンシップとしての採用ではあったが、店頭に立てば同じスタッフであり、その一員として責任を持たなければならない。言葉がうまく通じない時や困ったことがあれば、すぐに質問する事が大切だと思った。周りに自分の弱点を知ってもらうことで互いにフォローし合い、よりスムーズに問題解決した。今回の留学経験を生かすため、帰国後に中国語検定4級を受験し合格したが、より就職活動に有利な5級の取得が今後の課題。

1 履修の目的・目標

選んだ企業の社長が日本人なものの会社で使う言葉は基本的に英語のみなので、ビジネスで使える英語力を身につける。また、日本の企業との取引、現地ニューヨークでのカスタマーとの取引どちらもあるので、日本とそれ以外の国々とのビジネスの違いを理解する。テキスタイルの会社ということで、生地に実際に触れ、素材やその用途などをきちんと理解する。それらを理解することでカスタマーにプレゼンする際にその知識が役にたつためである。

2 研修で最も印象にのこったことについて

主にパソコンを使ってテキスタイルを管理するので、エクセルと英文での基本的なメールでを多く使った。パソコン業務が一番多かったのではないかと思う。またスワッチサンプルのデリバリーをブランドのオフィスやカスタマーに届けたり、そのスワッチの整理整頓、頼まれたスワッチのピックアップもした。最初は雑用が多かったものの、段々と時間を重ねるとともにカスタマーとのミーティングに参加させて頂き、実際にカスタマーの方とお話させていただいたり、ビジネスをするところを間近で見ることができた。もちろん参加するだけでなく、そのミーティングのリキャップを社員全員の方に"どのようなミーティングだったか""カスタマーのブランドイメージはどのようなものか""カスタマーが求めているものはなにか"などを英文でメールにて報告させていただいた。Eコマースサイトの立ち上げに伴い、オンラインで使用するテキスタイルの写真撮影なでも行った。

3 研修を通して気づいた事・学んだこと

日本との取引、場所がニューヨークということもあり世界中のカスタマーとの取引があったため、様々なビジネスの仕方を間近で見ることができた。また、たまたまインターンの期間にEコマースのサイトを立ち上げており、どのようにカスタマーにオンラインからテキスタイルを買ってもらえるかなどんぼビジネス戦略を学ぶことができたとともに、テキスタイル撮影を任せて頂いたので、なかなか写真だけではわかりにくい生地の質感などがどのように写真で表現できるかなどを学べた。社長に"頼まれたことを頼まれた通りにやることは誰でもできる、相手の立場を考えてどのようにプラスアルファでやればいいのかを考えることが大切"ということを教えて頂き常にそれを意識しながら生活、仕事していたので今までよりも相手の立場を考えられるようになったと感じる

4 今後の学生生活に生かしたいこと

まず生活面では、今回のインターンは無給だったためかなり両親に金銭面で負担させてしまった。ニューヨークは物価や家賃が高いうことはなんとなくは理解してたが、予想を大幅に上回るお金がかかってしまったので反省したい。やはり海外に行くということは様々なことが日本の基準とは大きく異なってくる。なので事前のリサーチがとても重要だと感じた。インターンの面ではせっかく自分の意見を発言するシチュエーションを作って頂いたにもかかわらず、日本人の悪い癖でただのインターンだからと遠慮してあまり発言できなかったこと。人の前でなにか発言したりするのに対して苦手意識があったからだが、職場の人に「自信をもっていい」と言って頂き、もっと発言すればよかったと反省した。自分の意見に自信を持つことはこれからの就活で重要になってくると思うのでその点を改善したいと考える。

1 履修の目的・目標

インターンシップの目的は、実際に日本のアパレル業界で仕事をしながら、ファッションビジネスの知識と実質的な経験を積むことです。インターンシップを通して達成したい目標は、ファッションのPR・マーケティングがどのような流れで行われるているのか把握し、社会人として必要なビジネスマナーやスキルを身につけることです。

2 研修で最も印象にのこったことについて

・ショールームにあるサンプル商品の管理
　-スタイリストさんが返却したサンプル商品を元の位置に戻す
　-サンプルの整理
・リース対応の手伝い
　-ブランドからのリクエストを確認し、貸し出しする商品をピックアップ
・各ブランドにどの商品が雑誌に掲載されたのかを報告する為、リースした商品の掲載確認、商品のページをスキャンしPhotosho pで編集
・入荷されてきた19S/Sのサンプル商品のデータ(品名、カラー、サイズ、値段)をEXCELでまとめる作業
・2日間のF/Wサンプルセールの準備
・19春夏の展示会やファッションショー、イベントの準備の手伝い

3 研修を通して気づいた事・学んだこと

インターンシップを通して学んだことは大きく3つあります。

1つ目は、海外ブランドを日本国内の人々に知ってもらう為、どのような手段や方法でPR&マーケティング活動をするのかなど、ビジネスモデルを理解することができました。

2つ目は、PRの仕事をするときは雑誌やメディアなど様々な媒体の関係者とかかわる事が多いので、その方々と円滑なコミュニケーションが取れる対話力が必要だと思いました。

3つ目は、ビジネスをする上必要なパソコンスキル、特にEXCELのやり方やメールの書き方を学ぶことができました。

4 今後の学生生活に生かしたいこと

今回のインターンシップにおける反省点は、事前に業界の業務内容や各ブランドのコンセプトなどについて勉強しておけば、よりスムーズに仕事ができたのではないかと思います。また、より効率的にパソコンの作業ができるように、もっとEXCELやPhotoshopを練習すれば良かったと思います。

今後の課題はインターンシップでの経験で得た知識やスキルを活かし、これからの就職活動と将来の自分のキャリアアップに向かって様々なことに挑むことです。

1 履修の目的・目標

今回のインターンの目的としてアパレル業界に仕事として関わることで将来のキャリアについて明確にするとともにプレスという部署での仕事を通して華やかな一面だけでなく大変な部分をも実際に働くことで知りたいと思いました。また、社会に出る前に社会人の方々と関わることにより社会人としてのマナーを身につけることです。目標としては、積極的に仕事に取り組み、わからなかったことがあればすぐ聞くことはもちろんですが自分から挑戦していきたいと思いました。

2 研修で最も印象にのこったことについて

今回でのインターンシップでは主にプレスでのお仕事でした。サンプルセールや展覧会での受付業務やカタログ用の写真をとるための撮影補助、アクセサリー磨き、タグ付けからイベントのお手伝いなど多岐にわたる業務を行いました。日によって業務が異なりましたが基本的に雑誌に乗る商品の返却や事務的なデータ入力、届く雑誌のスキャンやインフォメーション用の画像作成がありました。

3 研修を通して気づいた事・学んだこと

インターンシップを通して働くことの大変さとやりがいを感じました。また、プレスは一見華やかな部署ではありますが裏方のような地道に行っていく業務も多くあり、そういった業務があるからこそ会社が成り立っていることも学びました。インターンシップ中では自分から仕事をもらわなければ自分がやりたいことは何もできないこともあり、自然と積極性は養われました。社会人の方と長期で関わる機会はあまりないので直接学ぶことによりコミュニケーション能力が養われるとともに就職活動を目の前にして自分に向き合い将来のキャリア形成にも繋げることができました。

4 今後の学生生活に生かしたいこと

今回の目的がアパレル業界についての知識を増やしたいということもありましたがもう少し自分のやりたいことを明確化しておけば良かったと感じました。明確化することで業務の幅も広がり、仕事への達成感もより感じられたと思います。また、どんなに地道な作業であってもその業務がどう大きな仕事に繋がって行くのかという過程をもう少し考えて仕事をすることができれば自分自身のやりがいにもつなげることができたのではないかと思いました。また、インターン中にできる仕事が限られていることと、広報の部署で急遽インターンをさせていただくことが難しくなり、プレスでの仕事を2ヶ月間することもあり、仕事がマンネリ化してしまったことが反省点でもあります。多部署への移動申請やプレス業務であっても新しい業務がしたいと発言を行うべきであったと思いました。今後、社会に出たときやはり、発言しなければ周りや環境は何も変わってはくれないと思うので発言力をを身に付けでいきたいです。そして今後の就職活動では、地道と思われる作業を大切にしてしっかりと一つ一つにに向き合い取り組んでいきたいです。

1 履修の目的・目標

将来就職するのに頭の隅にあった海外で働くということをこのインターンを通して実際に経験してどうしたいのかしっかり考えることとファッションで有名なニューヨークという街を体験したかったため。

2 研修で最も印象にのこったことについて

最初は日系のレストランへ訪問してフライヤーなど広告を載せてみないかと交渉する営業をしました。それと並行にフライヤーを一日100ほど印刷しておいてくれるところに交渉、配布もしました。フォトショップを使いバナー作成もしました。

途中から新しいサイト立ち上げのために営業は終了して、そのサイトのための記事を書くために一日に2件ほど取材し記事を作成しました。その他にインスタグラム用の写真編集や文章作成をしたり、クライアントの新店舗や日本人の有名な方へインタビュー取材をし、写真撮影をし、編集・記事作成をしました。

インターン1週間前はサイト用の写真撮影をメインにしていました。

3 研修を通して気づいた事・学んだこと

慣れていくにつれ任される業務が増えてきたが、頭がパンクしてしまって何から片付ければいいかわからなくなってしまい上司の人に相談したら、解決策をくれたので、一人で悩まずできないことははっきりということが大事です。

学校の授業でイラレ・フォトショの使い方を学んでいたのでこれを機に使いながら学ぼうと思って思い切って使えると答えたら意外にも使いこなせたので、言ってよかったと思いました。

4 今後の学生生活に生かしたいこと

自分の意見を毎回聞かれたが、曖昧な意見の伝え方しかできなかったので、もっとはっきり自分の意見を言えるようになれば力になれたのかなと思いました。2か月間というのは長いですが、逆に生活や英語に慣れてきたと感じてきたのに帰ってしまうことになったのでそこは短いのかなと残念に思いました。

1 履修の目的・目標

オーストラリアでのインターンを通して他国の文化を学びたいと思いました。オーストラリアは移民が多いと聞いていたので、オーストラリアの人だけでなく様々な国の人の文化が知れると思いました。また日本との仕事の違いについて知りたいと思いました。日本は年功序列制を取り入れがちですが他国ではどのようなシステムなのかを知りたいと思いました。

2 研修で最も印象にのこったことについて

家族経営のオーダー式ハンドメイドドレス制作会社なのでお店の横にある作業場で作業を行っていました。店頭に立つことはなく、基本はドレスに使うパーツ作りを行いました。元々パーツとして使っていたものが経年劣化していた為バラし、違うパーツを付けて新しいパーツを作りました。他には簡単な縫製作業、主に仮縫いをしました。また、レースに接着芯を付ける作業や、ドレスにパーツを付けるアイロン作業を行いました。1日中パーツ作りをする日もありましたが様々な仕事を任される日もあり、お店のお留守番を任される日もありました。必要とされるスキルはこれといってありませんでした。作業内容の説明もわからない場合は何度も丁寧に教えてくれました。業務を行う上で心がけたことは、丁寧に真心を込めて作業をすることです。速さも大切ですが直接品物にするものなので丁寧で綺麗に作ることが重要でした。

3 研修を通して気づいた事・学んだこと

オーストラリアで過ごしているうちに目標にしていたことは自然とわかることができました。語学学校では英語を学ぶアジアの人や中東の人が多かったので異文化を学ぶことができました。特に中東の人の宗教による食べ物や服装、お祈りの時間の大切さがわかりました。またオーストラリアでのテーブルマナーや生活する上での感謝の気持ちも学ぶことができました。特に感謝の気持ちを伝えることが何に対しても当たり前と考えられていたので、改めて感謝の気持ちを伝えることが大切だと感じました。インターンを通して目標にしていたオーストラリアの会社システムは年功序列制ではなく実力があればすぐに採用されるというものでした。実際に作ったパーツはドレスに直接使用されていました。いい意味でフラットな環境でしっかりとした日本とは違った魅力を感じることができました。

4 今後の学生生活に生かしたいこと

英語が喋れないからといって、無口になるのではなく単語単語でも伝えようとすることが大切だと感じました。英語が得意ではないことを相手に伝えていれば、一生懸命に聞き取ろうとしてくれたり、ゆっくりと簡単な英語で話してくれます。話す言葉よりも伝えようとする気持ちや姿勢が相手に伝わり密なコミュニケーションが取れます。事前準備としてやっておくことは、自分の国のことをよく聞かれるので人口や文化を調べることです。また英語では文法を学ぶことも大切ですが知っている単語量を増やすことが大切だと感じました。インターンを経て見つけた新たな目標は、電話対応ができるようになることです。私の研修先は1日に20件ほど電話がかかってきました。英語で電話対応ができるようになるに越したことはありませんが、まずは日本でしっかりと対応できるようになることが大切だと感じました。

1 履修の目的・目標

英語を使い、現地の方と一緒に働く事で現地の文化や日本とは違う海外での働き方を学びたい。そして将来私は海外で働きたいという考えがあるのでどういう雰囲気かというものも感じ取れたら良いなと思っていました。シンプルにミュージアムで働く上でどんな種類の仕事があり、2週間という短期間で自分のできる限りのお手伝いができれば良いと思っていたのが目標でした。

2 研修で最も印象にのこったことについて

基本的には資料管理が仕事で毎朝10：00～大体15：30ごろには終わっていました。仕事内容は貴重なインビテーションの資料や写真を仕分けをしてこれから保管していく時にこれ以上ダメージを与えないよう良質のプラスチックに移し変えることが仕事でした。基本的には雑用のような仕事が多かったですが貴重な写真や資料を見れたのはとても良い経験になりました。たまにミュージアムのフロントに人が足りない時は荷物のクローク係をやったりショップの商品に値札やタグを貼る作業をしました。特にスキルがいる仕事はほぼ無かったですが職場の人々はとても優しく教えてくださり、時にはティータイムにホットチョコレートを飲んだり毎日とても楽しく仕事ができました。

3 研修を通して気づいた事・学んだこと

今回のインターンで学べたことはミュージアムにはとても沢山のお仕事があるということ、日本より人との距離が近く働いている人たちの仲が良くみんなで作り上げようという雰囲気があった。私の目標であった英語を使って現地の文化や職場の雰囲気を知るというのは達成出来たと思います。仕事をしていてわからないことがあった時に自分から英語を使って質問することで自分から自発的に喋るということも前より出来るようになりました。そして日本の会社ではあまりないと思う働き方がすごく印象的でした。例えばミーティングでの自由な雰囲気がみんなのアイディアに良い影響をあたえるということを聞きとても良い働き方だと思いました。逆に期待していたイラレ、フォトショなどを使ったりする作業は全くなかったのでそこは少し残念でした。

4 今後の学生生活に生かしたいこと

私が特に前もってやっておけばよかったと言うことはほぼ無いに等しかったですがしいて言えば丁寧な英語表現をもう少し学んでいれば良かったかなとも思いました。普段は語学学校の友達と喋ったり特にそこまで気を使って喋るということが無かったので、後々働き出した時に周りのネイティブの友人に聞くなどをして気をつけて喋るようにしていまいたがやはり最初から準備していけおけば良かったと思いました。そして、これからの課題は今回のインターンも含めてもっと英語を上達させたいと思ったので今年はIELTSかTOFELに挑戦して点をあげたいと思っています。後にする事になる就活に役立てばいいなと思いました。今回自分の受けたTOEICの点数も上がっていたので前より少し成長できているのではないかと思いました。

1 履修の目的・目標

実際に英語に触れて現地の方と積極的に会話をし、少しでも英語に慣れて英語に対する恐怖心をなくすこと。
海外でのインターンを経験して日本との働き方の違いを考えること。
海外での2ヶ月という貴重な経験を通してこれからの将来について視野を広げること。私はこの3つを目標にしました。

2 研修で最も印象にのこったことについて

私のインターン先がアトリエと売り場が併設しているお店だったので、主に衣服の作成の手伝いと売り場整理、商品チェックなどの作業でした。衣服作成に関しては型紙の作成や布の裁断、ビーズの仕分けや針の整理などの雑用も行いました。一番多かったのはレース生地から刺繍の装飾部分を切り出す作業です。これはとても細かい作業で量も多かったので集中力が必要となる作業でした。商品チェックは届いた商品に不備がないか、糸が出ているところは切るなどをしてその後スチームをかけます。あとはタグの仕分けや時期が合わない冬服の入れ替えや仕分けなどを行いました。スチーマーを初めて使ったのもあってなかなか慣れることが出来なくて一着直すのにとても時間がかかりました。とても熱いのでやけどに注意しながらドレスなどを裏表、上から下までかけるので全身を使う作業でした。

3 研修を通して気づいた事・学んだこと

インターンで学んだことは働き方の自由さです。私は裁縫に関しては初心者だったため作るのを見ていただけでしたが、デザイナーが思いついたものをすぐに絵にして形にして、それが出来るアトリエでした。家族ぐるみでやっていたブランドというのもあり、とてもアットホームで皆さんがのびのびと働いており海外らしさを感じました。前半通っていた語学学校では様々な年齢層、様々な国籍の方がたくさんいて、ここに来なければ絶対に話すこともなかったであろう方とたくさん出会い、カタコトの英語でもなんとか会話をして、授業中では問題を教え合ったりもしました。今回の研修を通して何もかもが違う人でも英語があればわかり合える、伝えようという気持ちがあれば理解ができると言うことを身にしみて感じました。

4 今後の学生生活に生かしたいこと

英語に関しては圧倒的な準備不足で、単語はもちろんですが語学学校では授業は英語なのでそれが聞き取れず何をするのかが、何を説明しているのかがわからないということが多々あったのでリスニングCDなどを聞いたり少しでも耳を慣らしておくべきでした。そしてその時にわからないことがあったら日本語で日本人の友達に聞くと言うことも少なくはなかったので、わからないことをしっかりと先生に主張することが必要だったと思いました。外国人の方は自主性だったり自分の思ったことを真っ先に言ったり恥ずかしいなどの言いづらい空気などは全くなく私も見習いたいと思いました。英語が話せるということは今までの何倍もいろんな人との交流の機会に繋がるのでこれからも英語を続けて人との繋がりを大事にしていきたいと思います。

1 履修の目的・目標

ファッション、芸術が盛んなイギリス・ロンドンで学び、ファッションに関する視野、知識を広げ、今後の方向性を明確にする。また、インターナショナルな環境で本場の英語に触れ、現段階の自分の英語力を把握し、向上させる。

2 研修で最も印象にのこったことについて

ロンドン芸術大学、語学学校であるLanguage Centerへ週5回とファッションスクールであるLondon Collage of Fashionへ週２回通った。午前中の語学学校では、1日3時間スピーキングを中心とした学習に取り組んだ。アジアやヨーロッパ、南米など多国籍の環境の中でコミュニケーションをとり、様々な議題に関してディスカッションを行った。芸大の語学学校ということもあり、ファッションやアートに関するテーマをもとに学ぶことが多かった。午後は週2回キャンパスを移動し、ファッションスクールへ通った。スタイリングや服の制作、VMDに関して学んだ。専門用語を用いてグループディスカッション等でアイディアを共有した。

3 研修を通して気づいた事・学んだこと

語学学習に関しては、グループワークが多く、また英語のレベルごとにクラス分けがされていたので、同じ目線で積極的に取り組むことができた。また、ディスカッション等を通して、自分の意見を躊躇わずに相手に伝える姿勢の大切さを実感した。現地でできた友達やハウスメイトとの交流など学内だけではなく学外でも英語を話す機会をたくさんつくることができ、目標であった英語力の向上は概ねできたと感じる。ファッションスクールでの研修は専門用語が多く授業についていくのが大変だった。インターナショナルな環境で様々な意見が飛び交い刺激を受けた。

4 今後の学生生活に生かしたいこと

語学に関して、英語を話す機会が多くアウトプットする機会はかなり多かったが、語彙など自分一人でできるインプットの学習を事前にもっと取り組むべきだったと感じた。自分が言いたいことが言えない悔しさが残ることが多かった。語彙力向上は帰国後の課題となった。また、現地の学生と交流して自分の積極性の無さを痛感した。現地の百貨店へと足を運び、学校の図書館の資料等で歴史や起源、発展の過程を調べたことで日本とイギリスの百貨店の違いや特徴について今後詳しく調査していこうという課題も見つかった。

1 履修の目的・目標

語学留学は、英語力の向上はもちろん様々な国の方々と交流し、文化や考えの違いを体験する事を目的としました。また、インターンシップは自身のキャリア形成を考える機会とする事や、実際に会社の中に入る事で会社の業務の流れや商業施設業界のしくみを知る事、それらを通して社会人として必要なスキルを把握し自分に足りないものを自覚する事などを設定しました。

2 研修で最も印象にのこったことについて

前半の1か月と後半の1か月に分け、2つの部署で業務を行いました。前半はテナントの店長さんなどと密にコミュニケーションを取り運営に携わるオペレーション部署で、飲食店の覆面調査や初売りやバーゲン時の行列整理、テナントの店長面談同席、運営会議の同席、フロア巡回、展示会同行、SNS更新などを行いました。後半は経理・総務部署に移動し、売り上げ会議の同席や決裁書の作成、カード端末のメンテナンスや、請求書の作成、検収作業や、SCビジネスフェアの参加、同業他社視察などを行いました。オペレーション部署では、外部の方と接する機会が多く、一社会人として失礼の無い態度を意識し関わる機会が多く、ビジネスマナーを知る機会となりました。経理・総務部署ではexcelやword,power pointを使う事が多く、それらのスキルが向上しました。

3 研修を通して気づいた事・学んだこと

今回の語学留学では、大学付属の語学専門学校を選択しキャンパス内の学生寮で生活を送り、スポーツクラブにも入部していたため語学だけでない友情や特別な思い出を作る事が出来、また自炊や家事を自分で行い自立する事が出来ました。インターンシップでは、大きく目立つ仕事から裏方であっても大切な仕事まで、様々な部署の様々な方が居て一つの会社が成り立っている

という事を学びました。また、テナントの店長さんとの面談に同席したり、展示会に同行をし、既存や新しい人間関係を大切にする

事の大切さも実感しました。そして、数々の打ち合わせに同席させて頂き、世の中には数え切れないほどの企業、仕事があり

どの企業の方も皆様本気で取り組んでいるという事を学びました。業務スキル以外にも訪問先に入る前に上着を脱いでおく事など初歩的ではありますが大切なマナーも学ぶ事が出来ました。

4 今後の学生生活に生かしたいこと

やはり自分の英語力の乏しさは痛感しました。事前に英会話スクールに通っていましたが、現地でインド人の方など強いアクセントを持つ人達と会話をしたりアメリカのネイティブのスピードの速い会話に混ざった際に全く聞き取れない自分が居て驚きました。そして自分が英会話スクールではずっと綺麗な英語を聞いてたにも関わらず自信を持ってしまっていた事に気が付きました。事前準備として英語の勉強は必要不可欠だと思います。また何事も自分はまだまだだという謙虚さを持つことが大切だと気づきました。インターンシップでは、自ら仕事を探しに行く事をもっとすべきだったと思いました。スケジューリングされた業務をこなして満足してしまう事が多かったのですが、手が空いた際に積極的に自分に出来る事が無いか尋ねる事で得られた仕事もあったと思いました。また、excelやpower pointのスキルは高ければ高い程役に立つと思いました。

1 履修の目的・目標

語学研修では、今まで英語を話す機会がほとんどなかったので、まずは英語を話すことへの抵抗をなくすこと、間違えることを恐れずに話すことを一番に考えていました。後は、他国の文化について知ることを目的としていました。

企業研修では、大手アパレル企業の形態、仕組みを知ること、そして職種の役割について学ぶことでした。現時点で日本での就職を希望しているので、日本の企業についてまずは知りたいと思いました。

2 研修で最も印象にのこったことについて

語学学校のTAFEでは、英語の基礎から学ぶことが出来ました。一つにテーマについて英語で意見を伝え合うことが多く、英語を学ぶと同時に、文化も価値観も違うクラスメイトの子たちから色んな意見を聞くことができて、それもまた勉強になりました。

オンワード樫山では、カルバンクライン事業部で二週間、生産管理部で二週間のインターンシップをしました。カルバンクライン事業部では主にMDの仕事について、学ばせて頂きました。NYチームとの会議やデザイナーやパタンナーの方たちの打ち合わせに同席、資料作成、生産展示会の見学、サンプルを実際にモデルさんに着せてみて、修正点がないかを確認する補正現場の見学もさせて頂きました。生産管理部では、資料作成、決算の時期だったので、伝票作成や工場の方が納期の目安として使うパターン受注納期カレンダーを作成しました。他にも指図書、INVOICEの作成などをしました。資料作成の際、Excelを使うことが多かったです。

3 研修を通して気づいた事・学んだこと

語学研修で学んだことは、間違いを恐れず、まずは単語、単語になっても相手に伝えようとすること、そして相手の言いたいことを理解しようとすることです。雰囲気で分かったつもりにならないように、きちんと確認する。聞き取れなかったら聞き返す、ゆっくり話してもらう等、分かるように努力することが大事だと思いました。

企業研修で学んだことは、事業部と生産管理部の違う部署で働けたことで、アパレル企業の一連の流れを理解することができました。そして商品が販売されるまでにどれだけの期間と人員がかかっているのか知ることが出来ました。今まで授業で学んだことが、実際に今回企業で働けたことで、より具体的に理解することが出来ました。アパレル企業はデザイナーやプレスなど華やかなイメージを持つ職種だけでなく、裏方の方たちの支えによって製品の品質が保たれていること、私たちの元に届いていることを忘れてはいけないと思いました。

4 今後の学生生活に生かしたいこと

言いたいことが英語で出てこなくて悔しい思いをしたので、英語の語彙力を少しでも増やしておくべきだったと思いました。日常でよく出る英会話表現を勉強しておくのも良いなと思います。相手の話している英語が分からないときに、曖昧な返事をしてしまったので、きちんと相手に聞き返して確認すれば良かったと思いました。日本とは文化も考え方も違う人が多くいることを理解すること、その環境に馴染もうとすることが必要だったと思いました。

企業研修では、教えてもらう知識のほうが圧倒的に多くて受け身になりがちでしたが、細かいところまで知るためにもっと積極的になるべきでした。自分が配属された部署の方の名前は、できるだけ覚えるようにメモをとるなり、教えてもらうべきでした。

平成30年度AP梅春学期長期学外学修プログラム成果報告会
ファッション分野における～グローバル創造力の養成～

梅春科目については、例年、プログラムごとに事後教育で報告会を実施してきたが、平成30年度は、初めて一般公開して国内・海外科目合同で、学生による成果報告会を実施した。報告会を通して、本事業への外部評価を頂くことと、併せて本学園全体への本事業の浸透を高めることを目的とした。開催詳細は以下の通りである。

◇実施概要

日時：2019年5月22日（水）　16:30 ～ 18:30

会場：文化学園大学A館講堂（A201）

◇プログラム

16:30 ～ 16:35	開会挨拶	清木孝悦（理事・事務局長、APプログラム推進協議会副委員長）
16:35 ～ 16:45	AP事業概要説明	須山憲之（服装学部教授）
16:45 ～ 18:15	成果報告発表	参加学生（ニューヨーク、シドニー・メルボルン、岩手、東京、長野、新潟、山形、山梨）
18:15 ～ 18:30	講評・閉会挨拶	松田祐之（服装学部教授）

文科省4名、企業7名、教員31名　学事・教務8名

学院・国際交流・就職支援室9名

学生126名　　合計185名

◇成果と課題

学生による成果報告では、各科目における目標設定を踏まえ、研修で取り組んだ内容やそこから得られた「気づき」や「学び」が提示された。また、学外だけではなく、学内の教職員にとっても、梅春科目の内容を深く理解する機会となった。

動画や画像とともに伝えられた研修内容は本年度の受講学生にとって、２月から実施される研修を具体的にイメージするのに役立つだけでなく、明確な目的や動機を持って研修にのぞまなければならないことを感じさせるものであった。

一方で、発表時間の長さや質疑応答を設けなかったことなど、成果報告会の開催方法については改善の余地が残っており、より効果的な報告会にすべく検討する必要があると考えらえれる。

長期学外学修プログラム 2018年度報告書

発行日：2019年7月31日
発　行：文化学園大学
〒151-8523 渋谷区代々木3-22-1
03(3299)2019